

令和7年度（令和6年度からの繰越分）  
こどもの居場所づくり支援体制強化事業  
「こどもの居場所」多様化推進事業  
実施報告書

令和8年3月31日  
徳島県

## 目次

1	事業実施の背景と位置づけ	2
2	事業要旨	2
3	事業の実施内容	3
1	プロポーザル型公募による事業者選定実施スケジュール	3
2	事業者選定	3
3	実施内容・成果等	5
	(1) モデル的な先進事例企画・運営業務	2
	(2) 「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務	12
	(3) 不登校のこどもの居場所コーディネート業務	24
	(4) 「こどもの居場所」づくりガイドブック	10
4	分析・考察	11
別添1	モデル的な先進事例企画・運営業務実施報告書（(公財)大阪YMCA）	12
別添2	モデル的な先進事例企画・運営業務実施報告書（みらいユナイト）	24
別添3	モデル的な先進事例企画・運営業務実施報告書 （(一社)うみのこてらす）	34
別添4	「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務実施報告書 （(公社)徳島県労働者福祉協議会）	43
別添5	不登校のこどもの居場所コーディネート業務実施報告書 （(一社)ひとみ学舎）	75
別添6	「こどもの居場所」づくりガイドブック	125

## 1 事業実施の背景と位置づけ

本県におけるこどもの居場所づくりは、これまでも地域住民やNPO法人等の尽力により、量的拡大という面で一定の成果を上げてきた。しかしながら、少子高齢化や核家族化、共働き世帯の増加といった社会構造の変化を背景として、こどもを取り巻く貧困、虐待、不登校などの課題は、より複合化・深刻化している。

本事業は、単なる「居場所の増設」ではなく、多様なアプローチの実証及び多機関連携の構築等を通じて、地域におけるこどもと家庭への支援の仕組みづくりの一環として、次の視点により実施した。

### 1 多様なアプローチによる居場所づくり

支援に繋がりにくい10代の中高校生等を対象とした居場所をはじめ、外遊びや体験機会の提供等、単一的ではない様々なアプローチにより、居場所の質を向上させる。

### 2 保護者支援を通じたこどもへの支援

こどもの不登校や発達上の偏りに対し、保護者自身が周囲から孤立し、将来への不安や自責の念を抱え込むケースが散見される。公的支援（教育支援センター）やフリースクールなど、地域に存在する多様な居場所と不登校のこども・家庭とを適切に結びつけるコーディネートを実施する。

### 3 多機関連携

こどもの課題が複雑に絡み合う中、教育、福祉、行政、医療が連携する「多機関連携」が不可欠だが、連携の進み方に大きな差があるのが実情である。また、多くの団体が、行政の単年度の補助金又は自己資金により運営しているとともに、人手不足の問題を抱えている。「こどもの居場所」が地域で持続可能な活動を行うためには、地域の支援機関との連携を強化していくことが重要である。

## 2 事業要旨

### 1 実施主体

徳島県（こども未来部こども家庭支援課）

### 2 事業名

「こどもの居場所」多様化推進事業

(1) モデル的な先進事例企画・運営業務

(2) 「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務

- (3) 不登校のこどもの居場所コーディネート業務
- (4) 徳島県「こどもの居場所」づくりガイドブックの作成

### 3 予算額

5,000千円

### 4 実施期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

## 3 事業の実施内容

### 1 プロポーザル型公募による事業者選定実施スケジュール

令和7年5月7日 委託事業者選定委員会設置

令和7年5月7日 事業者募集開始

令和7年5月19日 参加表明提出期限

令和7年5月30日 企画提案書提出期限

令和7年6月3日から6月20日 選定委員会による書面審査

令和7年6月24日 契約候補者選定

(1) モデル的な先進事例企画・運営業務 3者

(2) 「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務 1者

(3) 不登校のこどもの居場所コーディネート業務 1者

令和7年6月25日 委託契約締結（契約期間 令和8年3月31日まで）

### 2 事業者選定

#### (1) 委託事業者選定委員会

【委員構成】徳島県子ども未来部子ども家庭支援課長

とくしま子ども未来会議政策戦略部会長

とくしま子ども未来会議母子福祉資金審査部会長

公益財団法人徳島県母子寡婦福祉連合会事務局長

#### (2) 選定に係る評価項目及び評価事項

評価項目	モデル的な先進事例企画・運営業務	「こどもの居場所」フォーラム 企画・運営業務	不登校のこどもの居場所 コーディネート業務
企画提案の 妥当性	①業務に関する基本的な考え方、概要は事業の目的及び内容を十分理解した企画提案となっているか。	①業務に関する基本的な考え方、概要は事業の目的及び内容を十分理解した企画提案となっているか。	①業務に関する基本的な考え方、概要は事業の目的及び内容を十分理解した企画提案となっているか。
	②業務の全体的なスケジュールは、適正に設定され、実施可能な内容となっているか。	②業務の全体的なスケジュールは、適正に設定され、実施可能な内容となっているか。	②業務の全体的なスケジュールは、適正に設定され、実施可能な内容となっているか。
業務実績	③類似・同種の活動実績があり、業務実施に必要なノウハウを十分有しているか。	③類似・同種の業務実績があり、業務実施に必要なノウハウを十分有しているか。	③類似・同種の活動実績があり、業務実施に必要なノウハウを十分有しているか。
業務実施体制	④業務を円滑に実施するために必要な人員・会場が確保できている等適切な運営体制を有しているか。	④業務を円滑に実施するために必要な人員及び設備が確保できている等適切な運営体制を有しているか。	④業務を円滑に実施するために必要な人員が確保できている等適切な運営体制を有しているか。
提案内容の 具体性	⑤県内におけるモデル的な先進事例として、実施内容が具体的に提案されているか。	⑤「未来の居場所」を共創するアイデアソンの内容について、具体的に提案されているか。	⑤こどもと家庭を居場所や相談窓口につなぐコーディネートの手法について具体的に提案されているか。
	⑥効果的な業務実施のため、関係機関との連携内容が具体的に提案されているか。	⑥先進事例ピッチセッションの内容について、具体的に提案されているか。	⑥交流会の内容が具体的に提案されているか。
	⑦業務実施にあたり、評価すべき活動実績や専門性、ノウハウ、ネットワークを有しているか。	⑦広報デザイン等を含めた効果的な周知方法について具体的に提案されているか。	⑦支援情報の収集方法が具体的に提案されているか。
経費の妥当性	⑧効率的で妥当と認められる経費が見積もられているか。	⑧効率的で妥当と認められる経費が見積もられているか。	⑧効率的で妥当と認められる経費が見積もられているか。

### (3) 評価・選定方法

- ・選定委員は、企画提案書に基づき、上記評価事項毎に5段階評価により評価と採点を行う。
- ・各委員の得点を集計し、総得点の高い方から順位をつけ、委託料上限額の範囲内で委託候補者を選定する。
- ・平均点が下限点数（平均60点）を満たさない企画提案者は、委託候補者として選定しない。

#### (4) 選定結果概要

委託業務	事業者名	場所	活動内容
モデル的な先進事例企画・運営業務	(公財)大阪YMCA (徳島YMCA)	八万児童館ほか	屋外等による運動・自然体験活動の提供
	みらいユナイト	徳島市しらすぎ台まちづくり活動センター	「自分でつくる」体験型子ども食堂の開催
	(一社)うみのこてらす	とくぎんトモニプラザ	支援に繋がりにくい中高生を対象とした、飲食を契機とした支援へのつながりづくり(フリーカフェ)
「こどもの居場所」共創フォーラム企画・運営業務	(公社)徳島県労働者福祉協議会	徳島市	講演、先進事例発表、グループワーク
不登校のこどもの居場所コーディネート業務	(一社)ひとみ学舎	①3圏域 ②鳴門市	①保護者交流・研修会 ②こどもの居場所の会

### 3 実施内容・成果等

#### (1) モデル的な先進事例企画・運営業務

本業務では、「こどもの居場所」の多様化を図るため、特性の異なる3団体に委託し、それぞれのフィールドで実証を行った。

##### ① 自然体験・外あそび型「ワイ・Y・プレイパーク」(公益財団法人大阪YMCA)

###### ア 仮説

近年、子どもたちが自由に体を動かし、リスクを伴う遊びを経験する機会が激減している。自然物を活用した「非日常の遊び」を大人の過度な管理なしに提供することで、こどもの自発性や挑戦する意欲を引き出せると仮定した。

###### イ 実施内容

八万中央児童館、月見ヶ丘海浜公園、桜づつみ公園など、県内各地の公園や施設を巡回し、全7回の移動型プレイパークを開催した。プログラムは、2本の木にロープを張ってバランスを取る「モンキーロープ」や、大きな木の枝を利用した「ネイチャーブランコ」、落ち葉や桜の花びらを集めた「葉っぱプール」など、自然環境を活用したものを常時設置しました。さらに、時間を区切って参加者全員で「パラバルーン」を実施し、初対面の子ども同士や保護者が一体感を持てる工夫を施した。

###### ウ 課題

交通量の多い道路に面した公園では安全確保が困難で、実施を断念したケースや、公園使用申請の手続きが煩雑であるという課題が浮き彫りになった。

## エ 定量的な成果

合計約 420 名（約 100 家族）が参加し、特にリピーターが多く、SNS での発信を見て来園した家族も多数見受けられ、広域的な集客力と「外遊び」に対する潜在的ニーズの高さが証明された。

## オ 定性的な成果

自然を活用するにあたり、樹木を傷つけない保護措置を徹底し、持続可能な外遊びのモデルを提示した。また、大学生・高校生リーダーを配置し、こどもたちにとって「一緒に走り回ってくれる身近な存在（ななめの関係）」を構築したことが、リピーターにつながった。また、外遊びやロープ遊びを通じたこどもの姿を見ることで、保護者のこどもへの接し方や見方に前向きな変化が現れるとともに、モンキーロープや自然物（葉っぱ等）を用いた工夫がこどもの創造性を刺激し、自然環境という地域リソースの再発見につながった。

## ② 生活力育成・家庭還元型「体験型子ども食堂 サンシャインキッチン」 （みらいユナイト）

### ア 仮説

既存の子ども食堂の多くは「出来上がった食事を提供する」形態ですが、それでは「子ども食堂を渡り歩く」消費的な利用に陥りやすく、生活体験や親子の関係性構築に寄与しにくいという課題意識のもと、こども自身が調理を体験し、家族の分を持ち帰ることで、支援の効果を家庭内に還元（波及）できると仮定した。

### イ 実施内容

徳島市内のまちづくり活動センター等を会場に、全 8 回実施した。カップ寿司づくり、おにぎらず、レンチンで作るドーナツなど、こどもが主体的に調理・盛り付けを行うプログラムを提供するとともに、防災週間にはアルファ米の試食等の防災食ワークショップを実施し、災害時の食への安心感を体験的に学ぶ機会とした。

### ウ 課題

好き嫌いへの過度な個別対応要望や兄弟児間のトラブルといった課題にも直面した。

## エ 定量的な成果

全 8 回の開催において、大人 178 名、こども 246 名、合計 424 名が参加した。事前予約制による弁当持ち帰り方式という新たな形態にも関わらず、毎回安定した参加者数を

維持し、地域に定着した居場所としての実績を残した。

#### オ 定性的な成果

単なる食事提供にとどまらず、「こどもが作ったお弁当を家族で食べる（共食の機会創出）」「保護者の家事負担の圧縮」「『おいしいね』という親子対話の誘発」という複合的な効果を生み出した。活動を通じてこどもの自己効力感と生活スキルが目に見えて向上していくプロセスが確認された。

### ③ 既存施設活用型「10代のためのフリーカフェ」（一般社団法人うみのこてらす）

#### ア 仮説

10代の若者は、困りごとがあっても福祉的な「相談窓口」には自ら足を運ぶことが少ない恐れがあることから、「すでに若者が集まっている場所」にこちらから出向き、食をフックにして関係性を築く「アウトリーチ型」のアプローチが、潜在的な課題を抱える層へのリーチに不可欠であると仮定した。

#### イ 実施内容

徳島市内の青少年センター（とくぎんトモニプラザ）にて、月1回（第4金曜日）、16時から19時にフリーカフェを開催した。センター内で過ごしている中高生に対し、大学生ボランティアが「おにぎりや豚汁を食べない？」と声をかけ、食事を共にしながら自然な対話と関係性を生み出した。

#### ウ 定量的な成果

支援の押し付けを避け、「まず関係をつくること」を最優先とした。単発の関係で終わらせないため、公式LINEのQRコード付き名刺を配布し、食事提供時にはLINE登録を必須とした結果、期間中の登録者数は362名に達し、月1回の開催において、毎回平均50名程度の10代が自発的に参加し、福祉的看板を掲げない自然なアプローチが、支援の網から漏れがちな若年層を捕捉する上で有効であることが実証された。

#### エ 定性的な成果

LINEのプッシュ配信を通じて「いのちSOS」や「ヤングテレホン」といった相談窓口を案内する仕組みを構築した。この「食事・会話 → LINE登録 → 関係機関等への誘導」という段階的な導線設計は、思春期の若者の心理的ハードルを下げるモデルとして機能した。

### （2）「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務

### ①狙い

多様な居場所づくりを推進するため、広範なステークホルダー（教育、福祉、企業、こども自身）が目的を共有し、「こどもの声」を起点として「居場所」のアイデアを共創する場とすることを狙いとした。

### ②実施内容

・日時

令和7年11月14日（金）13時30分から16時30分

・場所

徳島県教育会館5階大ホール（徳島市北田宮1丁目8-68）

・内容

講演：「こどもたちとつくるこどもの居場所」

NPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重 忠孝

先進事例ピッチセッション：

登壇者 一般社団法人ひとみ学舎、NPO法人YOU&ゆう、  
一般社団法人うみのこてらす、鴨島児童館、  
板野町子ども家庭総合支援センター

「未来の居場所」を共創するアイデアソン：

事前にヒアリングしたこどもたちの声（楽しみにしていること、心配なこと等）や、こども・若者自身（3名）による「生の声」の発表をふまえ、17グループに分かれ、「わたしたちが考えるこどもの居場所」「実現に必要な資源」「社会・行政への要望」についてグループワークを実施

### ③定量的な成果

申込者104名に対し、当日は94名（NPO法人16名、行政職員15名、教育・児童福祉関係者18名など多職種）が参加した。アンケート（回収率38.3%）の結果、「たいへん参考になった（58.3%）」「まあまあ参考になった（38.9%）」を合わせ、97.2%という極めて高い満足度を記録した。

### ④定性的な成果

アイデアソンにおける若者の発表について、参加者から「こどもの居場所は役所の机の上での協議だけでは見つけられないと思った」、「大人ばかりが意欲的にならず、当事者たちに目を向けている感じがした」、「子どもたち本人が『ここにいていい』と思う場所でないとならないのだと思った」といった声が多数寄せられた。また、アイデアソンを通じて、「空き家や商店街などの社会施設を利用する」、「農家や高齢者施設とタイアップする」といった、地域のつながりや既存資源を有効活用する具体的な居場所モデル

が多数提案された。

#### ⑤課題

民間企業の参加者が4名にとどまったことは大きな反省点であり、今後は経済団体との連携を強化する必要がある。

### (3) 不登校のこどもの居場所コーディネート業務

#### ①狙い

不登校傾向にあるこどもの保護者を対象に、悩みの共有やピアサポートを通じたネットワーク形成を支援し、こどもを適切な居場所へつなぐコーディネート業務を実施する。

#### ②実施内容

保護者とこどもの状況（フェーズ）に応じた3層構造のプログラムを全23回実施した。

##### ・親いもの会（保護者向け学習・交流会）

「ゲーム障害の理解と対応（精神科医）」、「からだの声を聴く・ポリヴェーガル理論（スクールカウンセラー）」、「インクルーシブ教育」、「福祉サービス（就労支援A型事業所等）」など、保護者が直面する切実なテーマで専門家による講演を実施した。その後、参加者同士で「我が家の現状」を共有し、孤立感を和らげる対話の場を持った。

##### ・居場所の会（体験型プログラム）

こどもと保護者、スタッフが共に活動する場として、流しそうめん、野外料理（BBQ）、運動会、クリスマス会（ピザ作り）、凧あげ、味噌づくり等の具体的な「目的」を持たせた体験活動を実施した。全員で行う時間と自由に選べる時間を設け、こどもの主体性を引き出した。

##### ・『この子』の学びを探す会（個別支援計画策定ワークショップ）

保護者が『この子』理解・支援シートを作成し、参加者同士（保護者、教員、行政職員、NPO等）で見立て合いを行い、こどもの特性を客観視し、学校等との連携に向けた具体的な役割分担を整理した。

#### ③運営の工夫・課題

「親いもの会」では、県南部（阿南市）や西部（美馬市）への広域展開を図り、オンライン（Zoom）も併用することで、アクセス困難な地域の保護者支援を実施した。「居場所の会」では、「全員で行う時間」と「自由に選べる時間（ボードゲーム等）」を併設し、不登校児童の心理的負担を軽減する活動プログラムとした。また、味噌づくりで「大豆を煮る匂い」に対する感覚過敏で参加を断念したケースを受け、屋外での煮炊きや別プログラムの並行実施など、環境構成の柔軟な調整を行った。また、「学びを探す会」

では、保護者が「向き合う苦しさ」に直面する場面もあり、専門職（心理職等）が伴走し、保護者の心理的負担を継続的に支える体制の必要性を認識した。

#### ④定量的な成果

延べ133名が参加した。

#### ⑤定性的な成果

保護者に加え、教員、民生委員、行政職員、NPO関係者など多職種が参画し、地域を越えた交流が促進された。また、「この子理解・支援シート」の作成を通じて、保護者が家庭内での育児の閉塞感や焦り、自責の念からの解放され、心理的負担が軽減し、こどもの実態を冷静に整理する効果が確認された。さらに、大学生や高校生など、年齢の近い「ななめの関係」のスタッフを配置したことで、こどもたちが安心感を持って活動に参加し、継続的な居場所利用につながった。

#### （4）「こどもの居場所」づくりガイドブック

国立大学法人鳴門教育大学大学院及び四国大学の有識者監修のもと、全国食支援活動協力会や県内のこども食堂運営ネットワーク等の協力を得て、コンセプトづくりから事業計画、リスクマネジメント、地域ネットワークの構築、事業の振り返りに至るまで、運営の全プロセスを体系化し、ワークシートやチェックリスト等のツールを含めた『徳島県「こどもの居場所」づくりガイドブック～「こどもまんなか」で「居たい・行きたい・やってみたい」を育む～』を策定した。

#### ①内容

##### 第1章 コンセプトづくり

こどもの声を起点とする重要性を提示

##### 第2章 事業計画

人材・資金・場所の確保等の具体的手法を明記

##### 第3章 リスクマネジメント

保健所への届出フローや安全配慮、こどもの権利擁護について網羅

##### 第4章 連携とネットワークづくり

こどもの「SOS」に気づく視点と対応フローを提示

##### 第5章 振り返りと「強み」の発見：

継続的な質的向上のための評価リストを導入

#### ②効果

・これまで抽象的になりがちだった「こどもまんなか」の概念を、「みんなで描く『居

場所』のキャンパス」というワークシートに落とし込んだことで、誰でも容易にこどもの意見を運営に反映できる仕組みとして整理した。また、衛生管理や緊急時連絡のリストを整理し、運営者のリスク管理面での心理的負担を軽減した。さらに、「居場所の『強み』振り返りリスト」を設けたことで、運営者が自団体の活動を客観視し、地域における役割（強み）を再認識する機会を創出した。

#### 4 分析・考察

（一社）うみのこてらすの実証が示す通り、青少年センターという「誰もが利用できる既存インフラ」をフィールドに選定し、食事提供を契機として自然に声をかける手法は、潜在的な困りごとを抱える若者層へのアプローチとして有効である。さらに、そこから公式 LINE を通じたデジタルな繋がりを構築し、必要に応じて専門的な相談窓口へ誘導する「段階的な導線設計」は、対面を苦手とする若者に適した仕組みと言える。

また、みらいユナイットの体験型子ども食堂における「自ら弁当を作り、家族へ持ち帰る」というプロセスは、こどもの自己効力感を高めるだけでなく、家庭内での共食や対話を誘発し、保護者の負担軽減につながった。大阪 YMCA のプレイパーク等で配置された大学生・高校生ボランティアは、こどもにとって親や教師とは異なる「ななめの関係」として機能し、心理的安全性の担保と自己開示の後押しに有効であった。

不登校のこどもと保護者への支援としては、（一社）ひとみ学舎の実践から、不登校支援において、こどもの状態に応じて、「個別支援」、「学習支援」、「体験活動」という複数のアプローチを用意し、自由に行き来できる環境を保障することが重要である。さらに、保護者とともに『『この子』理解・支援シート』を作成し、こども自身が自らの特性（強み・弱み）を理解し、必要な配慮を周囲へ発信する力を育むことは、社会的自立に向けた環境調整の手法として実践的である。さらに、民間団体が学校と家庭の間に立ち、客観的なデータ（支援シート等）に基づいてこどもの状況や具体的な配慮事項を保護者と仲立ちして伝えることの有効性が確認された。教育現場の多忙さを補完し、多機関連携（医療・福祉等）のハブとなる「コーディネート機能」を地域に実装することが重要である。

いずれにおいても、地域資源を総動員した多機関連携による支援の仕組みが必要不可欠であり、民間団体の主体的な活動が地域で持続するためには、定期的に関係機関が参集するネットワークづくりの場を設けることが重要である。

令和 8年 3月19日

徳島県知事 様

## 徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業 実施報告書

大阪府大阪市西区土佐堀1-5-6

公益財団法人 大阪YMCA

代表理事 小川 健一郎

### I. 実施概要

#### 1. 実施日時

- ① 2025年9月27日(土) 10:00~16:00
- ② 2025年10月18日(土) 10:00~14:00
- ③ 2025年11月29日(土) 10:00~14:00
- ④ 2025年12月6日(土) 10:00~14:00
- ⑤ 2026年1月17日(土) 10:00~14:00
- ⑥ 2026年2月28日(土) 10:00~14:00
- ⑦ 2026年3月14日(土) 10:00~14:00

#### 2. 場所

- ① 八万中央児童館 (八万コミュニティーセンター 徳島市八万町内浜80-14)
- ② 月見ヶ丘海浜公園 (海水浴場砂浜周辺 板野郡松茂町豊岡字山ノ手42)
- ③ 桜づつみ公園 (中央広場周辺 板野郡藍住町東中富字西傍示51-1)
- ④ 徳島中央公園 (遊具施設周辺広場 徳島市徳島町城内1番外)
- ⑤ ウチノ海総合公園 (デイキャンプ棟前広場 鳴門市鳴門町高島北679)
- ⑥ 桜づつみ公園 (中央広場周辺 板野郡藍住町東中富字西傍示51-1)
- ⑦ 徳島中央公園 (遊具施設周辺広場 徳島市徳島町城内1番外)

#### 3. 実施体制

- ① 第一回目 八万中央児童館  
事業運営責任者 竹中 豊明(全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当)  
プログラムスタッフ 大学生リーダー4名、高校生リーダー1名  
配置状況 運動あそび/ボールあそび/ベランダあそび(各1名)  
ネイチャークラフト(2名)
- ② 第二回目 月見ヶ丘海浜公園  
事業運営責任者 竹中 豊明(全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当)  
プログラムスタッフ 大学生リーダー4名、高校生リーダー1名  
配置状況 ネイチャークラフト/運動あそび/ボールあそび(各1名)  
砂浜あそび(2名)

- ③ 第三回目 桜つつみ公園  
 事業運営責任者 竹中 豊明（全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当）  
 プログラムスタッフ 大学生リーダー5名  
 配置状況 ネイチャークラフト／運動あそび／ボールあそび／モンキーロープ  
 葉っぱプール（各1名）
- ④ 第四回目 徳島中央公園  
 事業運営責任者 竹中 豊明（全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当）  
 プログラムスタッフ 大学生リーダー4名・高校生リーダー1名  
 配置状況 ネイチャークラフト／運動あそび／ボールあそび／葉っぱプール  
 なわとびチャレンジ（各1名）
- ⑤ 第五回目 ウチノ海総合公園  
 事業運営責任者 竹中 豊明（全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当）  
 プログラムスタッフ 大学生リーダー4名、高校生リーダー1名  
 配置状況 ネイチャークラフト／運動あそび・ボールあそび／モンキーロープ  
 なわとびチャレンジ／火付け体験（各1名）
- ⑥ 第六回目 桜つつみ公園  
 事業運営責任者 竹中 豊明（全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当）  
 プログラムスタッフ 大学生リーダー5名  
 配置状況 ネイチャークラフト／運動あそび／ボールあそび／モンキーロープ  
 ネイチャーブランコ（各1名）
- ⑦ 第七回目 徳島中央公園  
 事業運営責任者 竹中 豊明（全体管理、時間指定プログラムのパラバルーンを担当）  
 プログラムスタッフ 大学生リーダー5名  
 配置状況 ネイチャークラフト／運動あそび／ボールあそび／葉っぱプール  
 なわとびチャレンジ（各1名）

#### 4. 実施内容

【常時設置プログラム】 ※自然へのインパクトを抑えるため、保護を施して設置。

##### ■ モンキーロープ

- 2本の木を軸に張られたロープに乗り、上ロープを握りながら下ロープから落ちないようにバランスをとりながらスタートからゴールまで進むあそびを実施。
- 対象によって上ロープを持つ時間を指定しあそびを実施。

##### ■ ネイチャーブランコ

- 大きな木の枝にロープと木（椅子部分）を使用して設置したブランコあそびを実施。
- 対象によって、座り漕ぎや立ち漕ぎ等の遊び、また指導者が背中を押しながらふり幅、速度を調整し実施。

##### ■ ボールあそび

- 広場にサッカーゴールを設置し、ボールを使った、投げる・蹴るなどの自由なボールあそびができるコーナーを実施。

■ 運動あそび（コーディネーショントレーニング）

➢ 公園に備え付けられたアスレチックと合わせて、広場にコーン、ウィープレー（でこぼこ一本橋）、ゴムハードルを設置し、サーキット形式で何度も回りながら様々な身体の動きができるあそびを実施。

➢ 対象、動きの習熟によって指導者の声掛けによる誘導、配置を変えながら実施。

■ 砂浜あそび

➢ ミニスコップ、バケツ、ミニ熊手、貝、流木などを使用し、砂を利用して子どもたちの自由な発想を基にあそびを実施。

■ 葉っぱプール

➢ ブルーシートの上に落ち葉を集め、落ち葉を掴んで上へ投げる、ブルーシートの端を持って上から下に大きく波打たせ落ち葉を弾ませる、集まった落ち葉で指導者の身体を隠すなど自然のものを使って遊びを実施。3月には桜の花びらを集めて実施。

■ なわとびチャレンジ

➢ さまざまな長さのなわを準備し、ストップウォッチで60秒間に何回跳べるかチャレンジ。年代別に最高記録保持者をホワイトボードに記入して実施。

【時間指定プログラム】

■ パラバルーン

第一回目（4回実施）10:30/11:30/13:30/14:30

第二回目（4回実施）10:30/11:30/12:30/13:30

第三回目（実施なし）

第四回目（4回実施）10:30/11:30/13:30/14:30

第五回目（2回実施）11:30/13:30

第六回目（2回実施）11:30/13:30

第七回目（2回実施）11:30/13:30

➢ 20名程度の子どもたちや保護者を集めて実施。

➢ 参加者みんなで円を作ってパラバルーンを持ち、タイミングよく小刻みに上下左右に揺らす、大きく動かして風を起こす、全員で布の中に入ってパラバルーンで山をつくる、真ん中を軸にして回転させるなどのあそびを指導者の声かけと共に実施。

＜運動あそび＞



＜ボールあそび＞



＜パラバルーン＞



<ネイチャーブランコ>



<葉っぱプール>



<砂浜あそび>



<なわとびチャレンジ>



<モンキーロープ>



## 5. 当日の状況

- モンキーロープ、ネイチャーブランコなど全部で7種類実施することができた。
- モンキーロープ、ネイチャーブランコが人気で楽しみにしている参加者がたくさんいた。
- 10時の開始時点ではまだ来場者は多くなかったが、正午に近づくにつれ来場者は増えた。
- プレイパーク周辺では、簡易テントやレジャーシートを広げて食事や休憩をとる参加者もあり、プレイパークを通して公園で過ごす家族の姿が見られた。
- リピーターも多く、SNSを見て来園した家族もいた。
- 運動あそびやボールあそびコーナーでは、終わる時間まで指導者と走り回っている様子が見られた。
- 季節を感じる落ち葉の葉っぱプールでは3月に桜も加えたことであそびの幅も広がった。
- 室外での実施のため寒い日などの天候によって参加人数が少なくなっていた。

## 6. 参加者

- 八万中央児童館 約60名(9家族) 児童館なので子どものみの参加が多かった
- 月見ヶ丘海浜公園 約40名(10家族)
- 桜つつみ公園 11月 約80名(15家族) / 2月 約60名(14家族)
- 徳島中央公園 12月 約50名(11家族) / 3月 約100名(28家族)
- ウチノ海総合公園 約30名(6家族)

### 参加者・保護者の声

- 今後もこのようなイベントがあれば、こどもと外であそぶ機会をより増やしたい。
- こども同士の交流を増やしていきたい。
- 自然の中でいろいろなあそびができて良かった。
- 普段できない身体を使ったあそびができる。
- 指導者の方のこどもとの関わりが上手で安心してあそぶことができた。

## 7. 所見

- 参加者はイベントや外あそびの機会を求めている。
- 遊具、芝生のある公園だけでは魅力が薄い。
- 子ども同士の繋がりを持たせたい保護者がいる。
- 公園に大きな道路が隣接しているところが多く不安になる。

## II. 事業実施の効果や分析、運営上の課題

### 1. 事業効果

- 保護者の方が外あそびやロープを使ったあそび方を知ることで、子どもたちの接し方や見方に変化が見られた。
- 保護者や子どもは外あそびの機会や場所を求めており、保護者に改めて外あそびの楽しさや必要性を感じるきっかけを作ることができた。
- 子ども同士の繋がりが増えることで、地域活性化に繋げるきっかけとなった。

### 2. 運営上の課題

- 参加者は公園が遠い地域もあり、参加地域が偏る。
- 屋外での活動のため天候に左右される。
- 公園が大きい道路に面している公園が多く、自由にあそばせてあげるには危険を感じたため、候補にはあげていたが実施ができなかった公園もあった。
- 広報が内部での園配布や SNS での配信になるので地域の掲示板やデータ配信などで地域の小学校や園に配布できるような仕組みが必要。
- 公園を使用するためへの申請が各自治体によって違うため申請に時間がかかり、日程決定やチラシの配布時期が遅れてしまうことがあった。事業を受託できたことでスムーズに申請できるような仕組みが必要。

### 3. その他

- 今後の事業実施に向けて、地域から人材の発掘・育成・指導の持続可能なサイクルを整え、安心した運営の実現が必要である。

# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆

## 八万中央児童館 出張プレイパーク

日程 9月27日(土)

乳幼児 10:00-12:00 小学生 13:00-16:00

場所 徳島市八万中央コミュニティーセンター  
(徳島市八万町内浜 80-14)

駐車場はございますが、台数が限られています。

可能な方は自転車、徒歩、公共交通機関でお越しください。

### 主なあそび

常時開催：体育の器具などを使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、児童館にあるオセロやボードゲーム

時間開催：パラバルーン(10:30、11:30、13:30を予定しています。)



運動あそび



パラバルーン



### プレイパークとは？

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、児童館の遊びや公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

#### ・事前申込、参加費不要。

※各対象時間内ならいつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫!

#### ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。

※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。

#### ・汚れても良い服装でお越しください。

#### ・特別に必要な持ち物はありません。

※飲み物・替替えなどがあるとより活動を楽しめます。

主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当

受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL: 088-626-0035 10:00-18:00(月・日・祝は除く)

※雨天決行、警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆

## 月見ヶ丘海浜公園 出張プレイパーク

日程 10月18日(土) 10:00~14:00

場所 月見ヶ丘海浜公園 海水浴場(公園側)

(徳島県板野郡松茂町豊岡字山ノ手42)

※駐車場はありますが、台数には限りがあります。

### 主なあそび

砂浜運動サーキット、自然物を使ったクラフト、砂浜あそび  
ビーチサッカー、巨大砂山作り、巨大地下トンネル作り など



## 砂浜あそび 巨大砂山作り



## ネイチャー クラフト



### ・事前申込、参加費不要。

※いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫!

### ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。

※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。

### ・汚れても良い服装でお越しください。

### ・特に必要な持ち物はありません。

※飲み物・着替えなどがあるとより活動を楽しめます。

## プレイパークとは?

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、児童館の遊びや公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。



主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当

受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL: 088-626-0035 10:00-18:00 (月・日・祝は除く)

※雨天決行、警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆



## 藍住町桜つつみ公園 出張プレイパーク

日程 11月29日(土) 10:00~14:00

※少雨決行、大雨・警報時は中止

場所 桜つつみ公園(板野郡藍住町東中富字西傍示 51-1)

※駐車場はございますが、台数が限られています。

可能な方は自転車・徒歩、公共交通機関でお越しください。



### 主なあそび

常時開催：体育の器具を使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、葉っぱプール、モンキーロープ、秘密基地作り

時間開催：パラバルーン(10:30、11:30、12:30、13:30を予定しています。)



運動あそび



モンキーロープ



秘密基地作り



葉っぱプール



パラバルーン

- ・事前申込不要。いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫！
- ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。  
※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。
- ・汚れても良い服装と運動靴でお越しください。
- ・特別に必要な持ち物はありません。  
※飲み物・帽子・着替えなどがあるとより活動を楽しめます。

### プレイパークとは？

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当

受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL：088-621-2715 10:00 - 18:00 (月・日・祝は除く)

※少雨決行、大雨・警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆



## 徳島中央公園 出張プレイパーク

日程 12月6日(土) 10:00~14:00

※少雨決行、大雨・警報時は中止

場所 徳島中央公園遊具施設広場 ★付近(小学校横)

徳島市徳島町城内1番外

※駐車場はございますが、台数が限られています。

可能な方は自転車・徒歩、公共交通機関でお越しください。



### 主なあそび

常時開催：体育器具を使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、葉っぱプール、ホールあそび  
なわとびチャレンジ(60秒で何回跳べる!?年代別チャンピオンを目指そう!)

時間開催：パラバルーン(10:30、11:30、12:30、13:30を予定しています)



運動あそび



パラバルーン



葉っぱプール

- ・事前申込不要。いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫!
- ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。  
※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。
- ・汚れても良い服装と運動靴でお越しください。
- ・特別に必要な持ち物はありません。  
※飲み物・帽子・替ええなどがあるとより活動を楽しめます。

### プレイパークとは?

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

主催：徳島県こども未来部こども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当

受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL: 088-621-2715 10:00 - 18:00 (月・日・祝は除く)

※少雨決行、大雨・警報で中止の時は徳島20MCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆



## ウチノ海総合公園 出張プレイパーク

日程 1月17日(土) 10:00~14:00

※少雨決行、大雨・警報時は中止

場所 ウチノ海総合公園 デイキャンプ棟前広場

(〒772-0051 徳島県鳴門市鳴門町高島北679 第2駐車場近く)



### 主なあそび

常時開催：体育の器具を使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、ボールあそび、モンキーロープ  
火付け体験(マシュマロ焼き)、なわとびチャレンジ(60秒で何回跳べる?年代別チャンピオンは?)  
時間開催：パラバルーン(11:00、13:30を予定しています。)



運動あそび



パラバルーン



火付け体験

- ・事前申込不要。いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫!
- ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。  
※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。
- ・汚れても良い服装と運動靴でお越しください。
- ・特別に必要な持ち物はありません。  
※飲み物・帽子・替替えなどがあるとより活動を楽しめます。

### プレイパークとは?

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当  
受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA  
TEL：088-621-2715 10:00 - 18:00 (月・日・祝は除く)  
※少雨決行、大雨・警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆



## 藍住町桜つつみ公園 出張プレイパーク

日程 2月28日(土) 10:00~14:00

※少雨決行、大雨・警報時は中止

場所 桜つつみ公園(板野郡藍住町東中富字西傍示 51-1)

※駐車場はございますが、台数が限られています。

可能な方は自転車・徒歩、公共交通機関でお越しください。



### 主なあそび

常時開催：体育の器具を使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、ネイチャーブランコ、モンキーロープ

時間開催：パラバルーン(11:00、13:30を予定しています。)



運動あそび



モンキーロープ



ネイチャーブランコ



葉っぱフール



パラバルーン

- ・事前申込不要。いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫！
- ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。  
※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。
- ・汚れても良い服装と運動靴でお越しください。
- ・特別に必要な持ち物はありません。  
※飲み物・帽子・替替えなどがあるとより活動を楽しめます。

### プレイパークとは？

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当

受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL：088-621-2715 10:00 - 18:00 (月・日・祝は除く)

※少雨決行、大雨・警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# ワイ・Y・プレイパークであそぼう☆



## 徳島中央公園 出張プレイパーク

日程 3月14日(土) 10:00~14:00

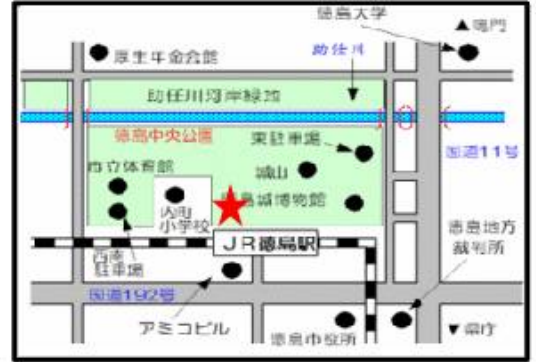
※少雨決行、大雨・警報時は中止

場所 徳島中央公園遊具施設広場 ★付近(小学校横)

徳島市徳島町城内1番外

※駐車場はございますが、台数が限られています。

可能な方は自転車・徒歩、公共交通機関でお越しください。



## 主なあそび

常時開催：体育器具を使った運動あそび、自然物を使ったクラフト、葉っぱプール、ホールあそび  
なわとびチャレンジ(60秒で何回跳べる!?年代別チャンピオンを目指そう!)

時間開催：パラバルーン(11:30、13:30)を予定しています。



運動あそび



パラバルーン



葉っぱプール



ボールあそび



なわあそび

- ・事前申込不要。いつあそびに来て、いつ帰っても大丈夫!
- ・未就学児から小学生までどなたでも参加できます。  
※未就学のお子さまは保護者同伴でご参加ください。
- ・汚れても良い服装と運動靴でお越しください。
- ・特別に必要な持ち物はありません。  
※飲み物・帽子・着替えなどがあるとより活動を楽しめます。

## プレイパークとは?

プレイパークは子どもの『やってみよう!』を実現する子ども中心の『あそび場』です。子どもたちが『自分の責任で自由にあそぶ』ことを考えながら指導者や大人たちが見守る中、公園にある土や木、水など自然の素材、固定遊具などを使って自由な発想であそびます。

主催：徳島県子ども未来部子ども家庭支援課 ひとり親家庭・居場所づくり担当  
受託者：公益財団法人大阪YMCA 徳島YMCA

TEL: 088-621-2715 10:00 - 18:00 (月・日・祝は除く)

※少雨決行、大雨・警報で中止の時は徳島YMCAのInstagramでお知らせします。



# こどもの居場所づくり事業 実施報告書

事業名：体験型子ども食堂 サンシャインキッチン

## 1. 事業の目的

本事業「体験型子ども食堂サンシャインキッチン」は、地域の既存施設を活用し、子どもが自らの意思でアクセスできる安全な居場所を提供することを目的として実施した。調理体験や防災食教育を通じて生活力と自己肯定感を育むとともに、家庭・地域とのつながりを強化し、支援が必要な子どもや家庭の早期把握と適切な支援機関への接続を図った。

## 2. 主な実施内容

### (1) おにぎり・弁当づくり体験

子どもが主体となり調理・盛付を実施した。家族分の持ち帰り弁当方式とし、家庭での共食機会の創出を図った。

### (2) お菓子づくり体験

家庭で再現可能な簡易レシピを用い、達成感と創造性の育成を図った。

### (3) 防災食ワークショップ

保存食の試食体験を実施した。非常時に食べられる食品を事前に知ることで、災害時の食への安心感について、体験的に理解を促した。

### (4) 地域交流・ふりかえり

多世代交流の時間を設け、ふりかえりカードを活用して子どもの気持ちの可視化と継続支援につなげた。

## 3. 運営上の工夫

「与えられる」から「自ら作る」への転換により、子どもの主体性と自己有用感の向上を図った。

家族全員分の弁当持ち帰り方式を導入し、家事負担の軽減と家庭内会話の創出に寄与した。

学校外の安心できる居場所として機能し、対人関係に不安を抱える児童の心理的安定が確認された。

## 4. 把握された主な問題点

- ① 子ども食堂を渡り歩く家庭が存在し、子どものみが参加することで親子時間が減少している。
- ② 共働き世帯の増加により、家庭内での基本的な生活スキル習得機会が不足している。
- ③ 兄弟児への個別配慮が不足し、子ども同士の関係悪化が懸念される。
- ④ 保護者自身も心理的孤立状態にあり、居場所的支援ニーズが高い。
- ⑤ 好き嫌いへの過度な個別対応要望が増え、適切な食育推進の課題となっている。
- ⑥ 近隣関係の希薄化により、地域内で孤独感を抱える家庭が増加している。

## 5. 課題に対する分析・考察

本事業を通じ、食の支援は一定程度届いている一方で、家庭関係や地域関係の希薄化が複合的に進行していることが明らかとなった。特に、子ども食堂の巡回利用世帯では、経済的支援は機能しているものの、親子の関係性回復や家庭機能の補完には十分つながっていない可能性が示唆された。

持ち帰り弁当モデルは、単なる食支援にとどまらず、家族の同席時間の創出、家事時間の圧縮、親子対話の誘発という複合的効果が確認された。今後の居場所事業においては、会場内支援と家庭内波及を一体的に設計する視点が重要である。また、調理体験は生活スキル習得のみならず、自己効力感の形成や家庭参加意欲の向上に寄与しており、家庭内で経験機会が不足している層への補完機能として有効性が高いと考えられる。さらに、学校外の安心できる居場所は、学校適応に困難を抱える児童の心理的安定と対人関係の再構築に寄与することが確認された。

## 6. 今後の展開

今後は、本事業で得られた知見をマニュアル化し、県内他地域への横展開を図る。朝の居場所機能の検討、学校・福祉との早期接続強化、地域人材の育成を重点課題として取り組む。

本事業が、地域における子どもの「生きる力」を育む持続可能な居場所づくりの一助となることを目指す。

# 「こどもの居場所」づくり機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）

## 利用者数

	大人	子ども	計
7月	22	29	51
8月	23	33	56
9月	25	32	57
10月	26	35	61
11月	20	33	53
12月	21	29	50
1月	15	18	33
2月	26	37	63
合計	178	246	424

# 募集チラシ (SNS情報)

**参加費 無料** お弁当は事前予約

自分で仕上げるお弁当!

**みらいユナイトの体験型こども食堂  
サンシャインキッチン**

**2025年7月21日** 月/祝 13:00～16:00  
(お弁当を作る場合は15:30までにお越しください)

とくしま市しらすぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

お申込みフォーム QRコード

7月はカップ寿司を作ります  
※アレルギー対応は行っておりません  
※生魚は利用いたしません

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。

**要予約! 参加無料**

みらいユナイト  
子ども食堂  
サンシャインキッチン

**夏祭り**  
8月31日(日)

お申込みフォーム QRコード

じかん 時間 13時00分～15時00分

ばしょ 場所 徳島市しらすぎ台まちづくり活動センター

たいしょう 対象 徳島県内在住・在学中の小学生・中学生とその家族

夏のお買い物体験  
ハンバーガーづくり  
お楽しみ緑豆

お申込みフォーム QRコード

お問い合わせ mirai.unite23@gmail.com

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。

**参加費 無料** お弁当は事前予約

自分で仕上げるお弁当!

**みらいユナイトの体験型こども食堂  
サンシャインキッチン**

**2025年9月15日** 月/祝 13:00～15:00  
(お弁当を作る場合は14:30までにお越しください)

とくしま市しらすぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

お申込みフォーム QRコード

9月は「おにぎりを自分で作る！」  
※アレルギー対応は行っておりません  
※小さなお子様は保護者の方がサポートしてください

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。

# 募集チラシ (SNS情報)



## ハロウィンパーティー

みらいユナイトの子ども食堂  
サンシャインキッチン

事前予約制

参加無料

- ・自分で完成させるお弁当!
- ・クイズに答えてお菓子をゲット(小学生のみ)  
会場周辺をお散歩してクイズを探してね
- ・仮装参加で風船ゲット(お子様のみ)  
髪飾りやシールなど簡単な仮装でOK

お申し込みはこちら

**概要**

日時 2025年10月12日(日) 13:00から15:00

場所 徳島市しらさぎ台まちづくり活動センター

対象 徳島県内在学中の小学生とその家族

※アレルギー対応は行っておりません。  
※保護者の方同伴でご参加ください。

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業(「こどもの居場所」多様化推進事業)により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。



参加費 無料

お弁当は事前予約

自分で仕上げるお弁当

## みらいユナイトの体験型子ども食堂 サンシャインキッチン

2025年11月22日 土

15:00~16:30  
(お弁当を作る場合は16:00までにお越しください)

とくしま市しらさぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

11月は「サンドウィッチとピンチョスを作ろう!」

※アレルギー対応は行っておりません  
※小さなお子様は保護者の方がサポートしてください

お申込みフォーム QRコード

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業(「こどもの居場所」多様化推進事業)により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。



自分で仕上げるお弁当

みらいユナイトの体験型子ども食堂  
サンシャインキッチン

参加無料

お弁当は事前予約

日時 12月28日(日曜日)  
13:00~15:30 15:00までにお越しください

会場 とくしま市しらさぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

定員 50名(※要事前申し込み)

対象 徳島県在住の小学生・中学生とその家族

12月のワークショップ

12月は「パタパタおにぎらず」

※アレルギー対応は行っておりません  
※小さなお子様は保護者の方がサポートしてください

お申込みフォーム QRコード

本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業(「こどもの居場所」多様化推進事業)により実施しています。徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。

# 募集チラシ (SNS情報)



＼自分で仕上げるお弁当／

みらいユナイトの体験型こども食堂  
**サンシャインキッチン**

お弁当は  
事前予約

参加  
無料

**日時** 1月21日 (水曜日)  
16:00～18:00 17:30までにお越しください

**会場** とくしま市しらさぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

**定員** 50名 (※要事前申し込み)

**対象** 徳島県在住の小学生・中学生とその家族

ワークショップ



1月は防災週間です。

防災食としてアルファ米のおにぎりを作ります。

※アレルギー対応は行っていません  
※小さなお子様は保護者の方がサポートしてください

お申込みフォーム  
QRコード



本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）により実施しています。  
徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。  
撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。



＼自分で仕上げるお弁当／

みらいユナイトの体験型こども食堂  
**サンシャインキッチン**

お弁当は  
事前予約

参加  
無料

**日時** 2月22日 (日曜日)  
13:00～16:00 15:30までにお越しください

**会場** とくしま市しらさぎ台まちづくり活動センター  
〒770-8041 徳島県徳島市上八万町西山1430-4

**定員** 50名 (※要事前申し込み)

**対象** 徳島県在住の小学生・中学生とその家族

ワークショップ



2月はレンチンでふわふわドーナツ！

レンジは1組ずつ使いますので、お時間には余裕を持って  
お越しください。

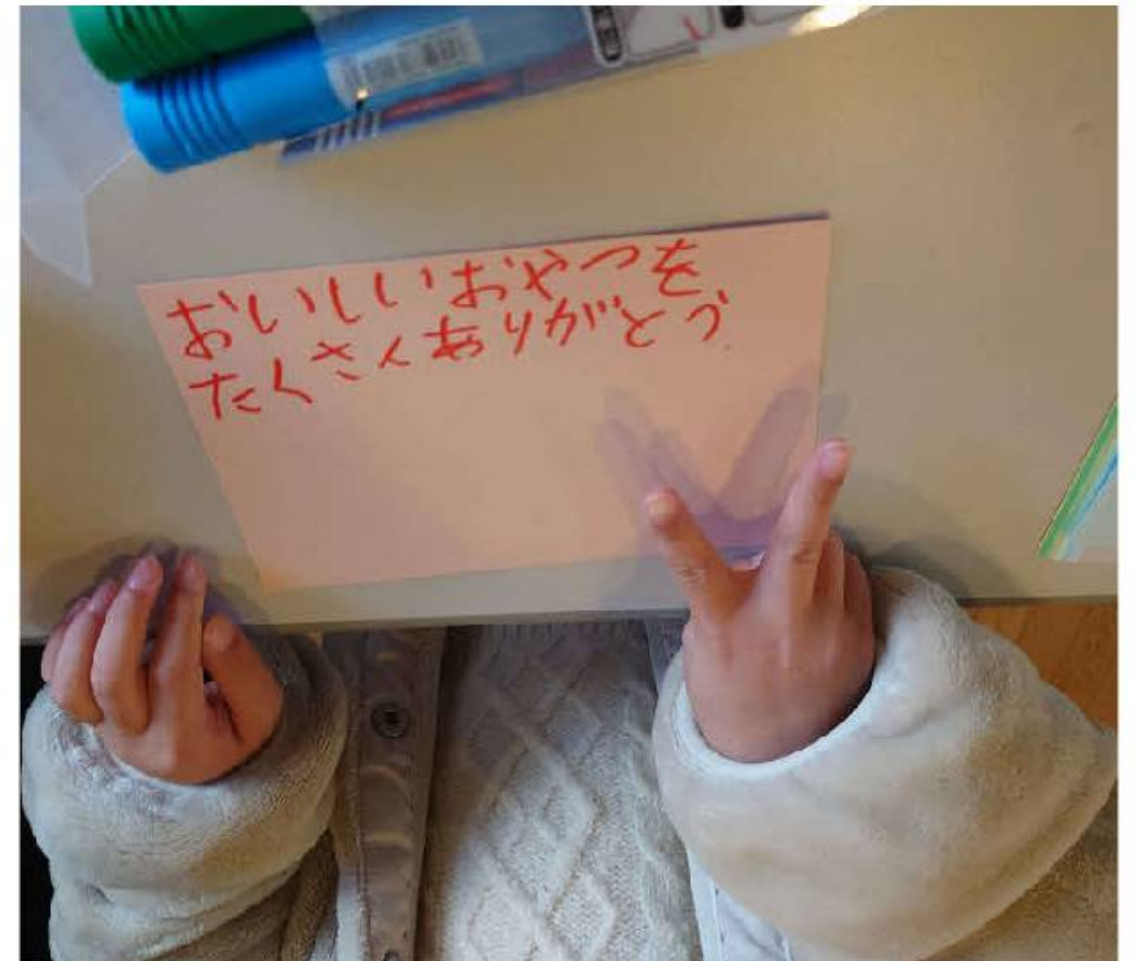
※アレルギー対応は行っていません  
※小さなお子様は保護者の方がサポートしてください

お申込みフォーム  
QRコード



本事業は、徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業（「こどもの居場所」多様化推進事業）により実施しています。  
徳島県への報告並びに、当団体の開催報告のため会場内では写真・動画の撮影を行います。  
撮影したものはSNSやHPに掲載する可能性があります。

# 開催の様子



# 開催の様子



# 開催の様子



開催の様子



# 徳島県こどもの居場所委託事業 最終報告書

一般社団法人うみのこてらす

---

## 1. 事業名

既存施設青少年センターを活用した10代のこどもたちの居場所創出事業

(徳島県「こどもの居場所」機能強化支援事業(「こどもの居場所」多様化推進事業)モデル的な先進事例企画・運営業務)

---

## 2. 事業の目的

10代は支援につながりにくい世代であり、孤立や困りごとが見えにくいという課題がある。本事業では、すでに若者が集まっている既存施設を活用し、日常の延長にあるフリーカフェを設置することで、安心して立ち寄れる居場所と支援の接点をつくることを目的とした。

また、大学生ボランティアの参画を通じて、若者に寄り添う次世代の担い手を育成し、地域の支援基盤の強化にもつなげることを目指した。

本事業は、支援につながりにくい10代への新たなアプローチモデルの検証として実施したものである。

---

## 3. 実施内容及び実績

本事業では、徳島市の青少年センター(とくぎんトモニプラザ)を活用し、支援につながりにくい10代のこども・若者を対象としたフリーカフェ型の居場所を実施した。

実施期間中の登録者数は362人であり、1回あたりの参加者は平均50人程度であった。青少年センターの既存利用者に加え、現場での声かけや食事提供をきっかけとした新規参加が継続的に見られた。

開催頻度

第4金曜日16:00-19:00

(開催月:6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)

主な実施内容は以下のとおりである。

- ・おにぎり・豚汁等の軽食提供を通じた居場所づくり
- ・大学生ボランティアとの交流機会の提供
- ・自由に過ごせる空間の確保(学習・休息・対話)
- ・必要に応じた相談対応および関係機関へのつなぎ  
(事例:相談窓口紹介:いのちSOS、いのちの希望、とくしま自殺予防センター、よりそいホットライン、ヤングテレホンを公式ラインより常に紹介している)

月1回だけの関係性では、さりげなく紹介もしくは、団体内の心理職の専門家との連携はあるものの、外部機関へとつなぐまでは、まだ関係性的には難しかった。ただ、心配になったケースを、施設の方と情報共有したり、スクールソーシャルワーカーがはいっていることに関しては、情報共有をしながら進めた。

本事業は利用料無料で実施し、こどもが自らの意思でアクセスできる居場所として機能した。

---

## 4. 運営上の工夫

### (1)既存施設×アウトリーチ型の接点づくり

青少年センターという既に若者が集まっている場所を活用し、こちらから声かけを行う「アウトリーチ型」の関わりを重視した。

具体的には、こども配布向け&公式LINE登録QRコードつき名刺等を活用しながら自然な形で関係づくりを行い、おにぎりや豚汁の提供をきっかけに会話が生まれる設計とした。

このように「まず関係をつくること」を起点にすることで、支援への心理的ハードルを下げ、無理のない形での接点づくりを実現した。

### (2)LINEを活用した段階的な関係構築

単発の接点で終わらせず、公式LINEへとつなぐことで継続的な関係性を構築した。

その後、より小規模でゆっくり関わられる拠点への案内や、相談窓口などを段階的に案内することで、必要な子へ、より必要な居場所支援や相談支援へと自然につながる導線を設計した。

### (3)「ななめの関係」による安心感の醸成

大学生ボランティアが関わることで、学校や家庭とは異なる距離感の関係性を構築した。

この「ななめの関係」により、こどもたちが自分のペースで関わられる環境が生まれ、安心して過ごせる居場所として機能した。

---

## 5. 課題

### (1)継続的な関係構築の難しさ

単発参加が多く、関係性の深化には時間がかかるケースが見られた。

LINE等を活用したフォローに加え、継続的に関わられる仕組みの強化が必要である。

## (2) 支援ニーズの把握の難しさ

その子たちは、既存の施設にいる子たちで、わざわざ居場所へと足を運んでいるのではない。きっと困りごとを抱えているこもいるだろうが、こちらからは把握しにくくキャッチできない。さらに、10代は困りごとを言語化しにくく、表面的には問題が見えにくいケースが多い。そのため、関係性を前提とした継続的な関わりが不可欠である。

---

## 6. 分析・考察

### (1) 10代のこども・若者における支援構造の課題

本事業を通じて、10代のこども・若者は、支援の必要性があっても支援につながりにくい構造的課題を有していることが明らかとなった。

主な要因として、以下が挙げられる。

- ・困りごとを言語化しにくく、周囲から把握されにくい
- ・学校や家庭以外の関係性が限定的である
- ・思春期の年代で自ら支援を求めることのハードルが高い

このことから、従来の「相談に来てもらう支援」ではなく、日常の中に支援の接点を埋め込むアプローチの必要性が確認された。

---

### (2) 本事業モデルの有効性

本事業では、「既存施設×アウトリーチ×関係性構築」を組み合わせたアプローチを実施した。

その結果、以下のような有効性が確認された。

- ・既存施設を活用することで、参加の心理的ハードルが低下し、新規参加につながりやすい
- ・食事提供をきっかけに自然な関係性が生まれ、継続的な関わりへの入口となる
- ・大学生との「ななめの関係」により、安心して過ごせる環境が形成される
- ・LINEを活用することで、単発の関わりを継続的な支援へと接続できる

特に、「食事 → 会話 → LINE登録 → 別拠点・相談」という段階的な導線が機能したことは、本事業の重要な成果である。

---

### (3) 地域モデルとしての意義と展開可能性

本事業は、「既存施設の活用」「アウトリーチ型の接点づくり」「ななめの関係」を組み合わせることで、10代支援の新たなモデルを提示するものである。

特に、地方において新たな施設整備が難しい中、既存資源を活用した本モデルは再現性が高く、他地域への横展開が可能である。

今後は、実施回数の増加や他地域への展開を進めるとともに、企業協賛や寄付等を活用した持続可能な運営体制の構築を目指す。









友達追加してね!!!  
@607yavoj



メッセージやお問い合わせ  
はこちらから



FOLLOW ME!  
@ibasyo\_cafe



居場所の様子や最新情報  
はこちらから



一般社団法人

うみのこてらす

uminoco terrace



大学生/学生リーダー


**むっちゃん**

Kota MURASAKI

自己紹介

好きな食べ物…ラーメン、唐揚げ  
趣味…食べること、寝ること

何かあったら  
いつでも私たちに頼ってね！



徳島県「こどもの居場所」フォーラム企画・運営業務  
実施報告書

令和8年3月31日

公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

## 目次

I.	はじめに .....	1
II.	事業実施報告 .....	2
1.	実施内容 .....	2
2.	実績 .....	3
3.	運営上の工夫及び課題.....	5
4.	参加者アンケート集計結果.....	8
5.	登壇者等アンケート集計結果.....	14
III.	添付資料 .....	17
1.	リーフレット .....	17
2.	開催報告 .....	19
3.	当日配付資料 .....	28

## I. はじめに

急速に進む少子高齢化と若者の県外流出が深刻な問題となりつつある徳島県において、将来を担う子ども若者の健全育成、全ての県民が豊かで幸せを感じられる地域社会の創造は喫緊の課題です。本業務を受託した当団体としても、国や県が目指す「こどもまんなか社会の実現」を通じて、本県が抱えるこれらの課題の解決につながるものと考え、安全で安心な「こどもの居場所」の充実と支援機能の強化に寄与するため共創フォーラム運営業務を推進いたしました。

フォーラムの準備段階では、徳島県担当課である子ども家庭支援課はじめ、関係各課や関係機関、地域社会で活躍する個人など、多くの方の協力を得て、短期間での開催準備にも関わらず、104名もの申し込みをいただくことができました。また、登壇者となる方々も多忙ななかリモートや電話などにより適宜打ち合わせにご協力いただき、各プログラムのブラッシュアップや、より効果的な会場運営に活かすことができました。

そして、開催当日となる11月14日（金）、会場の徳島県教育会館には「こどもの居場所」運営者をはじめ、こどもの支援に関心のある94名の方がたにご参加いただくことができ、フォーラム進行はもとより、グループディスカッションにも積極的にご協力くださり、盛況のうちにフォーラムを開会することができました。ご参加くださった皆様から、直接、「参加して良かった」「地元の居場所づくりに活かしたい」「こどもまんなかで関わっていきたい」など、大変意義深い評価をいただくことができました。

このフォーラムを通じて、「こどもまんなか」理念の共有と目的としていた支援の輪の拡大を体現することができたと考えています。徳島県内の全ての子どもたちが、未来に希望を見出し、生きていくことのできる地域社会となるよう、これからも子どもたちとともに考え活動を続けて参りたいと考えています。

### 【業務概要】

1. 事業の目的：徳島県「こどもの居場所」づくり推進ガイドライン<sup>※1</sup>に基づき、安全で安心な「こどもの居場所」の量・質両面からの充実を図り、支援が必要な子どもや家庭を早期把握し支援へつなぐ機能を強化する。
2. 業務の内容：「こどもの居場所」の活動事例の共有・横展開のための共創フォーラムを企画・運営する。
3. プログラム
  - (1) 講演
  - (2) 先進事例ピッチセッション
  - (3) 「未来の居場所」を共創するアイデアソン

## II. 事業実施報告

### 1. 実施内容

#### (1) テーマ：

とくしま子どもまんなか「こどもの居場所」共創フォーラム  
～こどもの居場所づくりに必要なこと～

#### (2) 日程：令和7年11月14日（金）13時30分～16時30分

#### (3) 会場：徳島県教育会館本館5階ホール（徳島市北田宮1丁目8-68）

#### (4) 定員：100名

#### (5) 対象：行政・教育・福祉など支援関係者及びこどもの居場所づくりや支援に関心のある方等

#### (6) プログラム

- ① 13時30分～14時10分 講演
- ② 14時10分～15時10分 先進事例ピッチセッション
- ③ 15時20分～16時30分 [未来の居場所]を共創するアイデアソン

#### 【リーフレットイメージ図】

2025年度徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業  
「こどもの居場所」共創フォーラム

参加申込書

氏名	フリガナ 姓 名
所属	
メールアドレス	
電話番号	フリガナ 姓 名
申込するものに 同意してください	<input type="checkbox"/> 行政関係者 <input type="checkbox"/> 教育関係者 <input type="checkbox"/> スクールカウンセラー <input type="checkbox"/> スクールソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 社会福祉関係者 <input type="checkbox"/> 児童福祉関係者 <input type="checkbox"/> 児童生業員 <input type="checkbox"/> 児童委員 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他 法人及び任意団体 兼こども関連に専心のある方（お名前 必ずお記入）

- ※ 申込の個人情報は、「こどもの居場所」共創フォーラム以外の目的には提供せず、任意で個人情報提供請求及び公益社団法人徳島県労働者福祉協議会の個人情報保護協議に基づき適正に管理します。
- ※ 申込内容により随時で変更の場合、※日付の日にホームページ（<https://www.wikidharma-fukushima.net/>）でお知らせいたします。
- ※ 下記ホームページ（<https://www.wikidharma-fukushima.net/>）でお申し込みください。

主催者：公益社団法人徳島県労働者福祉協議会  
共催者：「こどもの居場所」共創フォーラム 事務局 宛  
FAX.088-625-5113  
〒770-3104 徳島県徳島市「徳島」ウエスト地区第2番  
〒770-3104 徳島県徳島市「徳島」ウエスト地区第2番  
TEL.088-625-5113 FAX.088-625-5113

※詳細は別添「リーフレット」をご参照ください。

## 2. 実績

(1) 会場：徳島県教育会館 本館 5 階ホール（徳島市北田宮町 1 丁目 8-68）



※徳島駅から車で 10 分

※バス停から徒歩 6 分

※無料駐車場あり

(2) 参加者：94 名（申込者 104 名）



(3) プログラム内容

### ① 講演

1) 演題：「子どもたちとつくる子ども居場所」

2) 講師：特定非営利活動法人子どもソーシャルワークセンター  
理事長 幸重忠孝 氏 (<https://cswc2016.jp/>)



※詳細は別添「開催報告」をご参照ください。

## ② 先進事例ピッチセッション

### 1) ファシリテーター:

国立大学法人鳴門教育大学 准教授 木村直子氏

### 2) 登壇者:

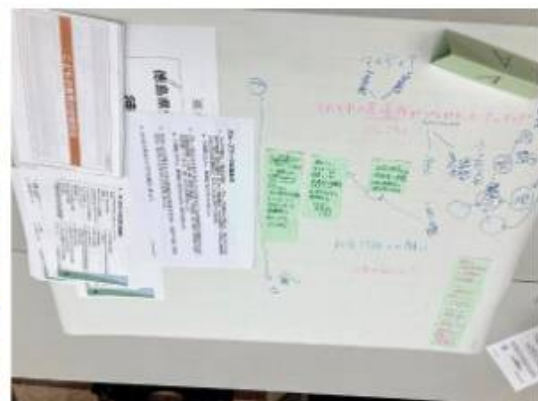
- ① 一般社団法人ひとみ学舎 代表理事 居上公美子 氏
- ② 特定非営利活動法人 YOU & ゆう 理事長 岡田あかね 氏
- ③ 一般社団法人うみのこてらす 代表理事 川邊笑 氏
- ④ 鴨島児童館 児童厚生一級特別指導員 木村友紀 氏
- ⑤ 板野町子ども家庭総合支援センター 所長 吉本洋時 氏



## ③ 「未来の居場所」を共創するアイデアソン

### 1) こども若者の発表: 3名

### 2) グループワーク: 全17グループ



### 3. 運営上の工夫及び課題

#### (1) 運営上の工夫

##### ① プロモーションの工夫

より広く多くの方に関心を持っていただき、より多くの方にフォーラムに参加いただけるよう多様な媒体と内容を工夫した。

- ・ホームページサイト/SNS (X・Facebook) 構築

(<https://www.tokushima-rofuku.net/forum/>)



- ・関係 5 団体及び会員事業所へのリーフレット配付と周知 (105 件)
- ・徳島新聞情報とくしま
- ・リーフレット配付先及び関係機関に対し電話による事業説明と募集活動 (120 件)

② 参加者満足度を高める工夫

1) 場のデザイン

- ・施設：車で参加される方が多い地域特性から無料駐車場がある会場を選定した
- ・会場：全ての参加者が交流できるようグループ形式（5名程度）で構成した

2) 内容のデザイン

- ・登壇者及びこどもの承諾を得てこども達による発表時間を設けた
- ・登壇者参加型のグループディスカッション時間を設けた
- ・フォーラム終了後の交流を見据えた参加者同士の交流時間を設けた

3) 物のデザイン

- ・ディスカッションを効果的効率的に進めるため進行シートを配付した
- ・フォーラム後の活動につながるよう徳島県による開設・運営相談をQRコードで配信した

※詳細は別添「当日配付資料」をご参照ください。

③ 成果を最大化させるための運営の工夫

1) プログラムのブラッシュアップにつなげる綿密な打合せ

- ・ファシリテーターを中心に当日までに打合せを3回実施した
- ・多忙なファシリテーター及び登壇者の負担を最小限にするため、リモートで開催した

2) プロモーション時でのフォーラム開催目的（要望）の伝達と共有化

- ・既存ネットワークを活用し目的はもとより熱意を伝え想いの共有化を図った
- ・初めて関わることとなった関係機関担当者に対し、直接的アプローチ活動（訪問・電話）により開催目的等の共有化を促進した

(2) 運営上の課題

① 準備段階の課題

1) 募集期間の設定

多様な支援機関や個人の方々により多く参加いただくためには、最低3か月の募集期間が必要と考えられる（リーフレットや各種メディアによる周知1か月、訪問や電話による直接アプローチ1か月、再アプローチ1か月）。リーフレット制作や広報活動スケジュールの再考とともに、全ての関係者による目的の共有化と歩調を合わせた協働作業が重要である。

2) 民間企業の参加

こどもの居場所づくりやその他のこども支援施策（特にこどもの貧困対策）に民間企業の協力は不可欠である。当団体の企業ネットワークと県担当課の協力を得て「徳島県SDGsパートナー企業」等に参加を呼び掛けたが、民間企業からの参加者は4名にとどまった。民間企業の社会貢献活動の活性化策として捉えるとともに、企業には将来を担うこども若者の健全育成に積極的に関与する責任（場づくりはもとより職場・労働環境改善）があることを改めて認識いただく場として機運を醸成することが重要である。

② フォーラム当日の課題

1) 資料配付の必要性

登壇者の資料を今後の参考となるよう配付したが、顔写真を除き配布したため効果が薄れた。資料の配付そのものの必要性を検討する必要がある。

2) アンケート実施方法

フォーラム終了時や開会前にもアンケートの記入協力の周知、また、紙媒体だけでなく、QRコードによる回答手段も準備していたが、回答率が4割弱にとどまった。フォーラム開催の効果と改善策を検討するためにも、アンケート記入時間を適切に設け、意見を集約する必要がある。

③ その他

1) こどもの参加

この度のフォーラムでは登壇者として子ども4名に協力いただいたが、参加者としてもより多くの子ども達に参加いただき身近な居場所を知っていただく必要があると考える。そのためには学校や教育委員会の協力は欠かせず、より一層の働きかけが求められる。

2) 追跡調査とフォロー

フォーラム開催の成果持続性を高めるためには、フォーラム後に参加者が実際に居場所づくりに取り組める仕組みや追跡調査とフォローが必要である。

#### 4. 参加者アンケート集計結果

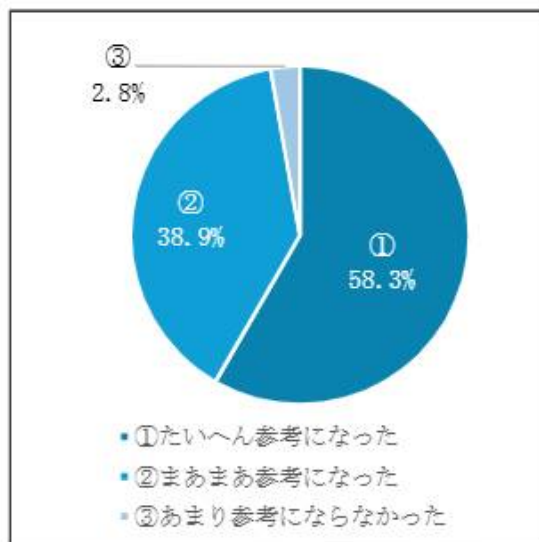
(1) アンケート：36件（フォーム4件/質問紙32件）回収率38.3%

(2) 参加者属性

属性	人数	構成比
①行政職員	15	16.0%
②教育関係者	9	9.6%
③スクールカウンセラー	0	0.0%
④スクールソーシャルワーカー	2	2.1%
⑤社会福祉関係者	8	8.5%
⑥児童福祉関係者	9	9.6%
⑦民生委員・児童委員	3	3.2%
⑧社会福祉協議会	5	5.3%
⑨NPO法人及び任意団体	16	17.0%
⑩こども支援に関心のある方	13	13.8%
⑪学生	4	4.3%
⑫その他	10	10.6%
合計	94	100.0%

(3) フォーラム参加者アンケート結果

① 参考になったかどうか



※設問詳細は別添「アンケート用紙」をご参照ください。

※自由記述

「たいへん参考になった」と回答した理由

- 先進事例を数多く知ることができ見識が深まった
- 各団体の取り組みや大切にしていることが、子どもを真ん中にして考えられており、心に響いた。子どもたちの発表が本質を突いていて、胸に迫るものがあった。
- 実践例を説明いただいたので。
- 対応に困っている、手助けしたいと思っている。児童にぴったりはまるサービスがあった。
- 子どもの居場所として「こども食堂」をメインとして考えていましたが、必ずしも「こども食堂」をしなくても、他の居場所づくりもあることを強く思いました。
- 幸重先生のお話からあたためて、子ども達と話をしながら、子ども達が企画していくこと等々が大切だと思いました。いろいろリラックスできる体験をすることは、楽しい。
- 名前を聞いたことはあるが、活動内容が分からなかったので理解が深まった。
- 県外の取り組みを聞いたから
- 退職後、子どもや子育て中の方に関わることがしたいので。
- たくさんの実践報告が聞けて参考になりました。
- 子どもの意見の反映状況を知れてよかった。
- 助成金について
- 学びが多かったため。
- グループディスカッションで色々な意見が聞けて良かったです。いろいろな活動がわかり良かったです。
- 生きる立場の違う人間同士が、るつぼのように交わりあって混ざり合って、意見交換・発信することで、知らないことと知ること、したいこととできないことが明確になったからです。

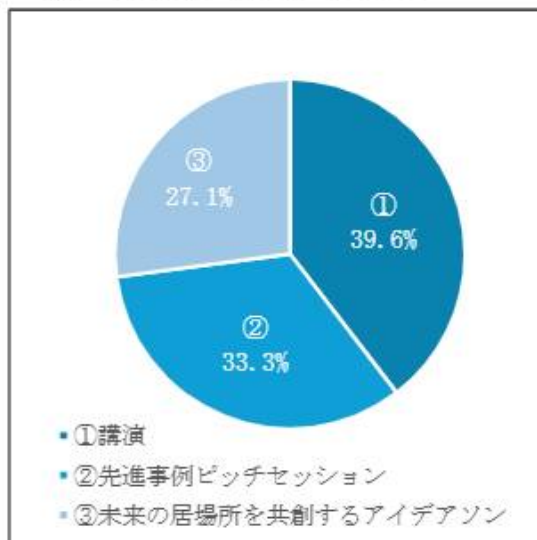
「まあまあ参考になった」と回答した理由

- ◎実践例などを聞いて  
通える人の年齢制限などを気にしていた（ホームページなどでは高校生まで、などと書かれている場合が多いため）が、実際には幅広くの年齢の方を受け入れている場所があることを知れてよかった。  
いいな、と思った活動や場所を運営されている方たちは、自分の理解やできることについて自覚的だと感じた。自分もできることとできないこと、もっと自分の中の囚われについて自覚的でありたいと思った。
- ◎アイデアソンを通して  
やはり渦中の人（若者）から直接話を聞く場というのはとても重要なことだと思ったし、生の声が開けてよかった。

グループにもよるだろうけど、自分が参加したグループはアイデア出しにとどまるのではなく、対話しようという意思があり、とてもよかった。個人的には話過ぎたという反省はあるけれど、欲を言えば、もっと時間が欲しかった。

- パワーポイントの映像が見にくかった。
- 様々な団体の活動を知ることができ、今後の自身の活動の参考となった。
- 時間が5分程度で話が詳しく深掘出来るのか？と思ったが、各団体ごとの発表に特色があり良かった。
- 滋賀県及び県内のそれぞれの団体の活動が良く分かったが、もっと発表を聞く時間が欲しかった。

## ② 特に良かったプログラム



## ※自由記述

### 「講演：こどもたちとつくるこどもの居場所」と回答した理由

- 先進事例を数多く知ることができ見識が深まった
- アイデアいっぱい参考になった。  
子どもの居場所の先行例が良く分かった。
- 子どもたちの安心できる場所をつくらうとしていることがよくわかった。
- 子ども居場所は役所の机の上での協議だけでは見つけられないな、と思えた。紹介事例を聞いてなるほど、と思えた。
- 子どもへの愛が感じられた。
- どのプログラムも良かったです。若者による発表、特に良かったです。
- 活用する子どものきっかけや気持ちなどについて、知ることができたから。
- こどもの発表を聞けるのは良かった。大人ばかりが意欲的にならず、当事者たちに目を向けているの感じがした。
- 全てにパワーをもらいました。
- すべて心に來るものがあった。勉強になった。

- 様々な事例が開けたのは良かったが、もっと発表者を減らして時間を伸ばした方がよいのではないかと思います。あるいは、内容を減らせないのであれば、午前・午後と分けて開いてはどうでしょうか？と考えます。
- 子どもたちの安心できる場所をつくらうとしていることがよくわかった。

#### 「先進事例ピッチセッション」と回答した理由

- 何ができているのか、という事実と何が足りないのかを思考する材料にできたからです。
- 先進事例を数多く知ることができ見識が深まった
- 子どもの居場所の先行例が良く分かった。
- 様々な事例が開けたのは良かったが、もっと発表者を減らして時間を伸ばした方がよいのではないかと思います。あるいは、内容を減らせないのであれば、午前・午後と分けて開いてはどうでしょうか？と考えます。
- 地元の取り組みや交流を通して、一緒に場を作る仲間という意識が生まれたから。

#### 「未来の居場所を共創するアイデアソン」と回答した理由

- やはり実際通っている本人ややり取りを通して言葉を交わせる場がとて面白いと感じたので。
- 若者の声が自然に入った。
- 子供さんたちの生の声が聞いて良かったです。
- 若者の声は真っすぐでひびく！
- GWは合宿をしたくらい、時間が足りなかったです。
- 実際の子どもさんのお声をきけて良かったです。

#### 全て良かったと回答した理由

- どのプログラムも良かったです。若者による発表、特に良かったです。
- こどもの発表を開けるのは良かった。大人ばかりが意欲的にならず、当事者たちに目を向けている感じがした。
- 全てにパワーをもらいました。
- すべて心に来るものがあった。勉強になった。

#### ※その他の自由記述

##### 「こどもの居場所」づくりに関して今後希望する講演や研修内容

- 現地視察を企画していただきたい
- 公的な場所（学校や行政が運営する場所）と民間がつくる場所（委託されている場所とただ開いている場所、などグラデーションはあると思うけれど）の交流、情報交換会、長く続けられている組織や場所の金銭的かつ具体的な方法についての情報共有会、場所へ来るきっかけ（家から出るきっかけ）としてどんな実践例があり、実際に参加する側の彼らはどう思っているのかを聞いたり議論できる会、行政と直接話し合いができる会

- 本日のような場をまた、定期的にお願ひしたいです。名刺交換会&交流会に時間が欲しいです。
- 医療的なケアが必要な子供にどう対応したらいいかをお聞きしたい。
- 資金調達についての研修
- 事例研究などの例をもとにして、実践的な内容の研修を受けてみたい。
- 県外での例をもっと知りたい。
- 自治体が実行可能な政策につなげられるような研修
- 細くても長く続けるために、助成金にのみ頼る団体からどうすれば、自立できるのか、自立していいのか、学びたい。
- 山辺康子さん「西成チャイルド・ケア・センター」
- 継続、資金取り、子どもとの関わり方様々。
- 実際に役場でそういった会議に出席してみたいなどは思っています。
- 同じような内容の講演や研修は何度もしなくて良いと思う。お金がもったいない。今から始める人と数年前からはじめた人との研修を別にしたら良いと思う。

#### その他意見や感想、明日からのアクションにつなげていきたい点

- ワイ・V・プレイパーク開催など、カラーチラシの情報を得にくく、県民にも浸透していないと思いますので、積極的に発信していただければと思います
- 同じ方向を見ている（なんとかしようとする場所をつくったり寄り添ったりしようとしている）人たちと直接話ができる場はとても貴重だし、本当に大切な時間だと思いました。とてもありがたいです。ただ、気になった点もあったので少しだけ話しておきます。

名札の記入例→どうして所属が必要なのでしょうか？フラットな話し合いをするためであれば特に必要ないかと思えます（日本人はとくに肩書なども気にしてしまう性質があると思うので）。なんなら呼んで欲しいあだ名だけでもいいくらいだと思います。何か意図があるなら教えてほしかったですし、あくまでも例示というならそれを示してしまうようになってしまうような人（自分はそうでした）もいると思えます。

先行事例について→集まっている人たちにもよるかもしれませんが、実践例だけではなく、具体的な運営方法や金銭的な状況についても話が聞ければよかったな、と思えます。やはりどこの場所もお金の問題は付きまとうと思うので。

時間がほしい→これは極端な話かもしれませんが、どなたかの講座などはなくてもいいので、がつつり二時間話し合い。などという場があってもいいと思いました。短時間ではなかなか思うように発言できることも少ないですし、情報をかみ砕くのに時間も必要です。多様な子どもたちへの場所を考えるための会なので、その会こそ、多様な人に向けた構成になっている（時間的なゆとりをもてる）会になっていけば素敵だな、と思いました。

余談ではありますが、会が終わった後の緩やかな時間でおもしろいつながりややり取りが行なわれる場合もあると思えます。思い切って雑談・談笑形式の時

間をとるのも面白いのではないかと、思いました。なにせよ、とても貴重な場であると思いますし、こういった機会があるのは本当にありがたいことだと思いました。

- 大人の都合や自己満足ではなく、こども目線での居場所支援について考えていきたい。
- かねてより、子どもたちの地域の居場所として「子ども食堂」を立ち上げたいと考えていました。幸い昨年度から「子ども食堂」を運営される方が日々頑張っておられます。何か手助けになることがあればと考え、自分でできること、民生児童員としてできることをやりたいと思います。
- ピッチセッションとても良かったのですが、資料に写真が反映されてなかったり、フォントが違ったりしているのが、残念でした。(誤字もありました)
- 子どもたちの居場所は子どもたち本人が「ここにいていい」と思う場所ではないのだと思った。
- 参加されている方々の「横のつながり」を作られようとする動きが凄いと思った。こどもの居場所に関する事業に携わることが殆どなかった身としては、ただただ驚いた。現状で居場所ができるかは想像すらできなかつたが、本日の学びを生かせるように、精進していけたらと思う。
- お世話になり、ありがとうございました。
- 子供の意見に気づかされる事があった。
- 私が仕事としているアートが、他にも活用されている団体もあると分かり、何か役に立てられるのではないかと、今後も活用方法を模索したい。
- 発達障害のある子どもへのサポートについては、へき地での支援が手薄だなと常々思っている・・・。
- 前を向いて頑張っていきます！！
- 自分の意見を変形させることを恐れずに、この見聞を活かしたと思っています。
- 全くの任意団体なので、細く、長く、無理せず、出来ることを出来る時に活動していきます。

## 5. 登壇者等アンケート集計結果

### 「こどもの居場所」共創フォーラム運営に関して、気になった点や改善点など

- 今回のフォーラムは、多様な立場の実践者や行政の方が一堂に会し、「こどもの居場所」をテーマに深く学び合える貴重な場でした。全体として温かく、参加者同士が自然に声を交わせる雰囲気づくりがとても素晴らしかったと感じています。若者のスピーチが本当によかったです。今後も若者発信を積極的に取り入れていくことを希望します。[NPO 法人 YOU&ゆう 理事長岡田様]
- ありがとうございます！とてもとても良かったです。他の団体様の取り組みを聴くことができ、こどもたちの意見もとても貴重でした。また幸重先生のご講演も学び多い時間となり、参加させていただいたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。木村直子先生にもお会いでき、大満足でした。運営されている方々は当日まで大変だったと思いますが、最後まで丁寧に接して下さって、資料もわかりやすく、本当に有難かったです。またこのような機会があればぜひ参加させてください！[鴨島児童館児童厚生一級特別指導員木村様]
- シンポジウムの内容やグループディスカッションの活発性などから、非常に学びのある時間になったと感じたが、もう少し発表者の一人あたりの時間が増えれば良いと感じました。

### 貴団体において「こどもの居場所」を運営するなかで、地域社会や県への要望

- 一過性ではなく、ニーズ等を調査、検証した上で継続的な支援をしていただきたい。
- 居場所の後、こどもはどの方向へ進むかを考える機会の提供があるとよいと思います。
- 1. 支援が届きにくい家庭への“伴走型”アプローチの強化  
支援を必要とする家庭ほど、相談につながりにくく、居場所の情報にも届きにくい現状があります。行政・学校・地域団体が連携し、気になる家庭へ早期につながるしくみをもう一步強化していただけると、こどもの孤立予防に大きく寄与します。
- 2. 居場所を支える人材と財源の“継続性”の確保  
こども食堂や居場所を支えるのは地域の善意だけでは難しく、運営者の負担も年々増えています。単年度助成ではなく、中長期的な財政支援や相談体制、コーディネーター機能などを県としてバックアップいただけると、地域の活動が持続可能になります。[NPO 法人 YOU&ゆう 理事長岡田様]
- 食料品の寄付を希望
- 児童館がこどもたちの大切な居場所であることをわかっていただけたら嬉しいです。私たちは親子が安心できる安全な居場所を今後も守っていきたいと思っています。しかし、悲しいかな全国の児童館が減少しつつあります。児童館は予算面でもかなり厳しい状況です。必要な場所に必要な予算をかけることは大切なことですし、地域に根付く児童館を絶対に廃止してはいけないと思っています。

す。未来を担う子どもたちが様々な活動を通してイキイキと健やかに成長できるように。児童館だからこそできることが沢山あると思っております。また、徳島県には大型児童館の設置がありません。0歳～18歳までが専門のスタッフのもと、自由にあそびを通して学ぶことができる大型児童館があればいいと思います。[鴨島児童館児童厚生一級特別指導員木村様]

- 支援者同士の交流の場がもっとあればよいと思います。
- 学校や教育機関等への告知。アクセスしやすい場所での開催。

### 徳島県において「こどもまんなか社会」の実現に必要なことや取り組むべき課題

- 大人だけの意見で考えず、こども当事者の考えを聞ける環境整備、人材育成が必要だと思います。
- みんなで協力すること。他団体の足をひっぱらないこと。
- 徳島県で「こどもまんなか社会」を実現していくためには、まず“こどもの声”が当たり前が届く仕組み”をつくるのが何より重要だと考えています。困っている家庭ほど声を上げにくく、情報にもつながりにくい現状があります。行政・学校・地域・企業が縦割りを越えて連携し、こどもや保護者の小さな声をキャッチし、必要な支援につなげる“地域の受け皿”を育てていくことが大きな課題です。

また、子どもたちの体験格差・学び格差を埋めるためには、地域全体で「出番」をつくり続けることが不可欠です。家庭環境に関わらず、こどもが安心して参加でき、挑戦できる場が身近にあることが、未来の自己肯定感やキャリア形成にもつながります。そのために、地域の大人たちが役割を持ち合い、ゆるやかに支え合うコミュニティづくりを進めていく必要があります。

さらに、支援団体・地域活動の現場を下支えする仕組みづくりも欠かせません。継続的な財源や相談体制、コーディネーター機能が整うことで、こどもを取り巻く支援が“人任せ”ではなく“地域としての仕組み”になります。

こどもを真ん中に置くということは、一部の専門家だけが頑張ることではなく、地域に暮らすすべての大人が少しずつ役割を持ち合う社会をつくることだと感じています。徳島が、全国のモデルとなるようなあたたかい共創の土壌を育てていければと思います。[NPO 法人 YOU&ゆう理事長]

- こどもが体験し学ぶことができる、プロ集団の紹介。その費用の補助
- ①発達障害や療育の必要な方が、気楽に行ける遊び場や居場所がなく、その方々の居場所が必要である。現在ある居場所に行くことも可能であるが、その当事者や保護者は楽しめるか不安であり、多様な存在が気兼ねなくいける居場所の必要性がある。  
②こどもに関わるのは人間に限ったことではなく、こどもの精神の安定やセラピー効果で動物の支援を受けることも良いと感じる。徳島県には介助犬の読書活動を支援している団体や保護猫活動家の存在もあり、団体と繋がり支援する

ことも支援先の幅が広がり多様な子供たちに、多様な居場所を提供できると感じる。

- こどもまんなか社会を作るためには、現場で頑張っている人たちの意見をしっかりと聴くべきです。現場を知らない方が雲の上から考えても無理があります。こどもたちの意見を聴くことも、こどもたちに近い人でないと本当の意見は聴けないと思います。やった感を出すだけではダメです。表面上だけでなく、深い根っこの部分、土台をしっかりとさせないといけない。こどもたちが自由奔放に育ったこと、健全に育ったこと。どちらも必ず地域社会に帰ってきます。本気で地域のこどもたちを育てようと大人が頑張ることが大事なのではないかと思います。それは絶対こどもたちに伝わるはずです。[鴨島児童館児童厚生一級特別指導員木村様]
- こどもの支援をしている方、ボランティアなどの人材データベースがあれば交流も増えるのではないかと思います。
- 支援団体の増加、県南等のアクセスのしづらい場所でも参加可能な工夫。保護者への精神的な支援や相談機会の充実。

#### その他、意見や提言

- こどもも、おとなも みんないろんな居場所が必要だと感じました。
- 私も意見を言える機会をありがとうございました。こどもたちが明るく元気な地域は理想的ですが、現代では悩みを抱える子、つながりのない家庭、しんどい想いをする子、様々な背景がある中でこどもたちが懸命に頑張っています。こどもたちを支える施設やスタッフが地域には本当に必要だと思っています。周りの環境を整えることや大人がしっかりとこどもたちと向き合うこと、サポートすること。行政やあらゆる機関や団体、施設がつながりを持ち、地域でこどもたちを育てていくことが大事だと考えます。本気でこどもたちを想うスタッフがいて、こどもたちを健全に成長させられる居場所を徳島県には作って欲しいと思っていますし、実際に今ある居場所を更に充実させて欲しいです。[鴨島児童館児童厚生一級特別指導員木村様]
- 毎年1, 2回、このような場があることを望んでおります。

### III. 添付資料

#### 1. リーフレット

[表面]

徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

とくしま  
こどもまんがな

# 「こどもの居場所」 共創フォーラム

こどもの居場所づくりに必要なこと

2025 参加無料  
**11.14** FRI  
13:30-16:30  
徳島県教育会館大ホール  
徳島県徳島市北田宮1丁目8-68 本館5階

徳島県内では、こども食堂をはじめ、こどもが地域で安全・安心して過ごせる「こどもの居場所」が増えています。このフォーラムは、県内外の活動事例の共有を通じて、地域で「こどもの居場所」づくりの支援の輪を広げることを目的として開催します。

#### プログラム

13:30-14:10 講演  
演題「こどもたちとつくるこどもの居場所」  
特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重 忠孝

14:10-15:10 先進事例ピッチセッション  
ファシリテーター 国立大学法人徳島教育大学 准教授 木村 直子  
登壇者  
・一般社団法人ひとみ学舎 代表理事 居上 公美子  
・特定非営利活動法人YOU&ゆう 理事長 岡田 あかね  
・一般社団法人らみのこてらす 代表理事 川邊 笑  
・徳島児童館/鳴島南児童館 児童厚生一級特別指導員 子どもゆめスクエア 副代表理事兼局長 木村 友妃  
・板野町子ども家庭総合支援センター 所長 百本 洋時

15:20-16:20 「未来の居場所」を共創するアイデアソン  
・こども・若者の発表  
・グループワーク

主催 徳島県こども未来部こども家庭支援課

#### 講師

理事長 幸重 忠孝 氏プロフィール  
(特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター)  
1973年生まれ。岡山県出身。社会福祉士。花園大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了。児童福祉施設職員、大学教員を経て、滋賀県内の小中高校でスクールソーシャルワーカーとして勤務。NPO法人山科福祉こどものひろば(京都市)理事長を経て、2018年度に滋賀県大津市にNPO法人こどもソーシャルワークセンターを設立。初代理事長(現在に至る)



#### 定員

100名

#### 対象者

行政・教育・福祉等支援関係者及びこどもの居場所づくりや支援に関心のある方等

事務局  
公益社団法人徳島県労働者福祉協議会  
TEL:089-625-8387 / FAX:089-625-5113  
tokushima@rofuku.or.jp https://www.tokushima-rofuku.net

参加申込はこちら



新時代へ  
躍り出そう  
TOKUSHIMA

[裏面]

2025年度徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

## 「こどもの居場所」共創フォーラム

### 参加申込書

氏名	ふりがな (必須)
所属名	
メールアドレス	
電話番号	(必須)

該当するものに ○を付けてください	(必須) ①行政職員 ②教育関係者 ③スクールカウンセラー ④スクールソーシャルワーカー ⑤社会福祉関係者 ⑥児童福祉関係者 ⑦民生委員・児童委員 ⑧社会福祉協議会 ⑨NPO法人及び任意団体 ⑩こども支援に関心のある方 ⑪学生 ⑫その他 ( )
----------------------	--

- 記載の個人情報については、「こどもの居場所」共創フォーラム以外の目的には使用せず、徳島県個人情報保護条例及び公益社団法人徳島県労働者福祉協議会の個人情報保護規程に基づき適正に管理します。
- 悪天候等により開催できない場合は、当日9時迄にホームページ (<https://www.tokushima-rofuku.net>) でお知らせいたします。
- 下記へFAX又は申込フォーム (<https://forms.gle/4cv3omdURmJ9dx6X7>) からお申し込みください。

お問合せ・お申込先

公益社団法人徳島県労働者福祉協議会  
徳島県「こどもの居場所」共創フォーラム 事務局 宛

**FAX.088-625-5113**

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階  
TEL.088-625-8367 WEB. <https://www.tokushima-rofuku.net>

## 2. 開催報告

### 「こどもの居場所」共創フォーラム 開催報告



2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム  
開催報告

徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

### 「こどもの居場所」共創フォーラム 開催報告

「こどもたちの声」を起点に参加者全員で「わたしたちが考えるこどもたちの居場所」創造しました

11月14日（金）、徳島県「こどもの居場所」共創フォーラムが開催され、「こどもの居場所」運営者をはじめ、こどもの支援に関心のある約90名の方がたにご参加いただきました。このフォーラムは、「こどもまんなか」の理念に基づき、徳島県内外でご活躍の皆さまの先進的活動事例に加え、実際のこどもたちの声の共有を通じて、徳島県内で「こどもの居場所」づくりの支援の輪を広げることを目的として開催されました。

事例発表では登壇者の方がたから、徳島県内においてすぐにも取り組める具体的な事例を発表いただき、次に続くグループワークでは、こどもたちの発表や事前にヒアリングしたこどもたちの声を起点に、参加者全員によるディスカッションが活発に行われ、「わたしたちが考えるこどもの居場所」が次々と創られていきました。このフォーラムを通じて、「こどもまんなか」理念の共有と目的としていた支援の輪の拡大を体現することができたと考えています。

徳島県内のすべてのこどもたちが、未来に希望を見出し、生きていくことのできる地域社会となるよう、これからもこどもたちとともに考え活動を続けて参ります。



たくさんのこどもたちが協力してくれました。ありがとうございました。

(運営事務局) 徳島県労働者福祉協議会 1



2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム  
開催報告

「こどもの居場所」に取り組まれている方々の事例発表

～滋賀県の特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重さんに発表いただきました～



～徳島県内の5名に発表いただきました～



ファシリテーター  
鳴門教育大学 木村先生



一般社団法人ひとみ学舎  
居上さん



NPO 法人 YOU & ゆう  
岡田さん




一般社団法人うみのこてらす  
川淵さん



鴨島児童館  
木村さん



板野町子ども家庭総合支援センター  
吉本さん

(運営事務局) 徳島県労働者福祉協議会 2 

2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム  
開催報告

「こどもたちの声」から共創された「未来の居場所」を紹介します

～こどもたちに「居場所」について発表いただきました～



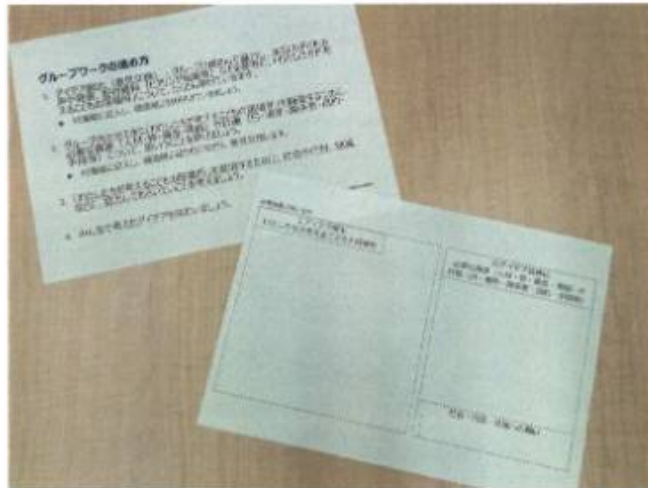
事前に居場所に集うこどもたちに、①“あったらいいなと思う居場所”、②“普段の生活のなかで「楽しみにしていること””、③“普段の生活のなかで「心配なこと””、④“おとなに知っておいてほしいこと”、について聴きました



2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム  
開催報告


～参加者全員で「未来の居場所」をグループディスカッションしました～

#### ▷グループワークの進め方



#### ▷グループワーク時の風景



(運営事務局) 徳島県労働者福祉協議会 4 

2025.11.14 開催「こどもの居場所」共創フォーラム  
開催報告

～グループディスカッションの成果～



〔運営事務局〕徳島県労働者福祉協議会 5 

I. わたしたちが考える「こどもの居場所」：グループディスカッションより

1. **安心感があり人とのつながりが感じられる**

- ・ 子どもたちが孤独を感じず、温かい雰囲気がある
- ・ ありのままの自分を受け入れてくれる安心感がある
- ・ 誰かとのつながりを持つ空間であり、信頼できる大人がいる、一人にもなれる
- ・ やさしい大人やカッコいいと思える大人がいる、しんどさも理解してくれる大人がいる

2. **自由に表現でき自由に活動ができる**

- ・ 子どもたちが自分の意志で出入りでき、やりたいことを実践できる場が提供されている
- ・ 宿泊ができる、宿題やスポーツもできる、校区内で子どもが自分で行ける、親子でも来れる

3. **多世代多文化による地域での自然な交流**

- ・ 異年齢の人々が集まり、誰でも参加できる雰囲気がある
- ・ こどもも大人も障害のある子も高齢者も外国人も誰でも参加でき、昔のようなつながりがある
- ・ 地域のつながりを感じられる、ときには、大人も相談できる
- ・ 地域のすべての方が集うことができる。

4. **学びと成長の機会**

- ・ 子どもたちが社会を学び、さまざまな体験を通じて成長できる環境が整っている
- ・ 日本の伝統なども学べ、家ではできない様々な経験ができる
- ・ 善悪を判断でき働くこと生きること学べる

5. **サポートとともに楽しいと感じられる身近な場所**

- ・ こどもカフェや地域食堂など美味しい食事が食べられる
- ・ 病院にも連れて行ってくれる、様々な支援をするが支援していると言わない
- ・ フリースクールオルタナティブスクールとして授業日数として認めてくれる
- ・ 子どもたちがいつでも戻ってこれる必要な支援を受けられ、楽しいとも感じられる、大人も楽しんでいる

創出されたアイデア

楽しい笑顔がいっぱい/ゆっぴり落ち着ける/つながってくる人や大人がいる/何でも聞いてくれる人がいる/ずっと見ていてほめてくれる/楽しい会話できる/干渉されすぎない/我慢しなくていい/孤独を感じない/皆とつながりを感じられる空間/そこへ行ったら誰かがいる/不登校を経験した人など子どものしんどさを「肌感覚」で分かってくれる大人がいる/こどもでも通って 1 人でも不安なく入れる/子ども同士で楽しく過ごせる/子どもが自分の足でも行ける/校区内に自転車で好きな時に行ける/自分を大切にすることを育む/存在や意見を否定しない/みんなが温かい/こどもも大人も自由に意見が言える/信頼できる人や大人がいる/親子で来られる/こどもが大人の相談にのってくれる/誰でも参加できて自然と仲良くなる空間/支援していると言わない/障害のある子も高齢者も外国人も誰でも参加しやすい/少人数でゆっぴりまったりできる/たまには新しい出会いもある/こどもが活躍できる/自分の意志で出入りできる/善悪を判断する心を養う/やってみることが実践できる/自分の時間を持てる/宿題ができる/勉強を教えてくれる/夜の時間を過ごせる/泊まれる/美味しいものが食べられる/おやつがある/自然の中でいろいろな体験ができる/なにがやらできる/自分の特技を見つけられる/くすりり寝れる/家ではできないこと楽しい経験体験ができる/自分の想いをアートで表現できる/自分に役割があり役に立てる貢献できる/ChatGPT など最新のテクノロジーに触れられる/いろいろと聞かれない通いやすい場所/嫌なことしなくてもよい/子どもも大人も友達ができる/出入りが自由にできる/社会を学ぶ/病院に連れて行ってくれる/みんなが集まってスポーツができる/日本の昔からの伝統文化を学べる/ダンス教室/公園や図書館のある広い場所がありボール遊びもできるが 1 人にもなれる/食堂・調理もできる/こどもカフェ・子ども地域食堂/駄菓子屋さん/温水プール/学童保育・児童館・フリースクール/こども送迎タクシー/一緒に家まで行ける伴走できる/働くこと生きること目的とした居場所/高校生以上で働く一歩をサポートできる場/いつでも戻ってこれる場所（帰ってこれる）/授業日数を認めてくれるフリースクール/ドッグランのような場所/オルタナティブスクール/ピオトープが考えられているような生き物の多い場所/はみ出して一人であるときあなたは別におかしくないと言ってもらえる/午前中の児童クラブを利用できる



Ⅱ. わたしたちが考える「こどもの居場所」を創造するために必要なこと：グループディスカッションより

1. 関わる人や地域のつながり

- ・一緒に活動する仲間、ボランティアやボランティアコーディネーターなどの人材の確保
- ・まちの専門家に関わってもらい、地域の理解者や運営者のモチベーションも重要
- ・小中高校生がいっしょに話やゲームができ、お年寄りと一緒に日本の昔遊びを伝えていくことのできる場
- ・地域でつながるための行政職員
- ・コミュニティ同士がつながる、ネット空間やインターネットを活用する

2. 地域資源の活用と情報発信

- ・空き家や商店街、旧小学校・集会所など社会施設を利用する
- ・農家や高齢者施設とのタイアップ
- ・地域の居場所マップを作る

3. 資金調達とノウハウの共有

- ・十分な資金や行政の資金援助、クラウドファンディング
- ・公的施設の無料化や手続きの簡素化
- ・他機関との連携や立ち上げるノウハウ（法人など）の共有

4. 具体的内容

- ・遊ぶこと、静かにすごすこと、スポーツもできる場所、スピーチ体験や文芸体験
- ・地域に住む大人の仕事に就いて話を聴く機会をつくる
- ・1食300円（給食費にあわせて）の宅食の支援や子ども食堂の運営、朝食会の開催
- ・長期休みの対応、24時間対応、フードバンク・自転車バンク

創出されたアイデア

一緒に活動する仲間・人手（誰でもいいわけではない）/まちのお店・まちのプロ（ミュージシャンとか）/大人も若者も理解者/ボランティア・ボランティアコーディネーター/地域でつながるための行政職員/運営者のモチベーション（参加する人がいる限り続けたい）・個人の信念・信頼・人情で細く長く継続できる/1食300円（給食費にあわせて）の宅食の支援/子ども食堂/ボランティアをしてくれる人材の確保/小中高校生がいっしょに話やゲーム（謎のつながり）/お年寄りと一緒に日本の昔遊びを伝えていく/外国の方とゲームを通して“スピーチ体験/学校の先生が居場所を理解すること/子どもと近い年齢の支援者/多世代の人がいる/近所の会社やお店の人がいる/集まる人がフラットな関係/子どもが遊べるゲーム類/空き家/旧小学校・集会所など社会施設/遊ぶ・静かにすごす・スポーツができる所/決まった時間以外でも食事食べ物を用意されている/フードバンク・自転車バンク/農家とタイアップ（野菜や米の栽培や収穫を体験）/人が集まれる空間・ネット空間インターネットの活用/自然と動物のふれ合い（ドッグランなど）/お茶体験・琴・たいこ演奏体験/食育活動（収穫した野菜などによる調理実習）/地域に農園をつくる/子どもがかけられる距離にある居場所のマップ/家・空き家/ソファなどつるもの/高齢者施設等既存施設の利用/朝食会（登校前にごはんを提供）/長期休みの対応/24h対応/SOSが出せる/選択肢が多い/地域に住む大人の仕事について話を聴く機会/まずつくる/十分な資金/クラウドファンディングや行政の資金援助/公民館など無料に/簡易な手続きで得られる資金/立ち上げるノウハウ（法人など）/それぞれの居場所やコミュニティがつながること/民家や商店街などの一般家屋と連携して子供の選択肢を拡充すること/他機関と連携しながらサポートすること/1人1人にあった場所をつなげる機関づくり/地域の人との関わり/ボランティアグループ・母の会/それぞれの地域での居場所



Ⅲ. 地域社会や行政などに協力してほしいこと：グループディスカッションより

- 1. 居場所の理解と普及**（地域の人々の積極的な関与により居場所の普及を促進する）
  - ・施設や居場所への理解やそれを常識として一般市民が自然なものとなること
  - ・人と人とを結びつけるような取り組みや頑張っている人の邪魔をしない姿勢
  - ・広告 PR を広く行う
  - ・気軽にできる活動から始め、コンビニ感覚で数多くの居場所をつくる
- 2. こども中心のイベント開催**（こどもが通いやすい居場所を創出し地域活性化につなげる）
  - ・こども中心のイベントや居場所へ行くことへのサポート
  - ・数多くの居場所をつくり、中高生の居場所もつくる
  - ・こどもと一緒にチラシを作成し広報する
- 3. 情報発信とネットワークづくり**（こどもや地域の方が情報を受け取りやすく、活用しやすい仕組みをつくる）
  - ・居場所がネットで簡単に調べられる、資源マップやポータルサイトを見やすくする
  - ・地域の資源を可視化するための情報発信やネットワークの構築
  - ・新聞や雑誌社との連携
- 4. 資金支援と手続きの簡素化**（居場所や支援体制の持続可能性を高める）
  - ・地域の方からの寄付や行政の資金支援、こどもへの予算増額
  - ・ボランティア団体の立ち上げ相談支援体制
  - ・公的施設の無償貸与、公共交通（タクシー含む）の利用補助
  - ・助成金などの簡素化と先払いの仕組み
- 5. 行政との連携と支援の均一化**（地域間格差の解消と地域幸福度向上を図る）
  - ・行政の下請けではないとの認識、行政の変容
  - ・民間と行政との連携、行政による各機関の仲介、人と人をつなげていく仕組み
  - ・子育て支援レベルの均一化、教育レベルの向上
  - ・行政による積極的な広報活動や相談体制など細かいサポート

創出されたアイデア

施設や居場所への理解やそれを常識として一般市民が自然なものとなること/チラシや新聞に掲載しやすくなる環境/雑誌社の連携（一般市民がすぐ表現できる）/居場所に行くことをサポートしてほしい/こども中心のイベントを/頑張っている人の邪魔しない/だまって見守ってほしい/こどものためにいいことは取り入れよう/中高生の居場所をつくらう/地域活性化はこどもから/こどももんなかで/居場所がネットで簡単に調べられるとよい（学びのカタログ）/学習支援/地域の方の寄付/ネットワークづくり/来れない人を発見する/数多くの居場所があってもいい（コンビニ感覚で）/いろいろな施設（老人保健施設・ラウンジ・すし屋）他/人と人をつなげるような取り組み/多くの希望者（支援したい人）が気軽に活動できる事例をまずはスタートさせる・広告 PR を広く行う/補助金助成金が終わった後の継続支援/団体内での参加費も限り越せるようになってほしい/助成金を簡素化してほしい/各機関への仲介役/助成金の支払いを先に/お金の使用範囲の拡大/公立・行政で/行政へ変わってほしい/民間の居場所への金銭的支援（金銭的に長くが難しい）と手続きの簡素化（手続きが煩雑）/建物をつくるだけでなく細かいサポートを/行政が積極的に話を聞いてくれる/行政が補助金を出してくれる/チラシなどこどもと一緒に作成して広報/子ども食堂ネットワークの活用事業/ボランティアの参加が増えるよう支援/根拠請求がもっとできるようになってほしい/こどもへの予算/各市町村の理解が必要/ボランティア団体の立ち上げの相談/町ごとの資源マップ/ポータルサイトをもっと見やすく充実してほしい/私達は行政の下請けではない/助成金/民間と行政の連携必須/公共交通（タクシーも）の利用補助（こどもバスのなくみ）/板野町のように財源を確保してほしい/市町村で子育て支援のレベルが違いすぎるので均一化してほしい/教育レベルをあげることによって貧困の連鎖をとめることができるので地域の居場所で学ぶ取り組みを/支援をしたい人を広げたい/仕組みを行政地域で大々的に PR していく（里親制度やヤングケアラー対策など）/こつこつ機会がもっと聞かれるべきである



フォーラムに参加した感想など（アンケート結果のなかから子どもたちに関する回答を抜粋しました）

若者から直接話を聞く場という  
のはとても重要なことだと思っ  
たし、生の声が聞けてよかった。

こどもの発表を聞けるのは良か  
った。大人ばかりが意欲的にな  
らず、当事者たちに目を向けて  
いるの感じがした。

子どもたちの発表が本質を突い  
ていて、胸に迫るものがあった。

若者の声が自  
然に入った。

子供さんたちの生の声が  
聞けて良かったです。

どのプログラムも良かったです。  
若者による発表、特に良かったです。

実際の子どもさんのお声をきけ  
て良かったです。

子供の意見に気づかされ  
る事があった。

子どもへの愛が  
感じられた。

若者の声は真っすぐでひびく！

子どもの居場所は役所の机の上で  
の協議だけでは見つけられないな、と  
思えた。紹介事例を聞いてなるほ  
ど、と思えた。

子ども達と話をしながら、子ども達が企  
画していくこと等々が大切だと思いま  
した。いろいろリラックスできる体験をする  
ことは、楽しい。

子どもたちの居場所は子どもたち  
本人が「ここにいていい」と思う場  
所でないといけないのだと思った。

各団体の取り組みや大切にしてい  
ることが、子どもを真ん中にして  
考えられており、心に響いた。

以上

### 3. 当日配付資料

[次第]

徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

#### 「こどもの居場所」共創フォーラム

#### ◇ 次 第 ◇

開催日：2025年11月14日(金)

時 間：13時30分～16時30分

会 場：徳島県教育会館5階ホール

#### 1. 開 会

#### 2. 講 演

◇特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重 忠孝 様

演題 「こどもたちとつくるこどもの居場所」

#### 3. 先進事例ピッチセッション

ファシリテーター 国立大学法人鳴門教育大学 准教授 木村 直子 先生

◇一般社団法人ひとみ学舎 代表理事 居上 公美子 様

◇特定非営利活動法人YOU&ゆう 理事長 岡田 あかゆ 様

◇一般社団法人うみのこてらす 代表理事 川邊 笑 様

◇鴨島児童館/鴨島南児童館 児童厚生一級特別指導員

子どもゆめスクエア 副代表兼事務局長 木村 友紀 様

◇板野町子ども家庭総合支援センター 所長 吉本 洋時 様

#### 4. 休 憩

#### 5. 「未来の居場所」を共創するアイデアソン

◇こども・若者による発表

◇グループワークと全体発表

#### 6. 閉 会

※アンケート（無記名）回答のご協力をお願いします。

ご回答は、アンケート用紙への記入、または、右の2次元バーコードから  
ご入力ください。(URL <https://forms.gle/26aBXc6mCgDjldRL7>)



2025年11月14日開催

徳島県「こどもの居場所」多様化推進事業

## 「こどもの居場所」共創フォーラム アンケート



本日は「こどもの居場所」共創フォーラムにご参加くださりありがとうございました。今後の事業に活かすために皆様のご意見ご感想をお聞かせください。下記の項目について該当する数字を○で囲み、あわせて必要事項をご記入ください。

1. 所属先について

- ①行政職員 ②教育関係者 ③スクールカウンセラー ④スクールソーシャルワーカー  
⑤社会福祉関係者 ⑥児童福祉関係者 ⑦民生委員・児童委員 ⑧社会福祉協議会  
⑨NPO 法人及び任意団体 ⑩こども支援に関心のある方 ⑪学生 ⑫その他 ( )

2. 今回のセミナーをどこで知りましたか。

- ①広報誌：徳島県・市町村・関係機関 ( ) ②メール：徳島県・市町村・関係機関 ( )  
③ホームページ：徳島県・市町村・関係機関 ( ) ④情報とくしま ⑤事務局（徳島県労福協）  
⑥SNS ⑦リーフレットを見て（それはどこですか： ) ⑧その他 ( )

3. フォーラムプログラム内容は参考になりましたか。

- ①たいへん参考になった ②まあまあ参考になった ③あまり参考にならなかった ④ほとんど参考にならなかった  
そう思われる理由をお聞かせください。

[ ]

特によかったと思われるプログラムをお聞かせください。（複数回答可）

- ①講演「こどもたちとつくるこどもの居場所」 ②先進事例ヒッチセッション ③未来の居場所を共創するアイデアソン  
そう思われる理由をお聞かせください。

[ ]

4. 「こどもの居場所」づくりに関する事で、今後希望される講演や研修内容等があれば、お聞かせください。

[ ]

5. その他ご意見やご感想、明日からのアクションにつなげていきたい点などがありましたらお聞かせください。

[ ]

※徳島県の「こどもの居場所」づくりに関する取り組みについては、  
右の2次元バーコードからご参照ください。



ご協力ありがとうございました。

[グループワーク 配付物]

## グループワークの進め方

1. アイデア創出（意見交換）：グループの皆さんで協力し、本日の子どもの声や発表、配付資料（ヒアリング結果等）などを参考に、「わたしたちが考えるこどもの居場所」について、たくさん挙げていきます。
  - ▶ 付箋紙に記入し、模造紙に貼り付けていきましょう。
2. グループ内で出てきた「わたしたちが考えるこどもの居場所」を創造するために、必要な資源（人材・物・資金・情報）や計画（日・場所・関係者・目的・手段等）について、思いつくことを挙げましょう。
  - ▶ 付箋紙に記入し、模造紙に貼り付けながら、意見交換します。
3. 「わたしたちが考えるこどもの居場所」を実現するために、社会や行政、地域などに、協力してもらいたいことを考えましょう。
4. みんなで考えたアイデアを味わいましょう。

公益 徳島県労働者福祉協議会

※模造紙の使い方例

<p>①アイデア創出 わたしたちが考えるこどもの居場所</p>	<p>②アイデア具体化 必要な資源（人材・物・資金・情報）や 計画（日・場所・関係者・目的・手段等）</p> <p>社会・行政・地域への願い</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
-------------------------------------	---

以上

## 不登校のこどもの居場所コーディネート業務について 報告書

報告日 2026年3月20日

一般社団法人 ひとみ学舎

代表理事 居上 公美子

### 1 事業の目的

不登校または不登校傾向にあるこどもの保護者を支援することは何よりも不登校のこどもたちの支援につながると考える。こどもが不登校になった直後と、こどもの状況を受け入れつつある状態の保護者では必要とする支援の内容が異なる。本事業では、こどもの状況を受け入れつつある保護者を対象として、今後のこどもを育てる指針を保護者が探すための知識と仲間づくりの支援を行う。また、こどもと保護者と支援者が一緒に活動することを通して、こどもの状態や特性を共有し、「この子」に必要な支援を具体的に探していくことを重視する。

### 2 事業実施の実際

次の三つの活動を実施した。

- ①こども理解や子育てについての知識を得て保護者自身の子育ての指針を探すための勉強会として「親いもの会（以下「親いも」と略す）」を開催した。
- ②具体的なこどもへの対応・声掛け・過ごし方等を探すために、こども・保護者・スタッフが一緒に活動する会として「居場所の会（以下「居場所」と略す）」を開催した。
- ③こどもと学校や居場所、フリースクール等がつながるように、「この子」にあった学びの形（学ぶ内容や方法・場所）を探す会として「この子の学びを探す会（以下「この子」と略す）」を開催した。

これらの活動実施日・テーマ・開催場所・スタッフ・参加者は次の表のとおりである。

回数	実施日		テーマ・講師	開催場所	スタッフ	参加人数
1	2025/7/5	親いも	「ゲーム障害について」 井上麻由（藍里病院医局長）	ひとみ学舎（鳴門市大津町吉永130-2） Zoom ウェビナー	社会人：2	大人：12 教員：1 議員：1 県職員：1
2	2025/7/12	親いも	「ゲーム障害について」振り返り	Zoom ミーティング	社会人：1	保護者：6
3	2025/7/19	居場所	ゲームの回	ひとみ学舎	社会人：4 大学生：1 高校生：1	こども：9 保護者：2

4	2025/8/16	居場所	流しそうめんの回	ひとみ学舎	社会人：5 大学生：0 高校生：0	こども：10 保護者：3
5	2025/8/23	この子	「この子」理解支援シートの作成及び学校と連携してみでの振り返り	とくしま県民活動プラザ	社会人：1	大人：6 教員：1 民生員：1 報道：1
6	2025/9/20	居場所	野外料理に挑戦しよう・楽しもうの回	月見ヶ丘海浜公園	社会人：4 大学生：1 高校生：1	こども：8 保護者：1
7	2025/9/27	この子	「この子」理解支援シートの作成及び学校と連携してみでの振り返り	とくしま県民活動プラザ	社会人：1	保護者：6 教員：1 議員：1 県職員：2
8	2025/10/18	居場所	運動会チェックな回	北灘西小学校（体育館）	社会人：4 大学生：2 高校生：0	こども：7 保護者：1
	2025/11/8	親いも	「教育をめぐるっての対話～ケア型学問としての教育学～」 弘田陽介（大阪公立大学教授）	ひとみ学舎 Zoom ウェビナー		講師体調不良により中止
9	2025/11/15	居場所	芝滑りと飾りづくりの回	板野町歴史文化公園	社会人：3 大学生：2 高校生：2	こども：8 保護者：2
10	2025/11/22	この子	「この子」理解支援シートの作成及び学校と連携してみでの振り返り	とくしま県民活動プラザ	社会人：1	保護者：7 教員：3 NPO 主催者：1
11	2025/12/13	親いも	「からだの声を聴くということについて（お話）and 心の整理（方法の体験）」 笹田晃子（徳島県スクールカウンセラー）	伊勢はんく（阿南市柳島町高川原6）	社会人：1	保護者：6 NPO 主催者：1 NPO 勤務：4 居場所主催者：1

12	2025/12/20	居場所	クリスマス会	ひとみ学舎	社会人：3 大学生：2 高校生：2	こども：7 保護者：1
13	2025/12/27	親いも	「からだの声を聴くということについて（お話）and心の整理（方法の体験）」 振り返り	Zoom ミーティング	社会人：1	大人：4
14	2026/1/17	居場所	凧あげの回	ひとみ学舎 ウチノ海浜公園	社会人：4 大学生：1 高校生：2	こども：9 保護者：1
15	2026/1/18	親いも	「インクルーシブ教育を考える」 松原順子（相談支援センター イノセント）	美馬市寺町防災交流センター（美馬市美馬町字寺ノ下20-1） Zoom ウェビナー	社会人：1	保護者：8 教員：4 居場所主催者：1
16	2026/1/24	この子	「この子」理解支援シートの作成及び学校と連携してみでの振り返り	とくしま県民活動プラザ	社会人：1	保護者：6 NPO 主催者：1
17	2026/1/31	親いも	「インクルーシブ教育を考える」振り返り	Zoom ミーティング	社会人：1	保護者：4 教員：1
18	2026/2/21	居場所	お味噌づくりの回	ひとみ学舎	社会人：4 大学生：0 高校生：1	こども：7 保護者：2
19	2026/2/28	親いも	就労に絡む福祉サービスやその他生活支援について 松尾貴範（社会福祉法人愛育会） 久保等（就労継続支援A型事業所サスケ工房）	ひとみ学舎 Zoom ウェビナー	社会人：1	保護者：17 教員：2 居場所主催者：1

20	2026/3/7	親いも	「就労に絡む福祉サービスやその他生活支援について」振り返り 松尾貴範（社会福祉法人愛育会） 久保等（就労継続支援A型事業所サスケ工房）	Zoom ミーティング	社会人：1	保護者：6 教員：1
21	2026/3/21	居場所	サイクリングとボードゲームの回	ひとみ学舎 鳴門市内	社会人：3 大学生：1 高校生：2	こども：5 保護者：0
22	2026/3/22	居場所	ニュースポーツで遊ぼう	鳴門市地域共生センター	社会人：4 大学生：0 高校生：0	こども：4 保護者：2 社会人：3
23	2026/3/28	この子	「この子」理解支援シートの作成及び学校と連携してみでの振り返り	とくしま県民活動プラザ	社会人：1	保護者：7 教員：1 NPO 主催者：1

広報展開においては、鳴門市教育委員会の後援・協力を得て、児童生徒の全家庭へのチラシ配付を実施した。あわせて、デジタルメディア（Facebook等）の活用や、既存の保護者ネットワーク（親の会）での告知を並行して行うことで、多角的なアウトリーチを展開。地域社会および当事者コミュニティへの網羅的な周知を実現した。「親いもの会」「『この子』の学びを深める会」および「居場所の会」における配布広報物、ならびに詳細な実施記録については、事業別に整理した【別紙資料】に添付している。

### 3 成果と課題

#### ①親いもの会

- ・講演では「こどもの病気（ゲーム障害）」「心のケア」「教育」「福祉就労」をテーマに掲げました。いずれも保護者が日常的に直面している課題であり、高い関心が寄せられた。事後のミーティングでは、家庭での実態について活発な意見交換が行われ、参加者同士が互いの経験を自分事として共有し合う貴重な機会となった。
- ・保護者に留まらず、教員やNPO関係者など、こどもに関わる多職種が参画する体制へと発展している。講演後の協議では各専門性に基づく意見が積極的に出され、こどもに対する多角的な視点を共有し、理解を深め合う場となった。

- ・今年度は徳島県南部および西部へも活動を拡大した。各拠点の協力者による主体的な運営支援により、地域に根ざした開催が実現した。これにより、各圏域特有の教育的・福祉的課題を相互に把握する契機となったほか、新規参加者の獲得にも繋がった。既存の参加者と新地域の参加者による交流も促進され、広域的な支援ネットワークの構築が進んだ。

## ②居場所の会

- ・家庭から一步踏み出すためには、具体的な「目的」が必要である。そのため、身体を動かす活動やゲーム、食、ものづくりなど、多角的なプログラムを提案することは極めて有効であった。また、活動時間内に「全員で行う時間」と「個々が自由に選べる時間」をバランスよく配置することで、子どもたちの心理的負担を軽減し、主体性を引き出すことが可能となる。
- ・本活動は子どもだけでなく、保護者の継続的な参加も定着している。保護者からは「スタッフの対応を家庭での接し方の参考にしたい」との声があり、当団体がロールモデルとしての役割も果たしていることが伺える。特に、経験豊かな社会人スタッフの層の厚さは、保護者の心理的な安心感に大きく寄与している。
- ・スタッフは高校生から大学生まで、幅広い年齢層と多様な立場のメンバーで構成することができた。子どもたちにとっては、年齢の近いスタッフの存在が大きな安心感に繋がっており、実際、兄姉のような存在として親しみを持って話しかける姿が多く見られた。また保護者にとっても、相談のしやすさや、安心して子どもを任せられる信頼関係の構築に寄与している様子が見えられた。
- ・不登校の子どもの中には、外出に強い不安を抱えている様子が見受けられる。些細な困りごとにも即座にフォローし、「失敗体験」にさせないきめ細やかな配慮が不可欠である。そのため、参加者一人に対してスタッフ一人が付随できるような、手厚い人員配置が望ましいと実感した。
- ・味噌づくり等の調理活動において、感覚過敏を有する参加者が「大豆を煮る際の嗅覚的刺激」を理由に参加を断念する事例が確認された。今後は、屋外での煮炊きによる排気への配慮や、別プログラムとの並行実施による選択制の導入など、環境構成を工夫し、参加のハードルを下げる取り組みが求められる。
- ・活動事後のケース会議（ミーティング）を定例化し、個々の特性や反応を分析・共有している。このプロセスを通じて、スタッフの支援技術の向上が図られ、エビデンスに基づいた具体的な介入や適切な声掛けの検討が可能となった。

## ③「この子」の学びを探す会

- ・本活動は、保護者同士の交流を促す「居場所」に留まらず、保護者自身が「この子」理解・支援シート（以下「シート」）を作成する「学びと実践の場」としても機能した。具体的には、単なる記入方法の習得だけでなく、参加者同士で「この子」の日常をヒアリングし、多角的な視点で見立て合うワークを導入した。この対話型アプローチにより、個人では見出すことが困

難だったこどもの実態や将来の目標が明確化された。これは同時に、家庭生活においてもこどもを客観的に観察する「新たな視点」を獲得することに繋がっている。

- ・参加者は保護者に留まらず、教員、地方議員、行政職員、民生委員、NPO 主催者など、多職種へと拡大している。多様な立場の参加者がワークを通じて「この子」の学びを共に検討することで、自身の身近なこどもへの関わり方を見つめ直す機会となった。具体的には、作成した「シート」を用いた学校との連携事例や、執筆を通じた自身の心境の変化などが活発に共有された。また、こどもを取り巻く社会や教育、支援の在り方について意見を交わす場を設けたことで、「シート」作成の真の目的への理解が深まり、こどもと地域社会の関わりを再考する貴重な契機となった。
  - ・不登校の子を持つ保護者からは、「家庭内での育児の完結に伴う閉塞感や自責の念、将来への不安がある中、シート作成が現状を冷静に整理する一助となった」との感想が寄せられた。特筆すべき成果として、実態の記録化や教育的視点の再確認、そして関係者間の具体的な役割分担が明確になり、実効性のある支援へと繋がったことが挙げられる。
- 一方で、厳しい現実直面するプロセスには心理的な苦痛も伴う。このことから、シート作成には一定の効果が認められるものの、保護者の「向き合う苦しさ」に寄り添い、継続的かつ丁寧に支える伴走者の存在が不可欠であることが明らかとなった。


1. 配布チラシ



ひとみ学舎主催

# 「親いもの会」 参加者募集

★親いもの会★  
出欠連絡用の専用LINEが出来ました・ご登録お願いいたします



専門家から子育てに関する知識を得て、自分（私）の子育てのありようについて考え、「親いもの会」のメンバーどうして話し合います。このことを繰り返すことにより、お互いに支え合えるようになることを目的とします。



## 7 / 5 (土曜日) 19:00 ~ 21:00

### 第8回 講師

いのうえ まゆ  
**井上 麻由 医師**

(藍里病院 医局長)

～ゲーム障害について～

ゲーム障害とはどんな病気なのか？  
支援者ができることは何なのか？  
こどもの身近な課題についてみんなで一緒に考えましょう。



#### 開催場所と開催方法

- ① 会場：一般社団法人 ひとみ学舎  
(徳島県鳴門市大津町吉永130-2)
- ② ZOOMウェビナー

ご希望の方は、ひとみ学舎までご連絡ください。ZOOMのIDをお知らせします。

#### 対象

ひとみ学舎を利用している保護者  
不登校経験のある子どもの保護者  
子どもを応援したい大人等

#### 参加費

無料

#### 申し込み締め切り

2025年6月15日(土)

#### お願い

本会は、子育て支援体制充実を目指した実践研究の一環として実施されます。種々のアンケートへのご協力をお願いいたします。



**P** 駐車場につきまして  
ハローズ鳴門店様のご厚意により、  
駐車場をお借りしております。  
できるだけ店舗から離れた場所に  
駐車してください。


**お申込・お問い合わせ**

☎ 090-5271-0088 (担当：居上(いがみ))

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp

一般社団法人 **ひとみ学舎**





ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

ひとみ学舎主催  
「親いもの会」  
参加者募集

★親いもの会★  
出欠連絡用の専  
用LINEが出来ま  
した・ご登録お  
願いたします



専門家から子育てに関する知識を得て、自分（私）の子育てのありようについて考え、「親いもの会」のメンバーどうして話し合います。このことを繰り返すことにより、お互いに支え合えるようになることを目的とします。

11/8 (土曜日)

19:00 ~ 21:00

第1回 講師

弘田 陽介先生

(大阪公立大学大学院文学研究科  
人間行動学専攻 教授)

テーマ

「教育をめぐるの対話：  
ケア型学問としての教育学」

現在の教育をめぐる、みなさんの忌憚のないご意見をいただければと思っております。教育学が何かをみなさんに教えるというより、みなさんの声を傾聴する学問になるべきだと考えておりますのでどうぞご参加のみなさまよろしく願いたします。

弘田先生のプロフィール

整体協会身体教育研究所・動法教授資格者。専門はドイツ教育思想、実践的身体教育論、子どもと保育のメディア論。著書に『近代の擬態／擬態の近代 カントというテクスト・身体・人間』（2007年、東京大学出版会）、『いま、子育てどうする？ 感染症・災害・AI時代を親子で生き抜くヒント集35』（2021年、彩流社）等がある。

開催場所と開催方法

- ① 会場：一般社団法人 ひとみ学舎  
(徳島県鳴門市大津町吉永130-2)
  - ② ZOOMウェビナー
- ご希望の方は、ひとみ学舎までご連絡ください。ZOOMのIDをお知らせします。

対象

ひとみ学舎を利用している保護者  
不登校経験のある子どもの保護者  
子どもを応援したい大人等

参加費

無料

申し込み締め切り

2025年11月7日(金)

お願い

本会は、県の「子どもの居場所」機能強化支援事業の一環として開催されます。様々のアンケートへのご協力をお願いいたします。

**P** 駐車場につきまして

ハローズ鳴門店様のご厚意により、駐車場をお借りしております。できるだけ店舗から離れた場所に駐車してください。

お申込・お問い合わせ

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 (担当：居上(いがみ))

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。





ひとみ学舎主催

参加費無料

# 「親いもの会」 参加者募集

親いもの会  
出欠連絡用の専用  
LINEが出来ました  
ご登録お願いいたし  
ます



専門家から子育てに関する知識を得て、自分（私）の子育てのありようにつ  
いて考え、「親いもの会」のメンバーどうして話し合います。このことを繰り  
返すことにより、お互いに支え合えるようになることを目的とします。

2025年

12/13 (土曜日)

19:00 ~ 21:00

第2回 講師

笹田 晃子先生

(徳島県スクールカウンセラー  
徳島文理大学非常勤講師)

テーマ 「からだの声を聴く」

自分の体の声を聴くということ  
について (お話し) and  
”こころの整理” (方法の体験)

対象

ひとみ学舎を利用している保護者  
不登校経験のある子どもの保護者  
子どもを応援したい大人等

申し込み締め切り

2025年12月12日(金)

お願い

本会は、県の「子どもの居場所」  
機能強化支援事業の一環として  
開催されます。様々なアンケート  
へのご協力をお願いいたします。

今回は阿南市での開催です

会場の都合により  
定員は先着20名です



会場：伊勢はんク

(徳島県阿南市柳島町高川原6)

**P** 駐車場につきまして

伊勢はんク近くに、オレンジ屋  
根倉庫駐車場、また、近接する  
砂利の駐車場がございます。  
駐車場住所 / 阿南市柳島町南高  
川原71



今後の開催についてのお知らせ

来年初旬には美馬方面で開催を予定  
しています。詳細は決まり次第チラ  
シにて回覧いたします。

お申込・お問い合わせ

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

ひとみ学舎主催

参加費無料



# 「親いもの会」 参加者募集

親いもの会  
出欠連絡用の専用  
LINEが出来ました  
ご登録お願いいたし  
ます



専門家から子育てに関する知識を得て、自分（私）の子育てのありようについて考え、「親いもの会」のメンバーどうして話し合います。このことを繰り返すことにより、お互いに支え合えるようになることを目的とします。

2026年

1/18 (日曜日)

14:00 ~ 16:00

今回は美馬市  
での開催です



開催場所

美馬市寺町防災交流センター  
(徳島県美馬市美馬町字寺ノ下  
20-1)

第2回 講師

松原 順子 先生

(相談支援センター イノセント)

テーマ

「インクルーシブ教育  
を考える」

悩みや不安をもちながら我が子と懸命に向き合うご家族。関わり方や支援の仕方を模索する先生方とざっくばらんに話し合い、インクルーシブ教育の現状や理想の姿について考えたいと思います。

松原先生のプロフィール

小学校・特別支援学校勤務を経て美馬市の特別支援教育を牽引してこられました。現在も豊富な知見と温かいお人柄で、生きづらさを抱える子ども、保護者、学校を結ぶパイプ役として多くの助言をいただいています。

対象

ひとみ学舎を利用している保護者  
不登校経験のある子どもの保護者  
子どもを応援したい大人等

申し込み締め切り

2026年1月17日(金)

お願い

本会は、県の「子どもの居場所」  
機能強化支援事業の一環として  
開催されます。様々のアンケート  
へのご協力をお願いいたします。

ZOOMウェビナー



ご希望の方は、ひとみ学舎まで  
ご連絡ください。ZOOMのIDを  
お知らせします。

お申込・お問い合わせ

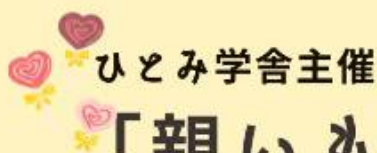
一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。



ひとみ学舎主催

参加費無料

# 「親いもの会」 参加者募集

親いもの会  
出欠連絡用の専用  
LINEが出来ました  
ご登録お願いいたし  
ます



専門家から子育てに関する知識を得て、自分（私）の子育てのありようにつ  
いて考え、「親いもの会」のメンバーどうして話し合います。このことを繰り  
返すことにより、お互いに支え合えるようになることを目的とします。



2026年

**2/28** (土曜日)  
**19:00 ~ 21:00**

## 開催場所と開催方法

- ① 会場：一般社団法人 ひとみ学舎  
(徳島県鳴門市大津町吉永130-2)
  - ② ZOOMウェビナー
- ご希望の方は、ひとみ学舎までご連絡  
ください。ZOOMのIDをお知らせします。

## 第3回 講師

**松尾 貴範 先生**  
(社会福祉法人 愛育会)

**久保 等 先生**  
(就労継続支援A型事業所  
サスケ工房)

## テーマ

就労に絡む福祉サービスやその  
他生活支援について  
A型事業や就労支援について

## 対象

ひとみ学舎を利用している保護者  
不登校経験のある子どもの保護者  
子どもを応援したい大人等

参加費  
無料

申し込み締め切り  
2026年2月27日(金)

## お願い

本会は、子育て支援体制充実を目  
指した実践研究の一環として実施  
されます。種々のアンケートへの  
ご協力をお願いいたします。



## 駐車場につきまして

ハローズ鳴門店様のご厚意により、  
駐車場をお借りしております。  
できるだけ店舗から離れた場所に  
駐車してください。

お申込・お問い合わせ

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 (担当：居上(いがみ))

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

## 2. 活動の様子

### 7月講演 ゲーム障害 GAMING DISORDER ～依存症の仕組みと家族や支援者のかかわり方のポイント～

#### ※会場等の様子

鳴門市の「ひとみ学舎」にて、ゲーム障害をテーマにした講演会を開催しました。講師には、依存症治療において徳島県をリードする藍里病院の井上先生をお招きし、医学的な見地から詳しくお話を伺いました。

参加された保護者の皆様にとって、子どもとゲームの関わり方は共通の深い悩みです。「無理にでも取り上げるべきか」「約束をどう守らせるか」といった日々の葛藤が次々と語られ、家庭で実践できる具体的なヒントを得ようとする強い熱気が会場に満ちていました。

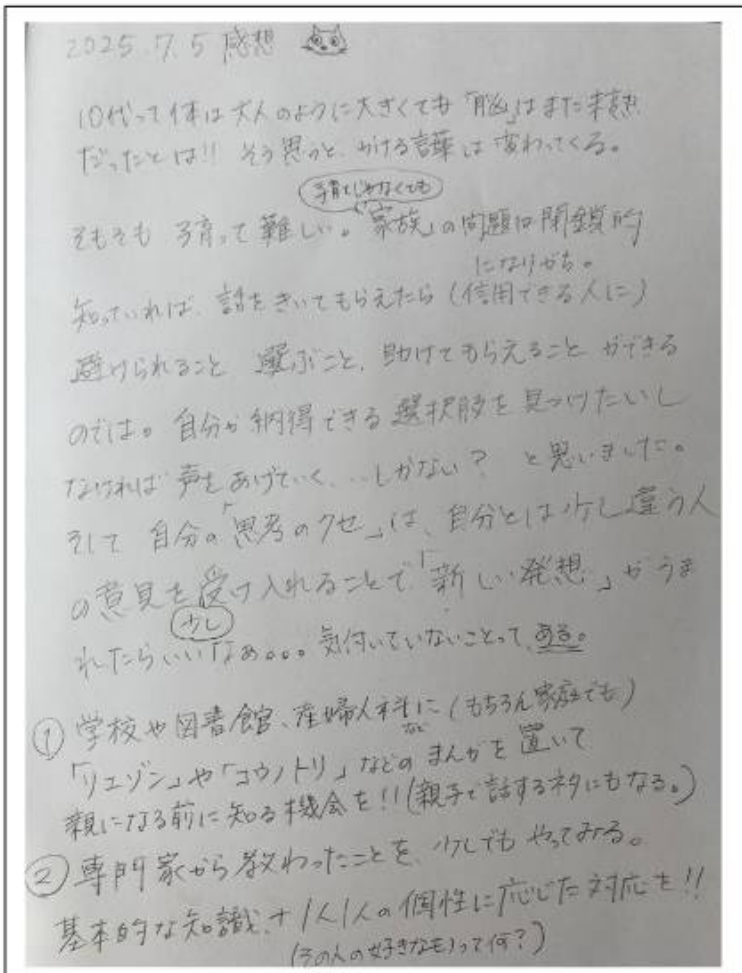
#### ※私の学んだこと～講演をお聞きして～

依存症、ゲーム障害、ゲーム障害の治療について、理解の前提として必要な科学的情報、それを踏まえた考え方を分かりやすくご説明下さり、多くの学びを得ました。まず、依存症は、前頭葉が関連した脳の病気であることを知りました。そのうえで、ゲーム依存に対応する時の考え方として、「本人の問題として本人の『依存症』だけを『治療』しようとする考え方は極めて一面的でうまくいかない」こと、「表面に現れている『問題行動』だけを見ない」ことが大前提だと知りました。ネットやゲームへの依存を、家族や友人、先生、物事などとの関係性の問題が表面化した「関係性の病」と捉えることが重要であり、家族などの支援者の関わり方を変えることが糸口となると分かりました。叱責、説教、圧力、強制は、依存行動を増やす関わりであり、依存行動を減らすには、イメージとしては本人の心に排水溝を作り、風を通すイメージで、本人のストレスや葛藤、抑圧された感情を隠さなくてよい関係性、話せる関係性と作っていくことが大事だと理解しました。

#### ※記述式アンケートより抜粋

- ・30代まで脳は未熟だと知っていれば、かける言葉は変わるなーと思った。知っているか、知らないか、の差は大きい。
- ・依存症は脳の病気であり、関係性の病であるということが心に残りました。ゲーム障害には治療薬がないので、治療的楽観主義と一緒に歩いていくしかないのかなと感じました。
- ・依存は心や性格による問題だと思っていたので、脳との相関があることを知り、子どもが依存しやすい状態にあることに理解が増えました。
- ・依存症本人の周りができることを具体的に示してくださった内容がよかったです。自分の行動を変えていくことで、症状が良くなり、依存症者の脳も発達していくことが分かったので、やっていこうという気持ちになりました。





振り返りの概要

※ゲーム障害（依存）について

- ・ゲーム障害（依存）にもいろいろな程度があるのではないかと。本人や家族がしんどさを抱えていたらすぐに治療的介入を始める必要があるのではないかと。
- ・学校に行っていないとって重症とは限らないかもしれない。風呂に入らないとか着替えれないとか生活の不便はあるが、親子関係が悪いわけのないし、本人も困っていない。
- ・ゲームを通してリアル仲間ができたり、ネットの仲間ができた息子がいる。外に出ていくきっかけになっていた。

※親子関係

- ・「治療的楽観主義」になるのは親だけでは難しい。第三者が必要。
- ・ゲームをしてると〇〇になると脅してしまふ。親は心配するから言ってしまう。
- ※A君やB君についてみんなで考える
  - ・A君ゲームの時間は多い。中学校に入っていないが、オンラインスクールに通っている。マイクラカップに出ようと練習している。ゲームリーダーになって友達に教えたり練習時間調整をしたりしている。高校の見学に行った。

・B君学校に行っていないことが不安になってしんどさに襲われる。そんな時に「しんどいからゲームしてもいい？」と決めた時間以外にゲームをしたようにする。犬と遊ぶように勧めるなどしてゲームは決めた時間だけにしている。いろいろなバージョンのアイデアをもらいたい。

振り返りの感想・知っているのと知らないとは大きく違うと思う。いろいろなことに興味を持って大人たちが情報を得ておくことが大事だと思った。

- ・ゲーム障害の治療は一夕一朝にできることではない。不安と向き合いながらやっていくしかない。自分と同じ年のこどもがいる人と出会えてうれしかった。
- ・成人した息子が中高生だった時のことを思い出しながら話をした。ゲーム好きが仕事につながったように今は思う。
- ・みなさんが優しいなあと感じた。今日の話から得たちょっとした変化を生活に取り入れていきたいと思った。
- ・生活で実際困っていることもあるが、こどもと一緒にゲームのある生活に向き合っていくしかない。こどものことや自分のことを深掘しながらやっていこうとおもった。

※会場の様子等

那賀町の「フリースクール まんなかの学校」や、阿南市の「NPO 法人 自然スクールトエック」の皆様にご協力をいただき、伊勢はんく（阿南市）にて講演会を開催しました。講師には、県内で長年スクールカウンセラーとして児童生徒や保護者を支えてこられた先生をお招きし、貴重なお話を伺いました。先生は阿南市でも長く活躍されていたため、地元の方にはよく知る間柄の方も多く、会場は再会を喜ぶ温かな空気に包まれました。参加者からは「先生のお話を聞ける機会を心待ちにしていた。初めてお会いする方との交流も嬉しい」との声が寄せられ、地域に根ざした学びと、地域外の方との交流の必要性を再認識する機会となりました。

※私の学んだこと～講演をお聞きして～

先生がチーンとベルを鳴らして、「次に鳴るまでの間、ただ静かに座ってみましょう」と。たった1～2分のはずなのに、何もしない贅沢な時間の中で、心がすーっと整っていくのが分かりました。

次に教わったのは、心の中にあるものを白い紙に「置いていく」整理法です。どんな言葉で、どんな色で、あるいは書かずに飲み込むのか……すべて自分の自由。最初は「これで本当にスッキリするの？」と不思議でしたが、思うままに筆を動かしていくうちに、心のもやもやが晴れて、パッと明るい気持ちになれたんです。

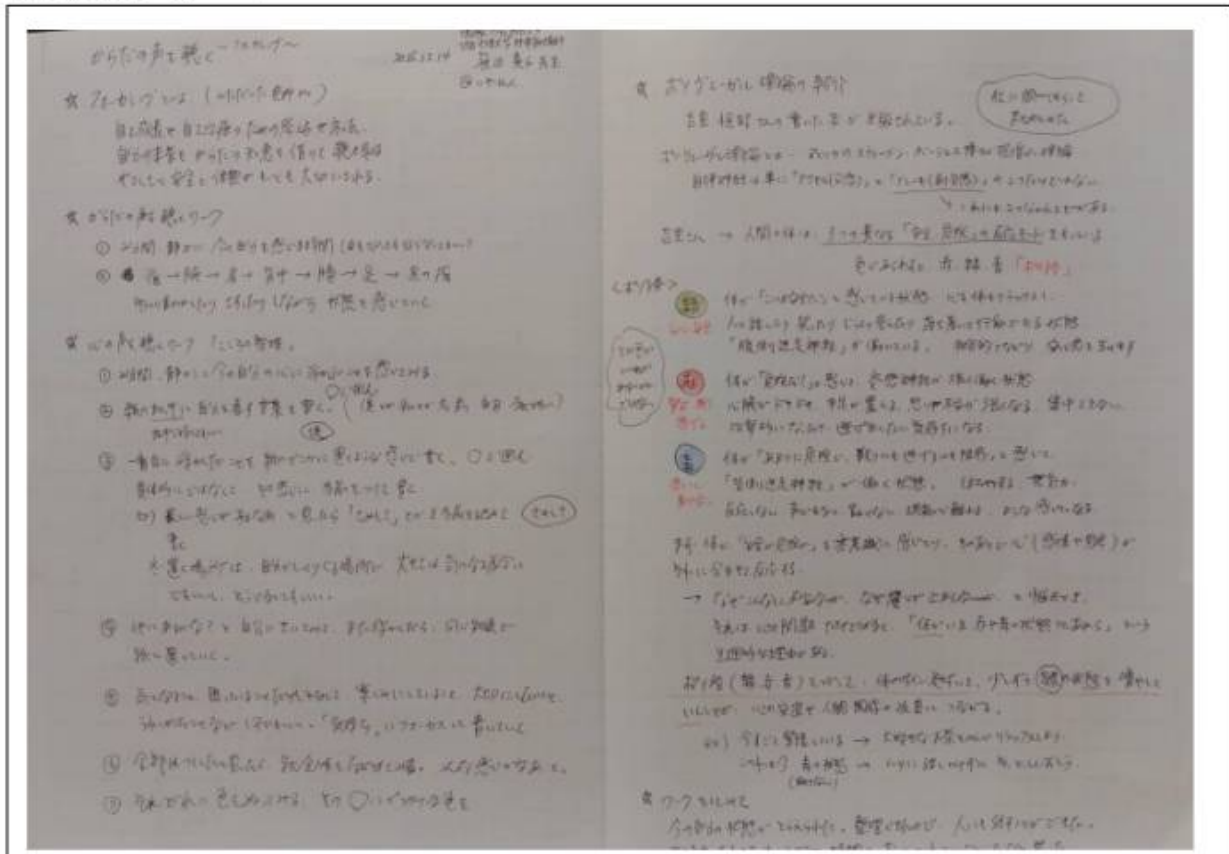
最後に教えていただいたポリヴェーガル理論の本も、イライラや不安と上手に付き合うための心強いヒントになりそうです。

※記述式アンケートより抜粋

- ・ いい悪いを特にジャッジすることもなく、ただ自分の中に出てきたものを紙に置いていく作業がシンプルで自分にはやりやすかったです。出してみても初めて気づくこともありました。
- ・ 自分の中の気持ち、感情を紙に書いたワーク。いつも文字だけで整理していたが、白い紙に書くことで、視覚的にわかりやすく、より整理できた感じがした。さらに、書き終わった後に全体を眺めてみると、自分の中のこんな風に暮らしたいや生きたいがみえてきて、面白かった。
- ・ 自分の感じを丁寧に触れる時間書き出してみる事で自分をちゃんと分かってあげられるのはとても心地良かったです。日々の中でやりたいですね。
- ・ 緑という安心を知ることが印象に残った。こどもにとっての日々の緑は何かを知りたい。
- ・ 最初と最後の数分の静かな時間を持ったこと自分の心と、やっている身体の作業をピッタリ合わせる、良い導入となった。本編の作業においても、今に集中することができた。
- ・ いつも働けて、動けているのは体が頑張ってくれているおかげ。自分の体に意識を向ける時間を忘れがちになるなどはとさせられました。ここの声に耳を傾けることも大事だけど、体の声を聴くことも同時に大事だと思った。心と体は繋がってるからこそ、どちらも大切にしたい。
- ・ フォーカシングのワークでは普段の自分が気にしていることを絵にかくことで可視化できて、感情や行動を整理する際に助けになる技法だと感じました。ポリヴェーガル理論が、保護者の子ども理解や子ども自身の自己調整のツールとして知られていきますようにと思いました。



話題提供者のノート



振り返りの概要

※今の自分の状態を知ること

- ・「こころの整理」の方法は、言葉を書いても書かなくてもいい、色だけでもいい。
- ・話すとき、身体的感覚だけで話してもいい、無理に口に出さなくてもいい。
- ・言葉にならないときにどうにかしていく・・・例えば色だけで・・・
- ・安全は守って、事象だけに向き合っておくことが大事。

※観察する・事象だけに向き合っていくこと

- ・観察することは私の場合、感情に直結する。敏感な人ほど観察することは難しいのではないか。
- ・観察するということは対象と距離をとるということ、自分の価値観を置くことだから、慣れないと難しい。相手の価値観や自分の価値観に飲み込まれやすいと観察は難しい。

※子どもたちと共通言語を持つこと

- ・ポリヴェーガル理論で心の状態を色で表す方法は、子どもとの共通言語として使いやすい。
- ・「こころの整理」や「ポリヴェーガル理論」を子どもと保護者と共にトレーニングを受けるのはどうか。

※体と心のこと

- ・心がしんどいと思いがちだが、それは体がしんどいといっているのだと理解すると対応が変化する。
- ・自分の中に「感じたこと」を押し込めておいたとしても、感じていることを意識していることが大事

※学校とポリヴェーガル理論との関係性

- ・ポリヴェーガル理論の学校への導入はハードルが高いようだ。
- ・丁寧に子供と関わることに時間がさけない、人がさけない、という現状がある。
- ・先生が思っていることが正解。それ以外はない。自分はダメという構造があるのでは？

※会場の様子等

美馬市の小中学校の教職員の皆様にご協力をいただき、美馬市防災センターにて講演会を開催しました。講師には、県西部を中心に長年障害児教育に携わってこられた先生をお招きし、貴重なお話を伺うことができました。当日は地元の方だけでなく、徳島市や鳴門市、遠くは阿南市からも参加者が集まりました。地元の参加者からは、「県西部では関心のあるテーマで講師を招く機会が少なく、他地域の方と交流できる場は非常に貴重だ」という声が寄せられ、地域における学びの場の必要性を再認識しました。

※私の学んだこと～講演をお聞きして～

長年の支援経験に基づき、障害のある子といわゆる健常児が共に学ぶメリット・デメリットについて、具体的な事例が示されました。事例からは、共に生活する中で互いを思いやる心が育まれる可能性が示唆された一方、個々の能力を最大限に伸ばすという点では課題も残る、との率直な視点が提示されました。インクルーシブ教育は追求すべき理念ですが、「どの程度、どのような方法で、何をを目指すのか」については多様な考え方があります。全ての学校で実現するためには、まだ克服すべき壁が多く存在することを痛感し、この課題についてさらに深く考察していく必要性を感じました。

※記述式アンケートより抜粋

- ・既存の学校のいわゆる「普通クラス」の中にも障害のある子やグレーと言われる子達が潜んでいることを考えると、インクルーシブ教育が行われていると言えるのではないかと。一人一人の子どもが持っている能力を十分に伸ばせているかという点で難しい現状があると思う。しかし、学校教育はそもそもそんなことは出来るのか？と思うと、学校教育はいったい何をを目指すのか疑問になってきた。
- ・西の方には不登校の子どもが通える場所が少なく、あっても遠いという話を伺った。徳島市近辺には子どもが過ごせる場所も増えつつあるが、厳しい環境の所はまだあると思った。親たちが相談したり、学んだりする場も少なくて親たちのしんどさや不安はいかばかりかと思った。





※会場の様子等

鳴門市の「ひとみ学舎」にて講演会を開催しました。講師には、福祉就労や生活支援に長年携わってこられた松尾先生と、ご自身の就労後に引きこもりを経験された久保先生をお招きし、それぞれの立場から貴重な体験談を伺いました。

参加者の皆様からは、お子さんの将来の就労に対する切実な不安が感じられ、どなたも真剣な面持ちでお話に耳を傾けていらっしゃいました。質疑応答では次々と質問が寄せられ、就労支援への関心の高さと、対話の必要性を改めて実感する機会となりました。

※私の学んだこと～講演をお聞きして～

松尾先生のお話からは、支援者が一人ひとりの人権を尊重し、価値観を押し付けずに寄り添うことの重要性和、その難しさを学びました。自立した生活には本人の「自己決定」が不可欠であり、幼少期から日常の些細なことを「自分で決める」経験を積み重ねることの大切さを痛感しました。

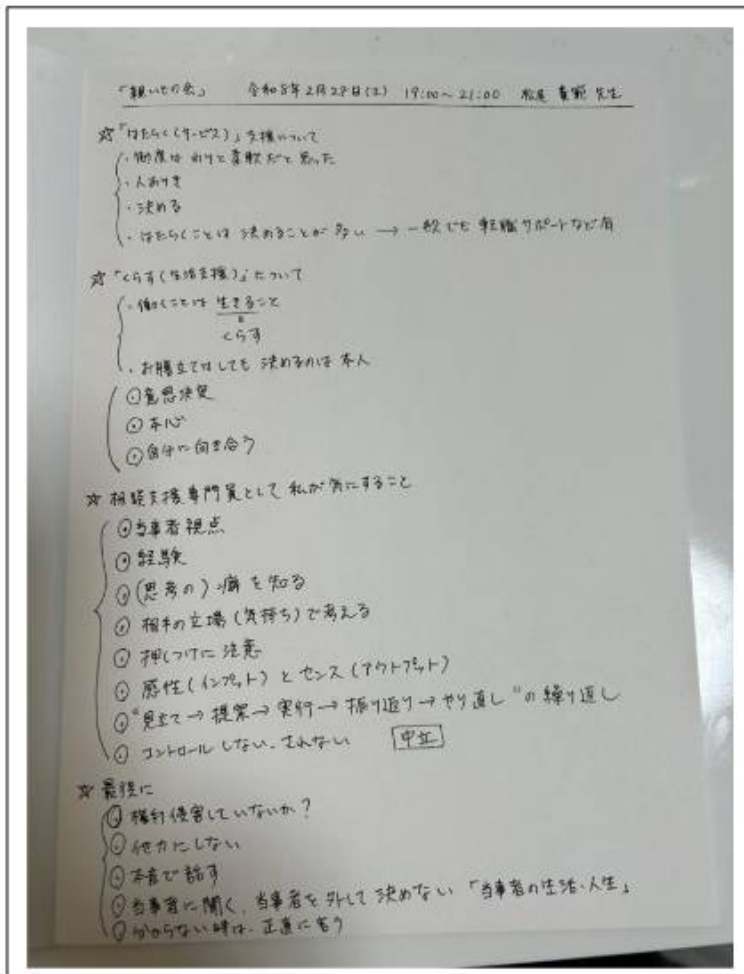
また、久保先生の体験談からは、好きなことを共有できる仲間から得るエネルギーが、生活や仕事の原動力になることを教わりました。改めて「遊び」の重要性を感じるとともに、ネットから始まる現代的な友人作りの過程には驚きもありました。子どもを自分とは異なる存在として尊重し、先入観を持たずにその声に耳を傾けていきたいと強く感じています。

※記述式アンケートより抜粋

- ・本人の意思決定が大事だということが強く印象に残りました。支援される方はいろいろ考えて苦しいし頑張っているということが印象に残りました。
- ・参加を悩まれていた方が参加してよかった。支援者の方に対して不信感を持っていたが、ちゃんと本人のことを考えて支援してくれている方がいることがわかってほっとしたとおっしゃったこと。こどもの状態によって親が決めてしまいがちになる人、親の言うことを聴けない人がいる。極端だと思った。人との距離の取り方が難しい人達なんだと思った。
- ・支援者として気をつけることとして、上から押し付けない。人と人として対等な位置でお話しをすること。引きこもりはいつ解消するかわからないがエネルギーを貯めている時期であること。
- ・久保先生のお話をお聞きして、息子に対し、もっと丁寧に接しようとして反省しました。
- ・A型事業所などの福祉に関する知識が少し増えました。ひとつの事業所を自分に合わないと感じたら我慢して通うのではなく、他に移ってもよいと言う話が印象に残りました。
- ・支援される方によって対応も変化するため、相手との信頼関係や家族関係等の把握も必要だということが分かった。
- ・まずどこに連絡して、どのように支援してもらえるのか具体的にわからなかった



話題提供者のノート



振り返りの概要

- ※コントロールする・コントロールされるということについて
- ・学校でタブレットを使いたい子どもと授業中だから使わせたくない教師のやりとりについてはなしあう。
- ・ゲームを夜は使わせたくない親と使いたい子どもとのやりとりについて話し合う。
- ・そもそもコントロールする、されるとはどういう関係性なのか？
- ・一方が他方を完全に支配することは問題ではないか。
- ・経験の一つとして子どもが思っていないこと、やりたくないことをしてみる必要はあるのではないか？
- ・子どもと大人は対等か？子どもは保護されるべき存在であると同時に対等な存在でもある。この矛盾をはらんだ状態が人によっても、年齢によっても変化していくことが関係性の難しさを産んでいるのではないか。

- ・コントロールするときもされるときもあるだろうが、自分達の間を見直して、改善していける柔軟さを持つてかどうか重要ではないか。
- ・教師と生徒、親と子の関係では一般的には片方がパワーを持ちすぎているから注意が必要（ある意味子どももパワーを持っている・・・「しない」と言い続ける等）

※現代の子ども達の友達の作り方について

- ・SNSは逃げられる関係だから良いと言う子ども達。リアルは逃げにくいと理解しているのだろう、優しく繊細である事がうかがわれる。
- ・友達が欲しくないわけではない。
- ・友達の作り方の方法が変化してきたのではないか。
- ・同じ趣味で同じような熱量を持っている人と一緒に遊べて、エネルギーをためることが出来る。遊びは生活のエネルギー源。

1. 配布チラシ

この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催されます。

# ひとみ学舎 居場所の会

## 7.19 土

今回は、ゲームの会

時間 13:00-16:00  
場所 ひとみ学舎  
徳島県鳴門市大津町  
吉永130-2  
募集人数 15名(保護者参加可)  
参加費 無料

7がつ19にちは、  
みんなでゲームをしよう。ゲームはボードゲームとテレビゲームで、ひとみにはswitchもあるよ。みんなでできるゲームをしようと思います。みんなでできるゲームを持ってきたらもうのもありです。switchでもボードゲームでも何でも持ってきてください。



今後の予定 毎月第3土曜日に開催

8月16日	流しそうめん	12月20日	卓球大会
9月20日	バーベキュー	1月17日	凧あげ
10月18日	運動会	2月21日	お味噌作り
11月15日	芝滑り	3月21日	サイクリング

お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催されます。

# ひとみ学舎 居場所の会

## 8.16(土)

今回は、流しそうめんの回

時 間 13:00-16:00  
場 所 ひとみ学舎  
徳島県鳴門市大津町  
吉永130-2  
募集人数 15名(保護者参加可)  
参加費 無料

8がつ16にちは、  
みんなで流しそうめん  
をしよう。  
竹で、流しそうめんの  
装置、うつわ、おはし  
を作ってみよう。

持ち物

帽子・水筒・タオル



雨の場合は、室内で、  
流れないけれど、そう  
めんを食べましょう。



今後の予定

毎月第3土曜日に開催

9月20日	バーベキュー	12月20日	卓球大会
10月18日	運動会	1月17日	凧あげ
11月15日	芝滑り	2月21日	お味噌作り
		3月21日	サイクリング

お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会

## 9.20 土

野外料理に挑戦しよう。

楽しもうの回

時 間 13:00-15:30  
👉 現地集合現地解散のかた  
場 所 月見が丘公園  
徳島県板野郡松茂町豊岡字山ノ手42  
募集人数 15名 (保護者参加可)  
参加費 無料

9がつ20にちは、月見が丘公園でBBQをしましょう。肉や焼きそばを焼く予定です。その他にも水鉄砲やボールを持っていくので水遊びやボール遊びをしましょう。



雨の場合は、体育館で、ボール遊びやバドミントンなどをしましょう

### 持ち物

帽子・水筒・帽子・  
タオル  
(水遊びをする場合)  
サンダル・ぬれてもいい服・着替え



- ※1. ひとみ学舎から参加の場合：集合時間12:30/解散16:00です。
- ※2. 食材準備のため、お早めにお申し込みください。

### 今後の予定 毎月第3土曜日に開催

10月18日	運動会	1月17日	凧あげ
11月15日	芝滑り	2月21日	お味噌作り
12月20日	卓球大会	3月21日	サイクリング



お申込み・お問い合わせはこちらから  
一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)  
✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会

## 10.18 土

10がつ18にちは、体育館で運動会のようなことをします！ 障害物走やモルックやボール遊びなど体を動かして楽しめる活動をする予定です！



### 運動会チックな回

時 間 13:00-15:30  
↓ 現地集合現地解散のかた  
場 所 北灘西小学校  
徳島県鳴門市北灘町折野字屋敷64-3  
募集人数 15名(保護者参加可)  
参加費 無料

### 持ち物

水筒・タオル・  
体育館シューズ



- ※1. ひとみ学舎から参加の場合：集合時間12:30/解散16:00です。
- ※2. 材料及び備品準備のため、お早めにお申し込みください。

### 今後の予定 毎月第3土曜日に開催

11月15日	芝滑り	2月21日	お味噌作り
12月20日	卓球大会	3月21日	サイクリング
1月17日	凧あげ		

お申込み・お問い合わせはこちらから  
一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)  
✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会 11.15 土

11がつ15にちは、板野歴史文化公園で芝滑りなどの外遊びや、落ち葉や木の実を拾って飾りづくりをする予定です。  
動きやすい服装と、はきなれた靴で参加してね。

☔雨の場合は、ひとみ学舎でボードゲームや、松ぼっくりを使った飾りづくりをします。

## 芝滑りと飾りづくりの回

時間 13:00-15:30

📍現地集合現地解散のかた

場所 板野歴史文化公園

板野郡板野町犬伏東谷13-1

募集人数 15名（保護者参加可）

参加費 無料

### 持ち物

水筒・タオル



※1. ひとみ学舎から参加の場合：集合時間12:30/解散16:00です。

※2. 材料及び備品準備のため、お早めにお申し込みください。

## 今後の予定 毎月第3土曜日に開催

12月20日	卓球大会	2月21日	お味噌作り
1月17日	凧あげ	3月21日	サイクリング



お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会

## 12.20 土



### クリスマス会



12月ということで、クリスマスっぽいことをしたいと思います！  
松ぼっくりを使った飾りづくりや、ボードゲームや室内遊び、ピザ窯でミニピザづくりを予定しています。  
ご参加お待ちしております。

時 間 13:00-16:00

ひとみ学舎

場 所 徳島県鳴門市大津町

吉永130-2

募集人数 15名（保護者参加可）

参加費 無料

※ 材料及び備品準備のため、お早めにお申し込みください。

持ち物

水筒・タオル



今後の予定 毎月第3土曜日に開催

1月17日 凧あげ 2月21日 お味噌作り

3月21日 サイクリング



お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会



1月ということで、ひとみ学舎で凧を作ってから、ウチノ海公園へ飛ばしに行きます。凧には好きな絵を描いたりしましょう。公園では思ったより良く飛んだりして楽しいのでぜひご参加ください。

R8年

# 1.17 土

## 凧あげの回

時 間 13:00-16:00

ひとみ学舎

場 所 徳島県鳴門市大津町

吉永130-2

募集人数 15名(保護者参加可)

参加費 無料

持ち物 水筒

暖かい服装と履きなれた靴でおこしくください。



※ 材料及び備品準備のため、お早めにお申し込みください。

今後の予定 毎月第3土曜日に開催

2月21日 お味噌作り

3月21日 サイクリング



お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎 居場所の会

R8年

## 2.21 土

お味噌づくりの回



時 間 13:00-16:00

ひとみ学舎

場 所 徳島県鳴門市大津町

吉永130-2

募集人数 15名(保護者参加可)

参加費 未定(参加希望の方に後日お伝えします。)



2月はひとみ学舎でお味噌を作ります。今回は材料費が必要ですが金額が未定なので参加希望の方にはまたお知らせします。

お味噌を作った後はボードゲームなどをして楽しいひと時を過ごしましょう。

親子での参加も歓迎しておりますので、ぜひご参加ください。

★ 持ち物 ★

水筒、エプロン、タオル  
三角巾かバンダナ



※ 材料及び備品準備のため、定員になり次第、もしくは、1月31日で締め切ります。お早めにお申し込みください。

今後の予定 毎月第3土曜日に開催

3月21日 サイクリング



お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



この事業は徳島県「こどもの居場所」機能強化事業の委託を受けて開催しています。

# ひとみ学舎

# 居場所の会



R8年

3.21 土

サイクリングと  
ボードゲームの回



今回は、ひとみ学舎の外に出て、サイクリングに行くか、ひとみ学舎でボードゲームをするか選んでもらってどっちかに参加してもらおうと考えています。

サイクリングは、網干休憩所にあると言われるポケモンマンホールを目指すがっつりサイクリングコースか、それ以外のひとみ学舎近くのポケモンマンホールやおいしいものをめぐってお楽しみコースの2パターンを考えています。

参加者の人数やどのくらい自転車で走れるかで細かいことは決めようと思います。なので、参加希望の方は申し込みの時にボードゲーム化サイクリングのどちらに参加するかを教えてくださいたいと思います。親子での参加も歓迎しておりますので、ぜひご参加ください

## ★ 持ち物 ★

サイクリング：水筒、タオル、自転車、ヘルメット

ボードゲーム：水筒



時間 13:00-16:00

場所 ひとみ学舎 徳島県鳴門市大津町吉永130-2

募集人数 15名(保護者参加可)

★ 参加希望はコメント欄でコメントしていただくか、居上まで

お申込み・お問い合わせはこちらから

一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



## 2. 活動の様子

### 居場所の会 7月19日開催 ゲームの回

こんにちは！居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回はゲームの回でした。みんなでゲームをしようということで、モニターを2つ用意して、switch チーム二つとボードゲームチーム一つグループを作ってそれぞれゲームをしていました。最初コントローラーの接続やらなんやらでゴタゴタしていたようですが、ウノしながらのんびり待っていたようです。ゲームは最初人生ゲームとマリオパーティーをしていたようで、途中で交代したり皆さんマイペースにできていたようです。ボードゲームは最初はババ抜きや蛇など簡単なものやっていた、次にやったワードスナイパーキッズは初めて参加の子もお母さんと一緒に参加していてなかなか盛り上がっていました。他にも VR の機械を持ってきた子がいて、5人ぐらいで使い方を教えてもらいながら VR 体験をしていました。ゲームの回にしましたが、グループごとにコミュニケーションをとりながら同じゲームをすることができたので、家ではできない体験ができたのかなと思います。



## 居場所の会 8月16日開催 流しそうめんの回

こんにちは！居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回は、流しそうめんです！夏らしくていいですね。外は暑かったですが、協力してくれる参加者もいたおかげで、外での活動は最小限に留めることができ、ひとみ学舎内で竹の器やお箸作りをしていました。今回は初参加の子が多かったですが、みんな集中して取り組んでいました。流しそうめんにも積極的に参加していて、今回40束くらいあったそうめんが全部なくなりました。すごいな。

そのあとは、室内でボードゲームをして遊んでいました。これも uno やウボンゴなど簡単なものでしたが、積極的に参加する子が多くて時間いっぱいまで遊んで盛り上がっていました。



## 居場所の会 9月20日開催 野外料理に挑戦しよう・楽しもうの回

こんにちは！居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回は月見ヶ丘公園でバーベキューでした。最初は、設営や火おこしから始まり、ボードゲームで遊ぶチームと火おこし肉焼きチームで完全に分かれたのですが、それぞれしやすい場所で過ごせたようだったのでよかったと思います。今回は焼きそばと、ウインナーと肉を焼いて、マシュマロも焼きました。今回は女の子が多かったのでマシュマロが人気だったようです。マシュマロを刺す櫛も曾良さんがその場で竹串を作ってくださったので持ちやすいマシュマロが外れにくくなっていたのがよかったです。そのあとは公園内の小さい川や水鉄砲で水遊びをしていました。男の子たちは水鉄砲の打ち合いで体を動かして楽しんでいたようです。



## 居場所の会 10月18日開催 運動会チックな回

こんにちは！居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回は北灘西小学校体育館で運動会的なことをしました。具体的には玉入れやしっぽ取りや菓子食い障害物競争など走り回る活動でした。大人にはつらい活動です。つかれた。ですが子ども達にとっては楽しかったみたいで、菓子食い障害物競争はお菓子もらえるまでにぐるぐるバットや風船を内輪で運んだり、スプーンでピンポン玉を運んだりしなければいけなかったのですが楽しかったのかお菓子が欲しかったのかみんな2周3周していました。

一通り予定していた種目が終わったら自由時間にして、バトミントンをするグループや野球をするグループに別れて遊んでいました。僕はその時トイレ体育館のトイレの水が流れなくて一人で焦りまくっていました。

最後に、参加者の保護者の方が「景品にしてください」と人数分数種類のパンを持ってきていただいたのでパン食い競争をしました。ただ普通に走るのも違うし障害物もやりつくした感があるので、パパ抜きしてあがった人から体育館を一周してパンにたどり着ける競争にすると、みんなほしい種類のパンを取るために真剣にパパ抜きをしていて、盛り上がりました。



## 居場所の会 11月15日開催 芝滑りと飾り作りの回

こんにちは！居場所スタッフのソラです。（たけるんリーダーが本日不在のため、代わりに記事を書いてみました^^）

今日は居場所の活動で、板野町歴史文化公園に行って、「芝すべり」と「飾りづくり」をしてきました。まず、秋の自然でつくる飾りづくりをしました。公園の小高い山につくられている散策路で、いいなと思った木の実や葉っぱを各自拾ってきて、事前に用意していた木や竹の土台に貼りつけていきます。つくるのが好きな子たちが今日は多かったのか、みんな長い時間集中してそれぞれの作品をつくり上げていました。ひとりひとり個性が違う飾りができていて、ものづくりが好きな僕は、作品ができていくのを見ているだけでワクワクする楽しい時間でした(^^♪

飾りづくりが終わった子たちから、芝の広場でモルックをしました。モルックは、フィンランド発祥のアウトドアスポーツで、木の棒を投げて、1～12の数字が書かれた木のピンを倒し、得点を競うゲームです。このゲームの面白いと思うところは、得点を多くとった方が勝ちではなく、50点ちょうどになった方が勝ちというところです。また、投げる木の棒が思ってもみない動きをしたり、高得点の棒を狙っても2本以上倒してしまうと倒した棒の数の点数になってしまったりという、運も大きくかわるゲームなのも面白いところですね。チームに分かれるので勝敗もちろん競いますが、チームに関係なくプレイを見て歓声があがったり、笑い声が出たり、点数をつけてくれる子がいたり、いろんな関わり方でゲームを楽しみました。

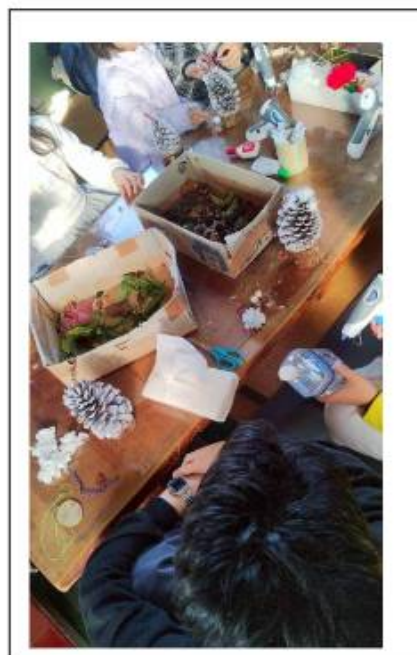


## 居場所の会 12月20日開催 クリスマス会

こんにちは！居場所のたけるんです。昨日は居場所の活動でした。

今回はクリスマス会でした。今年は、窯でピザを焼くので、午前中からスタッフが準備してくれていました。それとクリスマスツリーも今年は居場所を買って、スタッフで飾り付けをしていました。思ったよりでかかったです。

まず、最初にみんなでなんでもバスケットなどちょっとしたゲームをしてから、毎年恒例の松ぼっくりでのクリスマス飾りづくりをしてから、参加者が自分で小さいピザをトッピングして、窯で焼きました。ここまでは各々集中して楽しんでくれていました。その次は2チームに分かれてボードゲームをしていて、僕は男の子たちをカタンをしていたのですが、参加者のお母様がカタンにすごく詳しくだったので今までひとみでやっていたのですが知らなかったルールとかそもそもカタンっていうのはみんなが争っている島の名前だったとか初めて知ることが多く、助かりました。



## 居場所の会 1月17日開催 凧あげの回

あけましておめでとうございます。居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回は凧あげでした。今日はいつもより参加者が多かったのか、部屋を三つ使って凧作りをしていました。今回は凧作りというか、絵を描く段階で、何かこうかなって悩む時間が多い印象でしたが書き始めると各々こだわって絵を描いていて、みんな凧を完成させられました。そのあとウチノ海公園でみんなで凧を上げました。制作に時間がかかったからか、公園に行ってから凧が飛ばないなどのトラブルがほとんどなく、補修をすることもなくスムーズに凧あげをしていました。各々でスタッフや参加者同士で自分たちなりに楽しみ方を考えて凧あげをしていたようです。



## 居場所の会 2月21日開催 お味噌づくりの回

こんにちは、居場所のたけるんです。今日は居場所の活動でした。

今回は味噌づくりでした。味噌も4回目でスタッフも分かっていることがおおく、高校生以上のおにいさんおねえさんも多く参加してくれたので、スムーズに作る事ができました。スタッフの用意してくれた味噌の作り方の紙をこどもたちが色塗りしてくれるなど味噌づくり以外にも作業や手伝うことがあって楽しめたようです。できた味噌が食べられるようになるのは一年後。おいしくなるのか、今から楽しみに待ちましょう。

味噌づくりの後は、休憩を挟んでみんなでボードゲームをしていました。最初は人狼。12人くらいでやりましたが人数多い人狼は役職も多いので楽しいですね。今回は狼チームの勝利でした。そのあとは2チームに分かれて、小さい子とスタッフはITOというゲームをやっていました。なんか人数多いと楽しいらしいです。高校生の男たちは僕とカードゲームをしていました。こっちも時間切れで最後まで行きませんが楽しかったようです。



別紙資料3 「『この子』の学びを探す会」実施概要

1. 配布チラシ

徳島県「子どもの居場所」機能強化支援事業

みんなで創る  
『私の子育てプロジェクト』



# 『この子』の学びを探す会

参加無料

第1回目 **8.23 (土)** 18:00-20:00

学校に行っていない、『この子』に応じた学びとは。  
その場に集まった人たちと交流しながら、『この子』  
の学びについて考えてみませんか？

**会場** 県民活動プラザ 1階 研修室  
徳島市東沖洲2丁目14 (沖洲マリントーミナルビル)

**テーマ** 『この子』の実態について

- ① 「個別の指導計画」についてのレクチャー
- ② グループワーク

今後の予定

9月27日(土) 13:00~15:00	手立てについて 『この子』が持っているチカラをのぼすには？
11月22日(土) 時間未定	評価について 『この子』についてどのように評価する？
1月24日(土)、3月28日(土) (会場の都合で変更可能性有り)	



**駐車場** 沖洲マリントーミナルビル北側  
「沖洲マリントーミナル駐車場」(有料)をご利用ください  
駐車料金 3時間以内:200円  
3時間以上27時間まで:500円

〈お申込・お問い合わせ〉 一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当:居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

参加  
無料



# 『この子』の学びを探す会

～みんなで作る「私の子育て」プロジェクト～

第2回

9.27 (土) 13:00-15:00

学校に通っていないお子さんの「この子」らしい学びってどんなかたちでしょうか？  
この会では、集まった皆さんとお話ししながら（「この子」理解・支援シート）を作成しひとりひとりに合った学びについて考えていきます。できあがったシートをもとに、在籍している学校と連携しながら、実際の支援につなげていく体験型のプロジェクトです。来年3月までに全5回のプログラムでゆっくり進めていきます。途中からの参加や欠席する回がある場合もできるだけフォローいたしますので、どうぞ参加ください。

会場

県民活動プラザ 1階 研修室

徳島市東沖洲2丁目14（沖洲マリントーミナルビル）

テーマ

「この子」らしい学びとは？「短期目標」と「手立て」について  
～「この子」理解・支援シートの完成

シートをもとに学校と連携を進めてみましょう～

今後の  
予定

第3回 11月22日(土) 13:00～15:00 県民活動プラザ

「この子」理解・支援シート 完成後の振り返り

第4回 1月24日(土)、第5回 3月28日(土)

時間未定（会場が決定次第、チラシを掲示または個別に連絡します）

内容：学校へ提出したシートをもとにした改善や振り返りなど



沖洲マリントーミナルビル北側

「沖洲マリントーミナル駐車場」(有料)をご利用ください

駐車料金 3時間以内:200円 3時間以上27時間まで:500円

〈お申込・お問い合わせ〉 一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

参加  
無料



# 『この子』の学びを探す会

～みんなで作る「私の子育て」プロジェクト～

2025年

第3回

## 11.22 (土) 13:00-15:00

学校に通っていないお子さんの「この子」らしい学びってどんなかたちでしょうか？  
この会では、集まった皆さんとお話ししながら《「この子」理解・支援シート》を作成し  
ひとりひとりに合った学びについて考えていきます。できあがったシートをもとに、在籍してい  
る学校と連携しながら、実際の支援につなげていく体験型のプロジェクトです。来年3月までに  
全5回のプログラムでゆっくり進めていきます。途中からの参加や欠席する  
回が有る場合もできるだけフォローいたしますので、どうぞご参加ください。

研修室ではなく  
プラザ内の会議室  
にて開催です

会場

**県民活動プラザ 1階 第2会議室**

徳島市東沖洲2丁目14 (沖洲マリンターミナルビル)

テーマ

「この子」らしい学びとは？

～ 引き続き「この子」理解・支援シートの作成 及び

学校と連携を進めてみるの振り返りやシェアなど ～

今後の  
予定

**第4回 1月24日(土) 会場・時間 未定**

会場が決まり次第チラシを掲示または、個別にご連絡いたします

内容：「この子」理解・支援シートをもとにして改善や振り返り

**第5回 3月28日(土) 会場・時間 未定**

会場が決まり次第、チラシを掲示または個別にご連絡いたします

内容：「この子」理解・支援シートをもとにして改善や振り返りと今後の予定



沖洲マリンターミナルビル北側

「沖洲マリンターミナル駐車場」(有料)をご利用ください

駐車料金 3時間以内:200円 3時間以上27時間まで:500円

〈お申込・お問い合わせ〉 一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

参加  
無料

# 『この子』の学びを探す会 ～みんなで作る「私の子育て」プロジェクト～



2026年  
第4回 1.24 (土) 18:30~20:30

学校に通っていないお子さんの「この子」らしい学びってどんなかたちでしょうか？  
この会では、集まった皆さんとお話ししながら（「この子」理解・支援シート）の作成を  
とおして、ひとりひとりに合った学びについて考えていきます。できあがったシートをもとに  
在籍している学校と連携しながら、実際の支援につなげていく体験型のプロジェクトです。  
来年3月までに、全5回のプログラムでゆっくり進めております。途中の回からの参加や、欠席  
する回があるかたへのフォローもごございますので、どうぞご参加ください。

会場 県民活動プラザ 1階 研修室  
徳島市東沖洲2丁目14（沖洲マリントーミナルビル）

テーマ 「この子」らしい学びとは？  
～「この子」理解・支援シート作成のグループワーク・  
学校と連携を進めてみての振り返りやシェアなど～

11月は、新しい顔ぶれさんや多様な職種の方のご参加のなか、学校との連携事例の報告、学校の先生からのお話、グループワークでは真剣にお話ししつつも、時に笑い声が聞こえるような密度の高い時間を過ごしました。1月も内容がぎゅっと詰まった時間になること楽しみにしております。みなさまのご参加をお待ちしております。（スタッフT）

今後の  
予定

第5回 3月28日 (土) 会場・時間 未定  
会場が決定次第、チラシを掲示または個別にご連絡いたします  
内 容：「この子」理解・支援シートをもとにして改善や振り返りと今後の予定



沖洲マリントーミナルビル北側  
「沖洲マリントーミナル駐車場」(有料)をご利用ください  
駐車料金 3時間以内:200円 3時間以上27時間まで:500円

〈お申込・お問い合わせ〉 一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当：居上(いがみ)  
✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

参加  
無料



# 『この子』の学びを探す会

～みんなで作る「私の子育て」プロジェクト～

第5回

2026年  
**3.28 (土)** 13:00～15:00

学校に通っていないお子さんの「この子」らしい学びってどんなかたちでしょうか？  
この会では、集まった皆さんとお話ししながら（「この子」理解・支援シート）の作成と  
おして、ひとりひとりに合った学びについて考え、このシートをもとに、学校や各連携先と  
関係を保ち、継続的な支援につなげていく体験型のプロジェクトを実施してきました。  
今年度は最終回になりますが、初参加も大歓迎です。ご参加いただける方々と時間を共にでき  
ることを楽しみにしております。

会場

**県民活動プラザ 1階 研修室**

徳島市東沖洲2丁目14（沖洲マリントーミナルビル）

テーマ

「この子」らしい学びとは？  
～「この子」理解・支援シート作成のグループワーク・  
学校などの連携先と関わりを継続してみてもの振り返りやシェアなど～

今後の  
予定

これまでご参加して下さった皆さま、その後の様子はいかがでしょう。  
今後も一緒にこの子の学びを考えて実践していきましょう。



沖洲マリントーミナルビル北側  
「沖洲マリントーミナル駐車場」(有料)をご利用ください  
駐車料金 3時間以内:200円 3時間以上27時間まで:500円

〈お申込・お問い合わせ〉 一般社団法人 ひとみ学舎

☎ 090-5271-0088 担当: 居上(いがみ)

✉ hitomigakusya@gray.plala.or.jp



ご不明な点がございましたら事前にお問い合わせください。

## この子の学びを探す会 活動の様子

※2025年8月23日



勉強会では、「この子」理解・支援シートがなぜ大切なのか、どうやって書けば学校などと共有しやすいのかを詳しく学びました。後半のグループワークでは、実際に「お子さんの今の様子」を書き出す作業に挑戦。みんなでわいわいお話ししながら、一人では気づけなかったお子さんの素敵な一面を再発見するひとときとなりました。

※2025年9月27日



議員さんとして、そして一人のパパとして参加してくださった方が、ご自身のリアルな子育てエピソードを披露してくださいました。そのバトンを受け取ったグループワークでは、「どうすれば子どもの良いところをもっと伸ばせるかな？」と、みんなで知恵を出し合い、明日から使える具体的な工夫をたくさん見つけることができました。

※2025年11月22日



教員として日々多くの子どもに接しながら、ご自身のお子さんも不登校を経験されたという参加者の方が、貴重な体験談を分かち合ってくださいました。「こんな先生が学校にいてくれたら」という保護者の皆様の切実な願いと共感に包まれ、学校現場と手を取り合える可能性を強く感じたひとときでした。その後のワークでは、連携への期待感からか、皆様いっそう熱心に取り組まれていました。

※2026年1月24日



外出が困難な大人の方を支援されている実務家の方から、貴重なお話を伺いました。日常生活における「些細なことを自分で決める」という積み重ねが、自律への第一歩であるとの指摘は、参加者の心に深く響きました。後半のワークでは、その視点を活かし、「将来を見据えて、今子どもたちにどのような力を、どう身につけてもらうべきか」について、長期的な展望を持って具体的に話し合うことができました。

※2026年3月28日

開催予定

実際に学校などと連携してみた実感を分かち合い、「シート」を作成する中で感じた意義や直面した難しさを深く振り返る予定です。成功体験だけでなく、迷いや葛藤も共有し合うことで、来年度に向けたより良い支援のあり方や具体的な見通しを、参加者全員で描いていきたいと考えています。

氏名 ( ) 記入日 月 日 記入者 ( )

--	--	--

氏名 ( ) 記入日 月 日

記入者 ( )

( 年後) こんな風になっていた(本人)・  
こんなふうになっていたらいいな (支援者)

\*身につけたい力や、強み、弱み、将来の会い方等を考える際に参考にしてください。

身につけたい力（「学びの多様化学校」座談会で話し合われた内容から）		
①自己表現力	⑪耐性	⑳自分の思いを伝える力
②コミュニケーション力	⑫レジリエンス	㉑気持ちを保つ力
③他者理解力	⑬基本的な生活をする力	㉒新しいことに会おうとする力
④自己肯定感（力）	⑭体力	㉓学び続ける力
⑤自己効力感	⑮生きていくための知識・技能	
⑥自己遂行力	⑯生活する力	
⑦ストレスマネジメント力	⑰自己を理解する力	
⑧受容、協働する力	⑱自分にできることを探す力	
⑨探求心、生き抜く力	⑲人と関係を作っていく力	
⑩思考力、判断力	⑳人に頼る力	

\*ほかにもあるかもしれません。思いついたものは書いておきましょう。それこそが大事です！！




<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常学級で授業が受けられるように頑張っている</li> <li>・週1回はひとみ学舎に来ている</li> <li>・いらいらしても手を出すことがなくなってきた</li> <li>・授業中退屈になったら、ポケモンカードのことを考えながらやりすごせるようになってきた。</li> <li>・やりたくないことがあると「やりたくない」と言う。</li> <li>・ご飯は自分の気に入ったものしか食べない。</li> <li>・勉強はしたくない。</li> <li>・考えることは苦手</li> <li>・人の様子はよく見ている。</li> <li>・あいさつはできない</li> <li>・お願いしますがいえない</li> <li>・ごめんなさいがいえない</li> <li>・掃除は草抜きに行っている。時間通りに動くことができる。</li> <li>・同学年の男の子と仲良くゲームをして遊んでいる。(みんなが遊ぶのを楽しみにしている)</li> <li>・時間を決めて、早くから予定を言っておくとそれに沿って行動しようとする。が気がのらないときは「いやだ」という。</li> <li>・高校には進学したいと思っている。進路や働くことについて悩んでいる。</li> <li>・洗濯は自分で干している</li> <li>・掃除はしていないが、今のところ大きく汚してはいない</li> <li>・気に入らない人がいても怒ったり暴力をふるったりすることが今はなくなっている。</li> <li>・自分のことについて客観的にみて話ができるようになってきている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ具体的に</li> <li>・良いところが沢山あるはず</li> <li>・大したことないと思わずに口に出してみよう。みんなに聞いてもらいながら書こう。</li> <li>・ここが一番大事。できるだけたくさん</li> </ul> </div>	<p>自分の想いを伝える力</p> <p>耐性</p> <p>やりすごす力</p> <p>伝える力</p> <p>あたらしいことに出会おうとする力</p> <p>生きていくための知識・技能</p> <p>他者理解</p> <p>将来への希望</p> <p>自己理解</p>	<p>強み</p>
--	--	-----------

氏名 (

) 記入日

月

日

記入者 (

)

( 5 年後) こんな風になっていたい(本人)・  
こんなふうになっていたらいいな (支援者)

- ・仕事についていられるといいな
- ・楽しく生活ができているといいな
- ・自分のことを大事にできているといいな
- ・楽な居場所を見つけられているといいな

・何年後かの設定はそれぞれで決める。(3年後でも、5年後でも、10年後でも)

- ・いくつあってもいい。
- ・本人の希望も聞けるといいな。
- ・具体的な姿をイメージしながら。

\*身につけたい力や、強み、弱み、将来の会い方等を考える際に参考にしてください。

身につけたい力 (「学びの多様化学校」座談会で話し合われた内容から)		
①自己表現力	⑪耐性	⑳自分の思いを伝える力
②コミュニケーション力	⑫レジリエンス	㉑気持ちを保つ力
③他者理解力	⑬基本的な生活をする力	㉒新しいことに会おうとする力
④自己肯定感 (力)	⑭体力	㉓学び続ける力
⑤自己効力感	⑮生きていくための知識・技能	
⑥自己遂行力	⑯生活する力	
⑦ストレスマネジメント力	⑰自己を理解する力	
⑧受容、協働する力	⑱自分にできることを探す力	
⑨探求心、生き抜く力	⑲人と関係を作っていく力	
⑩思考力、判断力	㉐人に頼る力	

\*ほかにもあるかもしれません。思いついたものは書いておきましょう。それこそが大事です！！

・やり過ぎず力
・自分をほめる力

・何カ月後かの設定はそれぞれで決める。(学校と連携をするなら学期ごとがよいかも・・・)

3カ月後の具体的な姿をえがいてみよう	場面・場所	自分・親・支援者ができること	振り返り
・担任の先生にしんどいことが言葉で伝えられる	学校	・訴えを認める (できそうだなと思わない)	
・交流先の教室で50分間授業を受けることができる (好きなものをノートに書いてやり過ごす)	学校	・座っていられたことを認める	<p>・設定した〇カ月後に支援者が (または支援者と一緒に記入する)</p>
・フリースクールの行事に参加する。	フリースクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に行事の話をする</li> <li>・その場にいるように声をかける</li> </ul>	
<p>・目標はいくつでもよい。多くなくてよい</p> <p>・具体的にその姿をイメージするのがよい</p>		<p>・保護者の提案を書く</p> <p>・指導を受ける場の支援者と相談するのがよいと思われる</p>	
<p>・利用している場所で、適切と思われる場所から始めるのがよいのではないか。</p>			

徳島県

# 「こどもの居場所」づくり ガイドブック

「こどもまんなか」で  
「居たい・行きたい・やってみたい」を育む



# 目次

## はじめに ..... 1

「こどもの居場所」とは ..... 1

- 活動種類の紹介(こども食堂、学習支援、プレーパークなど)
- 3つのキーワード:「居たい」「行きたい」「やってみたい」

## 第1章 コンセプトづくり:「こどもの声」からはじめよう ..... 3

～どんな場所にする? まずは想いを整理しよう～

1 あなたとこどもが創る「居場所」 ..... 3

- こどもへのヒアリング・こども会議の意見
- 【ワーク】みんなで描く「居場所」のキャンバス

2 「こどもの居場所」について調べる ..... 4

- 活動団体への見学・質問ポイント

3 具体的なプランを考える ..... 4

- 【ツール】プランシート
- ネーミングと参加費の設定

4 活動の実践事例 ..... 5

- 事例①:クレエール子ども食堂(特定非営利活動法人Creer・徳島市)
- 事例②:フリースペースわれもこう(一般社団法人うみのこてらす・牟岐町)
- 事例③:「こどもの居場所」共創フォーラム

## 第2章 夢をかたちにする事業計画 ..... 8

～ヒト・モノ・カネ・バシヨの準備～

1 仲間を集めよう ..... 8

- ボランティア募集の方法
- 事前説明会の進め方
- ボランティアスタッフと共有しておく事項
- こどもの関わり

2 持続可能な運営に向けて ..... 9

- (1) 団体の体制を決める
- (2) 費用・資金を見積もる
- (3) 材料・食材の確保
- (4) 場所を探す
- (5) 開催場所のデザイン・レイアウト



### 第3章 安心・安全の土台づくり(リスクマネジメント)……………12

～事故やトラブルを防ぐために～

- 1 衛生管理の徹底 …………… 12
  - 保健所への届出フロー(こども食堂の場合)
  - 衛生的な身だしなみのポイント
  - 【チェックリスト】調理前後の衛生管理
- 2 安全・安心への配慮 …………… 14
  - 対応マニュアルの準備と保険加入
  - 【ツール】緊急時の連絡リスト
- 3 こどもの権利の擁護 …………… 15

### 第4章 連携とネットワークづくり……………16

～地域みんなで見守るために～

- 1 地域のセーフティネットとして…………… 16
  - 【ツール】こどもの「あれ?」に気づく視点(服装・行動・食など)
  - 気づいた後の対応
  - 共有すること・つなぐこと
- 2 地域への周知と活動への理解促進…………… 18
  - 周知のポイント・方法例

### 第5章 活動の振り返りと「強み」の発見……………19

～より良い居場所へアップデート～

- 1 活動の振り返り…………… 19
  - トラブルへの対応例
- 2 居場所の「強み」の発見…………… 19
  - 【チェックリスト】「居場所」の「強み」振り返りリスト
  - 振り返りリストの活用イメージ

## 第6章 よくある質問(Q&A) ..... 22

- 仕事との両立はできる？
- 一人でも運営できる？
- 他の団体と情報交換したい時は？
- 支援したい(寄付・ボランティア)場合は？

## 第7章 相談窓口・参考資料 ..... 23

- 1 相談窓口 ..... 23
  - こどもの居場所に関する相談(県・市町村)
  - 団体設立・助成金に関する相談
  - 食品衛生に関する相談(保健所)
  - ボランティア活動等に関する相談(社会福祉協議会)
- 2 参考情報 ..... 25
  - (1) 徳島県内の取組について
  - (2) 食品の衛生管理について
  - (3) 食物アレルギー対策について
  - (4) 誤嚥・窒息事故対策について
  - (5) こどもの権利について
  - (6) こどもに対する性暴力防止

## 第8章 巻末資料 ..... 27

- ワークシート例：みんなで描く「居場所」のキャンバス ..... 27
- フォーマット例：ボランティアスタッフとの約束ごと ..... 29
- フォーマット例：事業計画・収支予算書 ..... 30
- フォーマット例：衛生管理のチェックリスト ..... 31
- フォーマット例：緊急時の連絡リスト ..... 32
- フォーマット例：開催前、開催当日のチェックポイント ..... 33
- フォーマット例：居場所の「強み」振り返りリスト ..... 35



## はじめに

現在、こどもを取り巻く社会状況は、少子化が進行や共働き世帯の増加など、家庭環境が著しく変化していることに加え、いじめや不登校など、こどもをめぐる問題はより深刻さを増しており、その対応は、重要かつ喫緊の課題となっています。

令和5年4月1日には、こども施策を総合的に推進することを目的とした「こども基本法」が施行され、同年12月には、国の「こども大綱」が策定されるなど、すべてのこどもが身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会、「こどもまんなか社会」の実現を目指した取組が進んでいます。

こうした中、地域における「こどもの居場所」づくりは、こどもとすべての世代の住民が、互いに関係を築き、気軽に集える「交流の場」、「寄りそいの場」づくりであるとともに、そこで得られる「安全で安心できる」、「信頼できる」時間や関係性は、こどもたちが夢や希望をもって、健やかに成長する力を育むことに繋がります。

このガイドブックは、これから、新たに「こどもの居場所」づくりに取り組みたい方、既に運営されている方、さらに「こどもの居場所」に関心がある方や、取組を応援したい方などに向けて、手順や円滑な運営へのヒントを冊子としてまとめました。

豊かなこどもの育みを地域で見守る取組の参考として、是非御活用ください。

## 「こどもの居場所」とは

徳島県では、令和元年度に『徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン』を策定し、「こどもの居場所」づくりを推進しています。

### ガイドラインより抜粋

「こどもの居場所」とは、

- 地域の大人との継続的な交流ができる、
- こどもたちにとって安全で安心な居場所であり、
- 信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべてのこどもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場
- 原則として、18歳に満たないすべてのこどもや家庭を、地域で見守るこどもたちの居場所

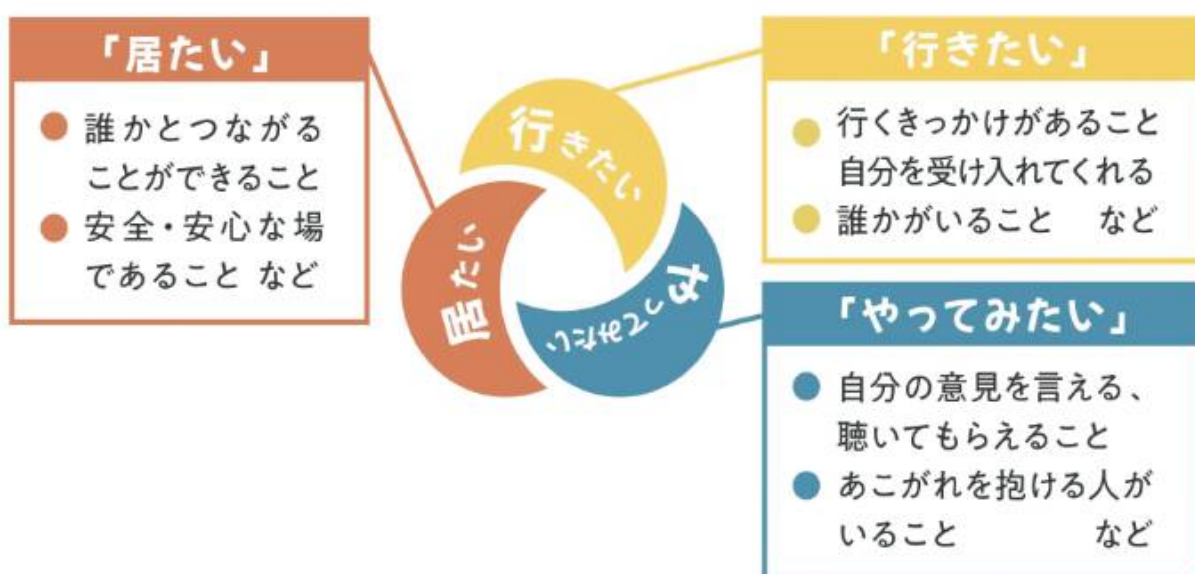


参考：「こどもの居場所」の活動類型の紹介

類型	活動イメージ	こどもの参画例
こども食堂	食事の提供を通じた こども・若者の居場所	メニュー決め、調理補助、配膳
学習・生活支援	学習や生活支援を通じた こども・若者の居場所	教材選び、教え合い
プレーパーク	プレーリーダーのもと、誰でも 自由に遊ぶことのできる場であり、 主に自然の中での外遊びの場	遊びのルール作り、遊具作り
フリースペース	こどもが自由に過ごせる 多目的な場	過ごし方の自己決定 (何もしないもOK)

また、国の「こどもの居場所づくりに関する指針」では、居場所と感ずるかどうかは、こども本人が決めることであると言及されています。

まずはこどもの声を聴き、こどもが「居たい」、「行きたい」、「やってみたい」と思える場になるよう意識してみましょう。



(出典) こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書概要 (令和5年3月) より抜粋

# 第1章 コンセプトづくり:「こどもの声」からはじめよう

～ どんな場所にする? まずは想いを整理しよう ～

## 1. あなたとこどもが創る「居場所」

「こども食堂をやろう」、「学習支援をやろう」と大人が決めてしまう前に、まずは地域のこどもたちの声を聴いてみましょう。

● ヒアリング

「放課後どこに行ってる?」「どんなことがしたい?」と直接聞いてみる。

● 地域で開催されているこども会議の意見

県をはじめ、各市町村で、こどもが参画する会議が開催されています。そこで出された意見を確認してみましょう。

参考:「徳島県こども計画」策定にあたってのこどもからのメッセージ  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kenko/kosodateshien/7301730/>



また、こどもも含めて、あなたがこれから「こどもと一緒にやりたいこと」を書き出して、自分の中の想いを再確認しましょう。

参考フォーマット: みんなで描く「居場所」のキャンバス

みんなで描く「居場所」のキャンバス(例)	
<p>① どんな居場所にしたい? みんなが考える居場所</p>	<p>② なにをする? ここで「できること」はなあに?</p>
	<p>③ 必要なもの・お金 これがないとはじまらない! (人材・物・資金・情報)や計画(日・場所・関係者・目的・手段等)</p>

「やりたいこと」を書き出すことで、するべきことが明確になり、運営する自信にもつながります。

## 「やりたいこと」を書くときのポイント

- 「実現できるかどうか」を考えず、ありのままの想いを書く。
- 思いついた順番に書く。
- 想いの中心となるもの、達成できたものにチェック  をする。

(例)  こどもの頃に食べたカレーを、地域の子どもたちと一緒に食べたい  
 「鬼ごっこ」や「缶けり」を子どもたちに知ってほしい、伝えたい

## 2 「こどもの居場所」について調べる

「居場所」の目的や内容は、それぞれの団体によって違います。自分たちのやりたいこと、目的に合った「居場所」を見学してみましょう。

また、アポイントを取って運営者に質問・相談をしたり、ボランティアスタッフとして参加することで、自分たちのやりたい「居場所」のイメージを固めていきましょう。

< 運営者に質問・相談すること >

- (例)
- 「居場所」をはじめたきっかけ
  - やってみて気づいたこと
  - 活動を継続するコツ
  - 参加している子ども・家庭との関わり
  - 食物アレルギーや食中毒などを起こさないために気をつけていることなど

※「居場所」を実際に運営されている方への相談を希望される場合は、「こどもの居場所」相談窓口(P23)まで。内容や地域性を考慮の上、登録アドバイザーを紹介させていただきます。

## 3 具体的なプランを考える

あなたがイメージする「こどもの居場所」について、仲間に相談したり、地域や子ども・家庭のニーズを調べながら、いつ、どこで、どのくらいの規模で、など具体的にプランを書き出してみましょう。

### プランシート(例)

団体名	
活動の内容 (コンセプト)	こども食堂、学習支援、多世代交流、居場所、プレーパークなど
参加者	来てもらいたい人は？
開催頻度 日時	来てもらいたい人が参加しやすい？ 週・月 回 (第 月・火・水・木・金・土・日曜日) 時 分 から 時 分 まで
開催場所	来やすい？
参加費の有無	何のために使うのか？
スタッフ	運営には何人必要？

#### 目的に合ったネーミング

団体や活動の名称は、自由に決めてよいものですが、活動の内容や思いが分かりやすく伝わるよう、例えば、食事を提供する場合は名称に「食堂」を入れているところが多いです。

また、対象者をこどもに限定せず、多世代交流を目的にしている場合、あえて「こども」を入れていないところもあります。

#### 参加費の設定

こどもは無料で利用できるところが多いです。大人から参加費を徴収する場合でも、あらかじめ何に使うのか、話し合っておきましょう。

## 4 活動の実践事例

地域で「居場所」づくりを実践されている運営者の方に、お話を伺いました。是非活動のヒントにしてください。

## 「居場所」の名称：クレエール子ども食堂

- 開催日  
平日毎日と第4土曜日  
(日曜、祝日に農業体験にでかけることもあり)
- 開催場所  
施設名：万代クレエール  
住所：徳島市万代町5丁目71-4
- 内容  
食事の提供、学習支援、地域交流の場、食育体験(農業体験・漁業体験)、コンサートなど
- 参加費  
子ども無料(高校生まで。大学生はボランティア参加の場合無料) / 大人 500円



### Q1 どのような居場所ですか？

小さい子どもから障がいのある人や高齢の方まで、様々な方が来店されます。ご飯を一緒に食べて遊んで、交流ができる居場所です。

### Q2 活動を始めた経緯を教えてください。

元々は障がいのある人の働く施設として始め、恩返しの場として子ども食堂を始めました。

### Q3 資金や仲間、スタッフはどうやって集めましたか？

クレエールの活動に興味を持ってきてくれた人達が、支えています。場所はもとも飲食店をしていた所を利用しています。

### Q4 居場所を運営する上で、気をつけていること、心がけていることを教えてください。

利用する皆さんが居心地の良い、また来たいと思える居場所を心がけています。個人情報や提供する食事の衛生管理に注意しています。

### Q5 これから居場所づくりを始めたい方に向けて、一言お願いします！

居場所づくりは人のつながりが大事だと思っています。それぞれの居場所のスタッフ間や、近くの居場所同士で協力しながら開催しましょう。また、自分たちで手に余るようなことがあれば、行政や専門機関に相談して協力を求めながら運営していきましょう。

## 「居場所」の名称：フリースペースわれもこう

- 開催日  
毎週水曜・木曜日
- 開催場所  
施設名：旧牟岐小学校  
住所：徳島県海部郡牟岐町中村本村14



● 内容

学校に行きづらいこども・若者向けのフリースペース

● 参加費

無料

Q1 どのような居場所ですか？

学校に行きづらいこどもや、通信制の高校生等が安心して過ごし、自信と選択肢を広げることを目的とした居場所です。繋がり、学び、多様な経験の3つを届けることを大切にしています。

Q2 活動を始めた経緯を教えてください。

代表自身の原体験や、地域で出会ったこどもたちの声から、「学校や家庭以外にも、安心できる場所が必要だ」と感じたことがきっかけです。人口の少ない地域だからこそ、声が届きにくいこどもたちがいると感じ、活動を始めました。

Q3 資金や仲間、スタッフはどうやって集めましたか？

最初は他団体の事業として位置づけていただき、助成金や会計面のサポートを受けながら活動を始めました。スタッフは一人ずつ声をかけて関わってもらい、その方が声をかけてくださったり、メディアなどで認知度が上がったりする中で、少しずつ仲間が増えていきました。場所についても、公民館や民間施設をお借りしながら、最終的には地域の方のご協力により、廃校施設をお借りできるようになりました。

Q4 居場所を運営する上で、気をつけていること、心がけていることを教えてください。

こどもたちの「よき伴走者」でありたいと思っています。そのために、こどもたちの声を丁寧に聴き、「なんでもいいよ」と任せきりにするのではなく、一緒に考え、選び、決めていく関わりを心がけています。そのすべての前提として、こどもたちがここの人だったら信頼できるな、安心できる場所だなと思える関係と空間づくりも大事にしています。

Q5 これから居場所づくりを始めたい方に向けて、一言お願いします！

最初から立派な居場所でなくて大丈夫です。小さく始めて、悩みながらも、迷いながらも、続けていくことが、こどもたちにとっての安心につながっていくと感じています。

「こどもの居場所」共創フォーラムの開催

令和7年11月には、「こどもの居場所」共創フォーラムを開催し、県内の多様な「こどもの居場所」の活動報告をして頂いたとともに、「こどもの声」を起点とした「未来の居場所」についてグループディスカッションを行いました。ここで寄せられた様々なアイデアや意見についても、是非取組の参考として、ご活用ください。

<R7.11.14> 「こどもの居場所」共創フォーラム開催報告

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kenko/kosodateshien/7307325/>



## 第2章 夢をかたちにする事業計画

### ～ ヒト・モノ・カネ・バシヨの準備 ～

#### 1 仲間を集めよう

自分の想いに共感し、協力してくれる友人、知人を集めましょう。  
仲間が集まれば、きっと様々なアイデアが出てくるでしょう。  
みんなで一緒に考えていくことで、より具体的な活動計画を立てられます。


- 学生ボランティアの募集
- 地域の自治会などに声かけポスターやチラシ、
- ポスターやチラシ、SNSなどで募集
- とくしまボランティア推進センターの活用

<https://tokuvc.jp/>



※市町村社会福祉協議会のボランティアセンターでも相談が可能です。

ボランティアスタッフはどうやって集めているの？

 「居場所」づくりの先輩からのメッセージ

- 地域のボランティアの方が来てくれています。
- 参加者や見学に来た方など、興味を持ってくれた方にボランティアの案内をしています。

また、事前に説明会を開催するなど、ボランティアスタッフ間の関係づくりも大切です。

※事前説明会(例)

項目	内容	所要時間
アイスブレイク	スタッフ同士の関係性をつくる	20分
活動説明	「こどもの居場所」を開催する目的、活動内容を説明	10分
当日のスケジュール・役割分担	全体の流れと、それぞれの分担について説明	15分
連絡事項	当日準備する物などの連絡	5分

ボランティアスタッフとは、子どもたちに関わる際に留意する事項についても、あらかじめ共有しておくで安心です。(P29参照)

また、子どもがスタッフとして関わることで、子どもの声を反映した魅力的な「居場所」づくりが進みます。受付、遊びのリーダー、広報(SNS用写真選定など)、食事提供など、子どものやりたい気持ちに寄り添いながら、一緒につくっていきましょう。

## 2 持続可能な運営に向けて

### (1) 団体の体制を決める

「居場所」は、任意団体として活動されている場合が多いです。会則や団体名義の通帳等は、助成金の調達手続き等に必要な場合があるので、準備しておくで安心です。

- 会則の作成
- 団体の役員、構成員決定(名簿作成)
- 団体名義の通帳作成

### (2) 費用・資金を見積もる

必要な経費(費用)を試算して、各種助成金や資金調達などを組み合わせて検討しましょう。

- 開設経費 …… 備品購入費、修繕費、ホームページ作成費など
- 運営経費 …… 謝金・交通費、消耗品購入費、印刷費、保険料、会場賃借料など
- 助成金 …… 民間団体、行政など
- 寄付金等

#### 運営費はどうやって確保しているの?

活動を継続するために、資金の確保は大きな課題です。参加料だけで賄うのは難しいので、様々な助成金を活用したり、広く寄付を募ることも必要になります。



「居場所」づくりの先輩からのメッセージ

- 行政や民間団体などの助成金、個人や企業からの寄付金を活用しています。

### (3) 材料・食材の確保

楽しい時間やおいしい食事を提供するには、材料・食材の確保がポイントになります。

- 地域で調達
  - 農家から仕入れる
  - 商店で仕入れる
  - 信頼できるところから安全な食材を仕入れる
- 寄付・住民や企業、事業所などから提供
  - 地域の団体間で共同調達、利用
- 自家栽培

食材はどうやって確保しているの？



「居場所」づくりの先輩からのメッセージ

- 地域の生産者さんや企業、スーパー等から頂いたり、  
こどもたちの食育を兼ねて農業体験で野菜やお米を作ったりしています。

### (4) 場所を探す

立地、環境や広さ、賃借料をはじめ、開催頻度や時間帯に合わせて、利用できる場所を探しましょう。継続して運営していくためには、なるべく安価で利用できる場所を見つけられるとよいでしょう。

- 参加者が出かけやすい場所
  - こどもが歩いていける、迷わない、駐車場が確保できるなど
- 家賃、管理費
- 会場の設備（水道、電気、ガス等）、備品

居場所はどこで開催しているの？

地域の公民館やコミュニティセンター、社会福祉施設、飲食店（定休日や空き時間利用）や自宅開放等、様々な場所で開催されています。また、同じ場所で継続して開催することで、こどもや地域の方にとって馴染みのある「居場所」になる、というメリットがあります。

## (5) 開催場所のデザイン・レイアウト

条件に合った場所が決定したら、参加者やスタッフが使いやすい空間になるようなデザインを考え、レイアウトをしてみましょう。

- ☑ 人の動きを考えながら、レイアウト図を作成
- ☑ 机やイス等の配置（備品購入）
- ☑ 工事店等に発注（家主にも確認）



## 第3章 安心・安全の土台づくり（リスクマネジメント）

### ～事故やトラブルを防ぐために～

#### 1 衛生管理の徹底

##### こども食堂の場合

こども食堂を実施し、調理を行う場合は、所轄の保健所に届出等を行う必要があります。早い段階で所轄の保健所に相談し、食品衛生に関する一定の基準を満たすよう、準備をしましょう。

#### 届出の流れ

##### こども食堂の運営者

「こども食堂」一覧（徳島県ホームページ）への  
掲載依頼書を提出



##### 県こども家庭支援課

掲載要件を満たすものを  
「こども食堂一覧」「徳島県ホームページ」に掲載



##### こども食堂の運営者

「子ども食堂開設届」を  
開催場所の管轄保健所へ提出



##### 保健所

「子ども食堂開設届出書」の届出内容等を確認し、  
届を受理、衛生指導



##### こども食堂の運営者

こども食堂における食事提供開始

詳細はこちら(保健所の連絡先についてはP24参照)

徳島県内の「こども食堂」について

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kenko/kosodateshien/7204501/>



「こども食堂」一覧(徳島県ホームページ)への掲載要件

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/file/attachment/822257.pdf>



子ども食堂における食事提供行為について

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shokunoanzen/7204956/>



子ども食堂開設届出書

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/file/attachment/823015.pdf>



衛生的な  
身だしなみの  
ポイント

ここまでできたらカンペキ!  
理想的な身だしなみ

### あたま

- 髪は短く切るか、きちんと結わえる
- 帽子やスカーフで覆う場合は、髪はすべてしまう

### エプロン

- 調理のとき専用のユニフォーム、またはエプロンを着用し、毎回洗濯する



### マスク

- (盛り付けなどの最終工程では特に)口だけでなく、鼻もしっかり覆う

### 手指

- 爪は短く切り、マニキュアはしない
- 指輪、腕時計などははずす
- 必要に応じてビニール手袋を着用(手荒れや傷があるときは特に)

(出典) こども食堂あんしん手帖  
((一社)全国食支援活動協力会)

お互いに身だしなみをチェックし、  
しっかりと手洗いして調理にのぞみましょう!

衛生管理のチェックリストについては、31ページに整理をしています。

必ず確認の上、衛生管理を徹底しましょう。

## 2 安全・安心への配慮

「居場所」の運営には安全・安心への配慮が必要不可欠です。様々な状況に備えて、事前に対応マニュアルを準備しておきましょう。

(マニュアル例)

- 事故・けがの防止、対応
- 衛生管理(傷病、食中毒等)、感染症予防対策
- 危機管理、災害時の対応
- 個人情報保護
- 保健所や行政機関との連携(子どもや家庭からのSOSへの対応)
- ボランティアスタッフマニュアル

### ボランティア行事保険

ケガや事故、食中毒や感染症など、参加者やスタッフの万一の事態に備え、保険に加入しておくことはとても大切です。

保険(例)

- ボランティア行事用保険  
問合せ先：市町村社会福祉協議会(P24参照)
- 保険会社の傷害保険  
問合せ先：各保険会社  
・保険会社に相談し、保険料のほか、補償の範囲や内容を比較検討してみましょう。
- 総合食品賠償共済「あんしんフード君・スーパーあんしんフード君」  
[https://www.n-shokuei.jp/kyousai/anshin\\_food.html](https://www.n-shokuei.jp/kyousai/anshin_food.html)



出典(公社)日本食品衛生協会

## 緊急時の連絡リストの作成

事前に連絡リストを作成し、「居場所」の開催時に目立つ場所に貼っておくと、緊急時に落ち着いて対応ができます。(P32参照)

<リスト(例)>

名称	電話	住所
救急車		
医療機関		
保健所		
小学校		

(参考)厚生労働省「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について」(平成30年6月28日通知)

### 3 こどもの権利の擁護

こどもの居場所において、こどもの権利が守られることは当然の前提です。こども基本法や児童の権利に関する条約の内容などを踏まえ、居場所づくりに関わる大人が広く、こどもの権利について理解し、守っていくとともに、こども自身が、権利を侵害された時の対応方法を知るために、こどもの権利について学ぶ機会を設けることも大切です。

- 例えば：こどもたちのプライバシーを守ること

活動の様子だからと断りなく写真を撮ったり、SNSで紹介したりしないよう、十分に留意しましょう。



## 第4章 連携とネットワークづくり

### ～地域みんなで見守るために～

#### 1 地域のセーフティネットとして

居場所は、家庭や学校で見えにくい「こどものSOS」に気づける最前線です。

活動に参加する子どもの中には、様々な困難な状況にある子どももいるかもしれません。

「あれ?」と気になる会話や行動の背景には、子どもたちの悩みや不安が隠れていることもあります。

まずは周りの大人がこどもの気持ちを尊重してしっかりと受け止め、見守り、必要であれば専門機関につなぐことも考えましょう。

#### こどもの「あれ?」に気づく視点

##### 食べ物の取り方

- 持ち帰れる菓子などを大量に取るなどの様子に注意を払う
- 「きょうだいの分もいい?」と聞かれた時は、家庭環境を知るきっかけになる
- 食べ物の好き嫌いが激しく、食べられるものは大量に食べる

##### 服装・身なり

- いつも同じ服を着ている
- 季節やサイズがちぐはぐな服装をしている

##### スタッフとの関係

- 大人の顔色を過度にうかがい、気を許した大人には甘えて独り占めしたがる
- 知らない大人や子ども同士では攻撃的
- 心を許したスタッフの顔を見ると急に泣き出すなど不安定

##### 行 動

- 帰りたがらない
- 物をよく壊す、破壊行動が目立つ

## 気になる様子に気づいた後の対応

### 学習面のサポート

- 大人の手伝いが前提になっている宿題を手伝う
- 学校の授業についていけるように勉強を教える

### 着替えさせる工夫

- 1人に洋服を渡すのではなく、バザーを開いてみんなで一緒に分ける
- 汚れた洋服を着替えさせたい時は、どろんこ遊びをしてお風呂に入る、プールに入るなど、遊びと一緒に着替えのチャンスをつくる

### スタッフ間で共有

- 気がついたことがあれば、スタッフ間で共有する
- 専門機関などのつなぐ先を考えておく

(出典) ども食堂あんしん手帖 ((一社)全国食支援活動協力会)

## 共有すること・つなぐことも大切です

こどもの様子で気になることがあったり、相談されたりしたときは、スタッフ間で共有し、場合によっては専門機関などにつなぐようにしましょう。

### 地域で頼りになる人・専門機関の例

- 学校や園の先生
- 町会・自治会
- 市町村の子ども家庭センター
- PTA
- スクールカウンセラー
- 民生委員・児童委員(主任児童委員)
- スクールソーシャルワーカー

(出典・参考) ども食堂あんしん手帖 ((一社)全国食支援活動協力会)

## 「あれ?」と気になるこどもの会話や行動に、どうやって対応しているの?



### 「居場所」づくりの先輩からのメッセージ

- 危ないことや、他の人がいやがることをしないように声かけをしています。挨拶やよい言葉遣いができるように、スタッフがお手本となっています。
- よくこどもの話を聴いて、気になる場合は関係機関へつないでいます。
- 刃物や火を使っているので、危ない行動に対して注意するだけでなく、危ない理由を子ども目線で伝えて、理解を促しています。

## 2 地域への周知と活動への理解促進

「こどもの居場所」を継続していくためには、地域の方々の理解や協力を得ることが大切です。活動の目的や内容などについて、チラシを準備するなどして丁寧に説明を行っていきましょう。

また、より多くのこどもに「居場所」の情報を届けたい場合は、周知について自治会や役場など、地域の関係機関に相談をすると、協力を得られる場合も有ります。

### <周知のポイント>

- 居場所の魅力が伝わるよう、特徴や開設のストーリーなども盛り込みましょう。

### <周知の方法例>

- 自治会の回覧板等での呼びかけ
- 公民館、図書館、商店等にポスター、チラシの掲示依頼
- 学校、幼稚園、保育所にチラシ等を配布依頼
- 看板や登りの設置
- SNSによる広報
- 民生委員・児童委員や友人に周知協力を依頼

### どうやったらこどもたちが来てくれるの？

必ずしも、多くのこどもが集まる方が良い状態であるとは限りません。大切なことは、参加する一人ひとりのこどもが、安全・安心に過ごせていることです。「居場所」の活動目的や、参加するこどもの様子を見ながら、運営の方向性について仲間と話し合ってみてください。



### 「居場所」づくりの先輩からのメッセージ

- SNSを活用して周知をしています。
- 近隣の学校、幼稚園、保育所、児童館などにお知らせしています。

## 第5章 活動の振り返りと「強み」の発見

### ～ より良い居場所へアップデート ～

#### 1 活動の振り返り

活動にあたっては、様々なトラブルが起こる可能性もあります。

トラブル対応についてあらかじめ考えておくとともに、生じたトラブルへの対応については、スタッフ間で情報共有し、話し合い、対応をアップデートしていくことを心がけましょう。

(振り返り例)

- 参加者が少ない →再度周知、必要であれば、開催日時や内容の再検討
- 内装や設備のトラブル →使用方法等について確認・共有、定期的なメンテナンス
- クレーム対応 →事案について共有し、今後の対応策を検討
- スタッフとの関係性 →スタッフミーティングを実施し、円滑なコミュニケーションを図る
- ケガ等 →事案について共有し、再発防止に向けて安全管理や事故対応マニュアルの見直しをする。

#### 2 居場所の「強み」の発見

「こどもの居場所」の目的や活動内容は多様であり、活動方法に一つの「正解」があるわけではありません。

一方で、継続して活動していくためには、日々の「居場所」づくりについて、振り返り、今後どのように取り組んでいくのかを考えることも大切です。

そこで、「具体的にどのような観点から振り返ればよいのか」を考えるヒントとして、国の各種ツールを組み合わせ、運営する居場所の「強み」を振り返るリストを作成しました。(P35参照)

リストの各項目で、該当する箇所に○をつけてみてください。自分たちの居場所の「強み」が見えてくると思います。是非参考にしてください。

(参考) 令和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業／基礎自治体や中間支援組織等による住民主体の活動を促進するための手法に関する調査研究事業／生活支援コーディネーターが「住民のやる気を支える支援の手引き」(一社)全国食支援活動協会)／令和6年度子ども・子育て支援推進調査研究事業／こどもの居場所づくりに関する評価及び検証についての調査研究((株)野村総合研究所)

## 【振り返りリストの活用イメージ】

振り返りリストはアドバイザーとして他の運営者に助言する場合や、居場所のスタッフ同士で、対話しながら使用することもできます。



**スタッフ** フリースペースを始めてから、半年が立ちましたね

**運営者** 手伝ってくれるみんなのおかげ!本当にありがたいわ

**スタッフ** この辺りは、放課後に子どもが気軽に立ち寄れる場所がなかったので、こういう「居場所」ができたことはすごいですよ!

**運営者** 子どもが来てくれるのか、最初は分からないまま始めたけど、この前もよく来る子が「友達と遊べる場所ができてうれしい」って、言ってくれたわ

**スタッフ** 半年経ってみて、どうですか?

**運営者** この前、保護者の方が、「子どもが安心して過ごせる場所ができて嬉しい」って言うてくれたんです。そのとき、子育ての悩みも打ち明けてくれて。私は自由に過ごせる場所を提供しているだけなんだけど、少しずつ、子どもも大人も集える場所になり始めてきたのかなって感じています。

**スタッフ** この「居場所」が、地域に根付いてきたってことですよ。子どもだけでなく、大人も安心できる「寄りそいの場」になってきているということですよ。あと、何か困っていることはありますか?

**運営者** 最近、子どもから「宿題を教えて」って聞かれることも多いんだけど、私も分からなくて。誰か、勉強を教えてくれる人がいるといいなって思うんだけど、そんなボランティアの方っているのかな

**スタッフ** 隣の市だと、子ども食堂に高校生がボランティアとして参加しているって聞いてますよ。一度、その運営者の方に、お話聞いてみませんか?

**運営者** ぜひ!どうやって学生ボランティアの参加につながったのか、参考にしたいです

(参考) 令和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 基礎自治体や中間支援組織等による住民主体の活動を促進するための手法に関する調査研究事業 生活支援コーディネーターが「住民のやる気を支える支援の手引き」((一社)全国食支援活動協力会)

## 【振り返りリストの活用イメージ】

それぞれの「居場所」の「強み」について、定期的に考えることで活動を振り返ってみましょう。

		振り返り欄		
		開設 R7年 4月 1日	R7年 10月 1日	
<b>※ このシートの使い方 ※</b> 居場所の「強み」を定期的に確認し、活動をブラッシュアップするヒントとして活用してください。				
こどもの最善の利益	1	こどもを大切にし、尊重している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2	こどもにとって安全・安心な居場所である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3	こどもの多様な個性・特性・ニーズに配慮している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	4	こどもの意見を聴き、こどもも主体となって居場所をつくっている		
地域性・課題解決性	1	心配なこども・家庭を気にかける目が増え、見守りの体制ができている		
	2	孤立しているこども・家庭を減らすことができている		
	3	地域に安心感を生み出している		<input type="radio"/>
	4	地域に活気を生み出している		
	5	潜在的な地域課題を発見している		
	6	地域の多様な関係者と協力・連携している		<input type="radio"/>
開放性・展開性	1	誰でも担い手として参加できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2	誰でも参加できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3	多世代の交流ができている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	4	多様な人・団体との連携により、新たな活動が生まれている		
	5	新たな団体や活動が地域に広がっている		
継続性	1	運営を担う人材が育成できている		
	2	運営の仕組みや体制が整備されている		
	3	継続のための資源(場・資金・備品など)が調達できている		
	4	様々な機関と連携し情報を得ることができている		
	5	参加者や地域からの信頼を得ることができている		

【地域に安心感を生み出している】  
↓保護者の「安心の場」になっている。

【地域の多様な関係者と協力・連携している】  
↓学生ボランティアの参加を呼びかけている。

(参考) 令和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業／基礎自治体や中間支援組織等による住民主体の活動を促進するための手法に関する調査研究事業／生活支援コーディネーターが「住民のやる気を支える支援の手引き」((一社)全国食支援活動協力会)

## 第6章 よくある質問

会社に勤めながらも「こどもの居場所」づくりでできることはありますか？

- 生業を持ちながら、「こどもの居場所」づくりに関わっている人は多くいます。近所で開催している「居場所」にボランティアとして参加すること、食材や物資の寄付なども大変ありがたい支援です。
- もし自身で「居場所」を運営する場合、まずは月1回程度など、無理のない範囲で始めてみてはどうでしょうか。子どもたちのために、長く続けられることが大切です。

一人でも「こどもの居場所」を運営できますか？

- 不可能ではないですが、「居場所」の運営には活動計画の作成や準備、当日の運営等、様々な作業があります。また、子どもにとっても、関わる大人が多いほど、「居場所」の多様さが担保されます。ぜひ、想いを共有し、一緒に活動する仲間を集めてみてはどうでしょうか。

他の居場所はどのように運営しているのか等、情報交換したい場合にはどうすればいいですか？

- 色々な規模で、「こどもの居場所」同士の情報交換を行ったり、活動をしている団体があります。

認定NPO法人徳島子ども食堂ネットワーク  
<https://tokushimakodomo-network.com/>



認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ  
<https://musubie.org/>



「こどもの居場所」に何か支援をしたいが、どうすればいいですか。

- 寄付をはじめ、食材や物資の提供、活動場所や物資保管場所の提供、運送の手助け、スタッフとして関わる等、支援の在り方は様々です。

認定NPO法人徳島子ども食堂ネットワーク  
<https://tokushimakodomo-network.com/>



(社福) 徳島県社会福祉協議会  
<https://t-ibasyo.com/>



## 第7章 相談窓口・参考資料

### 1 相談窓口

	所 属 名	電話番号
こどもの居場所に関する相談	徳島県子ども未来部子ども家庭支援課	088-621-2715
こどもの居場所づくり担当課	徳島市子ども政策課	088-621-5240
	鳴門市子育て支援課	088-684-1537
	小松島市子育て応援課	0885-32-2114
	阿南市地域共生推進課	0884-22-3440
	吉野川市子ども家庭センター	0883-22-2267
	阿波市子ども家庭センター	0883-36-6820
	美馬市子ども家庭センター（子どもすこやか課内）	0883-52-2333
	三好市子育て支援課（子ども家庭センターぱれっと）	0883-72-7666
	勝浦町福祉課	0885-42-1502
	上勝町住民課	0885-46-0111
	佐那河内村健康福祉課	088-679-2971
	石井町子ども家庭センター	088-674-1623
	神山町健康福祉課	088-676-1114
	那賀町すこやか子育て課（本庁舎）	0884-62-1150
	牟岐町住民福祉課	0884-72-3416
	美波町福祉課	0884-77-3614
	海陽町子どもあゆみ保健課	0884-73-4313
	松茂町子ども家庭センター（児童福祉分野）	088-678-2926
	北島町子ども家庭センター（子育て支援課）	088-678-6161
	藍住町福祉課	088-637-3114
板野町子ども家庭総合支援センター	088-672-3454	
上板町民生児童課	088-694-6811	
つるぎ町福祉課	0883-62-3116	
東みよし町福祉課	0883-82-6306	
団体設立、助成金に関する相談	とくしま県民活動プラザ	088-664-8211

	所 属 名	電話番号
食品衛生に関する相談	徳島保健所	088-652-5151
	阿南保健所	0884-22-0072
	美波保健所	0884-74-7343
	吉野川保健所	0883-24-1114
	美馬保健所	0883-52-1017
	三好保健所	0883-72-1122
ボランティア活動等に関する相談	とくしまボランティア推進センター	088-664-8211
地域福祉に関する相談 (ボランティア保険の相談) にも応じています	徳島県社会福祉協議会	088-654-4461
	徳島市社会福祉協議会	088-625-4356
	鳴門市社会福祉協議会	088-685-7170
	小松島市社会福祉協議会	0885-33-2255
	阿南市社会福祉協議会	0884-23-7288
	吉野川市社会福祉協議会	0883-22-2740
	阿波市社会福祉協議会	0883-36-5511
	美馬市社会福祉協議会	0883-53-7432
	三好市社会福祉協議会	0883-72-5715
	勝浦町社会福祉協議会	0885-42-4652
	上勝町社会福祉協議会	0885-46-0919
	佐那河内村社会福祉協議会	088-679-2304
	石井町社会福祉協議会	088-674-0139
	神山町社会福祉協議会	088-676-1166
	松茂町社会福祉協議会	088-699-5352
	北島町社会福祉協議会	088-698-8910
	藍住町社会福祉協議会	088-692-9951
	板野町社会福祉協議会	088-672-0051
	上板町社会福祉協議会	088-694-6155
	那賀町社会福祉協議会	0884-64-0026
	美波町社会福祉協議会	0884-77-0342
	牟岐町社会福祉協議会	0884-72-1151
	海陽町社会福祉協議会	0884-73-1980
	つるぎ町社会福祉協議会	0883-62-5073
東みよし町社会福祉協議会	0883-82-6309	

## 2 参考情報

### (1) 徳島県内の取組について

徳島県「こどもの居場所」づくりについて

(徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン)

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kenko/kosodateshien/7305703/>



徳島県内の「こども食堂」について

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kenko/kosodateshien/7204501/>



とくしま「子どもの居場所づくり」応援サイト

徳島県社会福祉協議会ホームページ

<https://t-ibasyo.com/>



認定NPO法人徳島こども食堂ネットワーク

<https://tokushimakodomo-network.com/>



徳島こども食堂ナビ

<https://tkn-navi.com/>



### (2) 食品の衛生管理について

子ども食堂の皆様へ～安全な食事を提供するための注意点について  
徳島県ホームページ

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kurashi/shokunoanzen/7210147/>



子ども食堂における衛生管理のポイント

厚生労働省ホームページ

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_00381.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00381.html)



家庭でできる食中毒予防の6つのポイント

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/dl/point0709.pdf>



できていますか?衛生的な手洗い

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinzenbu/0000097251.pdf>



冬は特にご注意ください!ノロウイルスによる食中毒

厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinzenbu/0000182906.pdf>



ノロウイルスに関するQ&A

厚生労働省ホームページ

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)



HACCPの考え方に基づく衛生管理のための手引書（小規模な一般飲食店事業者向け）  
厚生労働省ホームページ  
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzentu/0000179542.pdf>



### (3) 食物アレルギー対策について

学校給食における食物アレルギー対応について  
文部科学省ホームページ  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/syokuiku/1355536.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1355536.htm)



外食等におけるアレルゲン情報の提供の在り方検討会情報  
消費者庁ホームページ  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/food\\_labeling/other/review\\_meeting\\_004/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/other/review_meeting_004/)



### (4) 誤嚥・窒息事故対策について

食品による子どもの窒息・誤嚥(ごえん)事故に注意!  
一気管支炎や肺炎を起こすおそれも、硬い豆やナッツ類等は5歳以下の子どもには食べさせないで  
消費者庁ホームページ  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/caution/caution\\_047/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/)



教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン  
こども家庭庁ホームページ  
<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/effort/guideline>



児童福祉施設等における食事の提供について  
こども家庭庁ホームページ  
<https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/jidoufukukshi-eiyou>



### (5) こどもの権利について

こどもの権利条約  
法務省ホームページ  
[https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04\\_00118.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00118.html)



こども基本法  
こども家庭庁ホームページ  
<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo-kihon>



児童の権利に関する条約  
こども家庭庁ホームページ  
<https://www.cfa.go.jp/policies/international/convention>



### (6) こどもに対する性暴力防止

こども性暴力防止法（学校設置者等及び民間教育保育等事業者による  
児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律）  
こども家庭庁ホームページ  
<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety/efforts/koseibouhou>



## 第8章 巻末資料

### 巻末資料ワークシート

#### みんなで描く「居場所」のキャンバス ～みんなの「やってみたい」をカタチにする未来地図～

このシートは、こどもも交えて、みんなで「どんな居場所にしたい？」を話し合うワークシートです。付箋紙に記入して、模造紙に貼り付けてみましょう。

### キャンバスのレイアウト構成

#### ① どんな居場所にしたい？(みんなが考える居場所)

- ここをどんな場所にしたい？
- ここに来ると、どんな気持ちになれる？

記入の  
ヒント

「〇〇食堂」などの名前 「おなかいっぱいになれる場所」  
「だれでも遊べる場所」 合言葉(キャッチコピー)

#### ② なにををする？(ここで「できること」はなあに?)

こどもと考えてみよう ▶ 自分にできることはある?(受付、配膳、片付け)  
ゲームを考える

記入の  
ヒント

みんなでご飯を食べる(メニューは?) 宿題をする  
外で思いっきり遊ぶ ゲーム大会をする だらだらする

#### ③ 必要なもの・お金(これがないと始まらない!)

- 場所(どこでやる?)
- 材料(野菜、お米、文房具)
- 道具(鍋、お皿、机、ボール)
- お金(どうやって集める?)

こどもと考えてみよう ▶ 家にあるものを使えるかな?  
近所のお店にお願いしてみる?

## グループワークの進め方(例)

### 1. 準備

模造紙にキャンパスのレイアウト枠を書き、ペンとふせんを用意する。  
お菓子や飲み物を用意するとリラックスした雰囲気。

### 2. 発散 (だす)

「やりたいこと」「食べたいもの」を自由にふせんに書いて貼っていく。  
「できないかも」とは言わずに、まずは全部出す!

### 3. 収束 (まとめる)

似ている意見を集めたり、特にやりたいことを話し合っ決めてたりする。

### 4. 役割分担 (きめる)

「名前はどれにする?」「材料は誰が準備する?」と、  
こどもも含めて役割を決める。

### 5. 共有 (みせる)

完成したキャンパスを共有する。定期的に見直して、  
「これはできたね!」「次はこれをやろう」と振り返りに使用する。

## みんなで描く「居場所」のキャンパス(例)

### ① どんな居場所にしたい?

みんなが考える居場所

### ② なにをする?

ここで「できること」はなあに?

### ③ 必要なもの・お金

これがないとはじまらない!  
(人材・物・資金・情報)や計画(日・場所・関係者・目的・手段等)

## 〇〇〇食堂 ボランティアスタッフの約束ごと(例)

- スタッフや子どもたちには、はっきりとあいさつをしましょう。
- 故意に、子どもたち(男女問わず)の身体を触らないようにしましょう。(鬼ごっこなど、遊びの中での自然な関わりは含みません)
- 個人的に、携帯番号やメール、ラインの番号やアドレス等は、聞いたり教えたりしないようにしましょう。
- 「男の子だから」や「女の子なのに」など、性別での決めつけに繋がるような言葉は使わないようにしましょう。
- アレルギーがある場合もあるため、個人的に食べ物を渡すのは控えましょう。
- スタッフ間や参加者などへの金銭の貸し借りや授受はしないでください。
- 子どもたちへの暴言や暴力と捉えられる行為はしないでください。
- 子どもたちが自己肯定感を持てるような声かけを心がけましょう。
- こどもの傍でいきなり大きな声を出さないでください。
- 施設外で、故意に個人的に子どもたちに接触しないでください。
- いつも汚れた服を着ている、お腹を空かせているなど、こどもの様子で「あれ?」と気になる場合は、スタッフ間で情報を共有してください。
- こどもにしつこく家庭のことを聞くのはやめましょう。自分から話して来る場合は、静かに否定せずに聞きましょう。必要であればスタッフ間で共有してください。
- 施設内でこどもから聞いた話や、個人を特定しての話は、他の場所で他言しないでください。

以上のことを守って、ボランティアスタッフとして活動します。

年 月 日

氏 名 \_\_\_\_\_

連絡先 \_\_\_\_\_

(参考)子ども食堂あんしん手帖((一社)全国食支援活動協会)を元に作成

## 事業計画・収支予算書(例)

**解説** 第1章の「プランシート」と、第2章の「費用・資金を見積もる」を統合したものです。助成金申請等の準備として、活用してください。

### 事業計画

項目	記入内容・計画
団体名	
代表者職氏名	
団体所在地	
団体の目的及び趣旨	
活動概要	
実施体制(スタッフ数等)	
開催場所	
開催日時・頻度	毎月第( ) ( ) 曜日 / 時間 : ~ :
対象者 1回あたりの参加予定人数	(例) 子ども20名、大人10名
参加費	子ども:( ) 円 / 大人:( ) 円

### 収支予算(1回あたり/または月間)

収入の部	金額(円)	備考(積算根拠)
参加費収入		@ 円 × 人
助成金収入		〇〇財団助成金
寄付金		
自己資金		
収入合計(A)		

支出の部	金額(円)	備考(積算根拠)
食材費		@ 円 × 食
会場使用料		
保険料		
消耗品費		
印刷製本費		
支出合計(B)		
収支差引(A-B)		

# 衛生管理のチェックリスト

実施日： 年 月 日 / 記入責任者： \_\_\_\_\_

## 調理前に行うこと

- 01 調理施設は清掃や整理整頓を行いましたか？
- 02 トイレは清掃、消毒を行いましたか？
- 03 調理担当者は、下痢・嘔吐の症状があるなど体調不良ではありませんか？また、手指の傷などはありませんか？
- 04 エプロンや三角巾、必要に応じてマスクなど、清潔な作業着を身につけましたか？
- 05 手洗い、消毒を行いましたか？また、子どもが調理に参加する場合は、手洗い、消毒を徹底させましたか？
- 06 原材料は、仕入れ時に鮮度、賞味期限等を確認し、1回で使い切る量を仕入れましたか？
- 07 献立や食材の仕入先・仕入れ時間の記録（レシートなど）は保管しましたか？
- 08 仕入れた食品は冷蔵庫や冷凍庫で保管していますか（冷えていないなどの異常はありませんか）？また、生肉や鮮魚介類などの食品は他の食品を汚染しないよう、冷蔵庫の最下段に区別して保管しましたか？
- 09 お年寄り、幼児、妊婦などの抵抗力が弱い方が食べる場合、メニューに生ものは入っていませんか？

## 調理中に行うこと

- 10 魚介類、野菜・果物は流水で良く洗いましたか？
- 11 別の食材を調理する場合は、手洗い、消毒を行いましたか？また、手洗いの際、調理器具についても、洗剤で洗浄してから使いましたか？
- 12 食品（特に肉類）は、中心部までよく加熱（中心温度75度で1分間以上、二枚貝等ノロウイルス汚染の恐れのある食品の場合は、85℃～90℃で90秒間以上）しましたか？
- 13 生の食材を扱う調理器具と加熱済みの食品に使用する調理器具は専用のものを使用しましたか？専用のものがない場合は、よく洗剤で洗浄してから、使いましたか？

## 調理が終わった後に確認すること

- 14 調理後は時間を置かずに提供しましたか？
- 15 調理済み食品について、調理後直ちに提供される食品以外の食品は、食中毒菌の増殖を抑制するために、10℃以下または65℃以上で管理しましたか？

（出典）厚生労働省「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について」（平成30年6月28日通知）  
厚生労働省「大量調理施設衛生管理マニュアルの改正について」（平成29年6月16日通知）

## 緊急時の連絡リスト(例)

事前に連絡リストを作成し、「居場所」の開催時に目立つ場所に貼っておくと、緊急時に落ち着いて対応ができます。

まずは、開催場所の情報を落ち着いて相手に伝えてください。

施設名 \_\_\_\_\_ 例：〇〇公民館

住所 \_\_\_\_\_ 千 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

AED設置場所 \_\_\_\_\_ 例：1階玄関ホール横

	名称	電話	住所
消防・救急		119	
医療機関			
管轄保健所			
小学校			

(参考) 厚生労働省「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について」(平成30年6月28日通知)

## 開催前のリハーサル時のチェックポイント

居場所のコンセプトや実施内容に合わせてタイムスケジュールやチェックリストを作成し、調理担当者、ボランティアスタッフの役割など、時間ごとに何を行うかを、決めておきましょう。

また、開催当日に慌てないように、全体のリハーサルを行いましょう。問題点が見つかったら、すぐに修正や改善をしましょう。

### チェックポイント

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 受付               | <input type="checkbox"/> ボランティアスタッフの対応<br>(調理スタッフ・学習スタッフ等の役割) |
| <input type="checkbox"/> テーブル・イスの位置やレイアウト | <input type="checkbox"/> 各種保険                                 |
| <input type="checkbox"/> 動きやすさ            | <input type="checkbox"/> 駐車場・駐輪場                              |
| <input type="checkbox"/> 調理にかかる時間(こども食堂)  | <input type="checkbox"/> 収納                                   |
| <input type="checkbox"/> 食材納品(こども食堂)      | <input type="checkbox"/> 騒音                                   |
| <input type="checkbox"/> 最終試作・試食(こども食堂)   | <input type="checkbox"/> 周知(HP・チラシなど)                         |
| <input type="checkbox"/> 食器類・調理器具(こども食堂)  | <input type="checkbox"/> その他( )                               |
| <input type="checkbox"/> エアコン等の内装・設備      |   |

### 備品・消耗品リスト(案)

#### キッチン(こども食堂)

- ガスコンロ
- 冷蔵庫
- 電子レンジ・オープン
- 炊飯器
- 調理器具
- 食器
- ふきん・タオル
- 消毒用ハンドソープ
- 消毒用アルコール
- 洗剤
- スポンジ
- 水切り
- エプロン
- 手袋
- ヘアカバー
- ゴミ箱
- その他( )
- 緊急時連絡票
- 衛生管理のチェックリスト

#### インテリア

- 机
- イス
- 照明
- 冷暖房設備
- 音響・映像設備
- 時計
- 看板
- 感染症予防対策設備
- その他  
( )

#### トイレ・衛生関係

- トイレットペーパー
- アルコール消毒
- ハンドソープ
- トイレ掃除用具
- ごみ箱
- その他( )
- 次亜塩素酸ナトリウム

#### 掃除用具

- ほうき・ちりとり
- ぞうきん・モップ
- ごみ箱
- ゴミ袋
- その他( )

#### 受付

- 筆記用具
- 伝票・領収書
- 参加者名簿記入表
- 食品衛生責任者修了証書  
(こども食堂)
- 営業許可証(こども食堂)
- パソコン
- 電話
- おつり
- ごみ箱
- アルコール消毒・体温計
- その他( )

## 開催当日のチェックポイント

リハーサルでの修正・改善点をチェックしながら、いよいよ開催です。  
開催前には、近隣へのあいさつに行きましょう。

### チェックポイント

- 受付（必要な物品など）
- テーブル・イスの位置やレイアウト
- 衛生管理
- 食材納品（こども食堂）
- 食器類・調理器具（こども食堂）
- エアコン等の内装・設備
- ボランティアスタッフの対応（調理スタッフ・学習スタッフ等の役割）
- 駐車場・駐輪場
- 収納
- 騒音
- 周知（HP・チラシなど）
- その他（            ）

### 当日の流れ(例)

- 8:30      構成員集合
- 9:00      スタッフ集合
- 9:30      全体での打ち合わせ
- 10:00     会場準備（こども食堂：調理開始）
- 11:00     受付開始
- 12:00     居場所実施
- 14:00     居場所終了
- 14:30     片付け
- 15:00     スタッフミーティング（振り返り）
- 15:30     スタッフ解散
- 16:00     構成員解散

## 「居場所」の「強み」振り返り リスト

※ このシートの使い方 ※ 居場所の「強み」を定期的を確認し、 活動をブラッシュアップするヒントとして活用してください。		振り返り欄		
		年 月 日	年 月 日	
こどもの最善の利益	1	こどもを大切にし、尊重している		
	2	こどもにとって安全・安心な居場所である		
	3	こどもの多様な個性・特性・ニーズに配慮している		
	4	こどもの意見を聴き、こどもも主体となって居場所をつくっている		
地域性・課題解決性	1	心配なこども・家庭を気にかける目が増え、見守りの体制ができている		
	2	孤立しているこども・家庭を減らすことができている		
	3	地域に安心感を生み出している		
	4	地域に活気を生み出している		
	5	潜在的な地域課題を発見している		
	6	地域の多様な関係者と協力・連携している		
開放性・展開性	1	誰でも担い手として参加できる		
	2	誰でも参加できる		
	3	多世代の交流ができている		
	4	多様な人・団体との連携により、新たな活動が生まれている		
	5	新たな団体や活動が地域に広がっている		
継続性	1	運営を担う人材が育成できている		
	2	運営の仕組みや体制が整備されている		
	3	継続のための資源（場・資金・備品など）が調達できている		
	4	様々な機関と連携し情報を得ることができている		
	5	参加者や地域からの信頼を得ることができている		

## 徳島県「こどもの居場所」づくりガイドブック

～「こどもまんなか」で「居たい・行きたい・やってみたい」を育む～

令和8年3月発行

**発行** 徳島県こども未来部こども家庭支援課

**監修** 国立大学法人鳴門教育大学大学院 木村 直子 准教授  
四国大学生生活科学部健康栄養学科 辻 博子 准教授

**協力** 一般財団法人全国食支援活動協力会

**ネットワーク化に取り組むこども食堂運営者・中間支援団体の方々（順不同）**

特定非営利活動法人Creer、特定非営利活動法人みずすまし、  
あなんひまわりっこの会、西部こども食堂の会、ぱくぱくみよっこ、  
板野町いきいき子ども食堂、鴨島こどもの居場所ネットワーク、  
中部こども食堂の会、特定非営利活動法人YOU&ゆう、  
認定特定非営利活動法人徳島こども食堂ネットワーク

**活動事例報告** 一般社団法人うみのこてらす

**問合せ先** 徳島県こども未来部こども家庭支援課  
088-621-2715